岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第393集

飯崗才川遺跡第3次発掘調査報告書

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査

盛 市

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査

本県には旧石器時代や縄文時代をはじめとする9,000カ所に及ぶ数多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されています。これら先人の残した遺跡・文化財を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、盛岡南新都市開発整備事業を例にあげるまでもなく、地域開発に伴う社会資本の充実もまた重要な一施策であります。特にも道路網の整備、工業立地環境整備、生活空間に係る環境整備など、多岐にわたる整備開発事業の推進は、多方面から大きな期待を寄せられているところであります。

このような各種の開発と調和した埋蔵文化財の保護・保存は今日的課題であり、当 岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターを創設以来、岩手県教育委員会の指導 と調整のもとに、開発に伴い止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存す る措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡市が進めている盛岡南新都市開発整備事業の施行に関連して平成 12年度に発掘調査された飯岡才川遺跡に対する第3次調査の結果を収録したもので あります。

当開発事業は盛岡市現市街地の南西部に隣接する313へクタールに及ぶ広大な面積を対象とした都市開発整備事業であり、当事業に係る埋蔵文化財に対する発掘調査は平成5年度から実施され今日に継続されております。

当報告書に掲載しました飯岡才川遺跡は、面積的には狭い範囲ですが、平安時代9世紀前半代の須恵器を大量に出土した大型竪穴住居跡の存在や倉庫と推測される複数の掘立柱建物跡など多くの貴重な発見がありました。さらに、遺跡の範囲は周辺に拡大する様相を示しており、今回の範囲は大規模な遺跡の一部であることを推測することができました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心を一層深める一助となることを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力・ご援助を賜りました盛岡市都市整備部、地域振興整備公団岩手総合開発事務所、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し衷心より感謝申し上げます。

平成13年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団 理事長 村 上 勝 治

例 言

- 1 本報告書は、岩手県盛岡市飯岡新田2地割110-1ほかに所在する飯岡才川遺跡に対する第3次調査の結 果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、岩手県教育委員会と盛岡市との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団が担当し た。
- 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はLE16-2291、発掘調査時の略号はISW-00-03である。 3

4 発掘調査面積は1,582㎡であり、発掘調査期間と調査担当者は次のとおりである。

発掘調査期間

平成12年7月17日~11月29日

調查担当者

文化財専門調査員

中田 迪、千葉正彦

期限付専門職員

鈴木 聡、島原弘征、吉田里和

5 室内整理期間と整理担当者は次のとおりである。

室内整理期間 平成12年11月1日~平成13年3月31日

整理担当者

中田 迪、千葉正彦、高橋與右衛門、鈴木聡、島原弘征

- 6 本報告書の執筆は、整理担当者が協議の上分担して執筆した。
- 7 委託機関は次のとおりである。

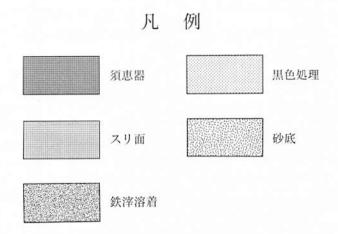
基準点測量

東日本測量設計株式会社

空中写真撮影

東邦航空株式会社

- 8 発掘調査や室内整理・報告書の執筆にあたり、次の方や機関からご指導・ご協力をいただいた。 工藤清泰(浪岡町教育委員会)、伊藤博幸(水沢市埋蔵文化財調査センター)、八木光則(盛岡市教育委 員会)、地域振興整備公団岩手総合開発事務所、盛岡市教育委員会
- 9 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。



目 次

序 例言

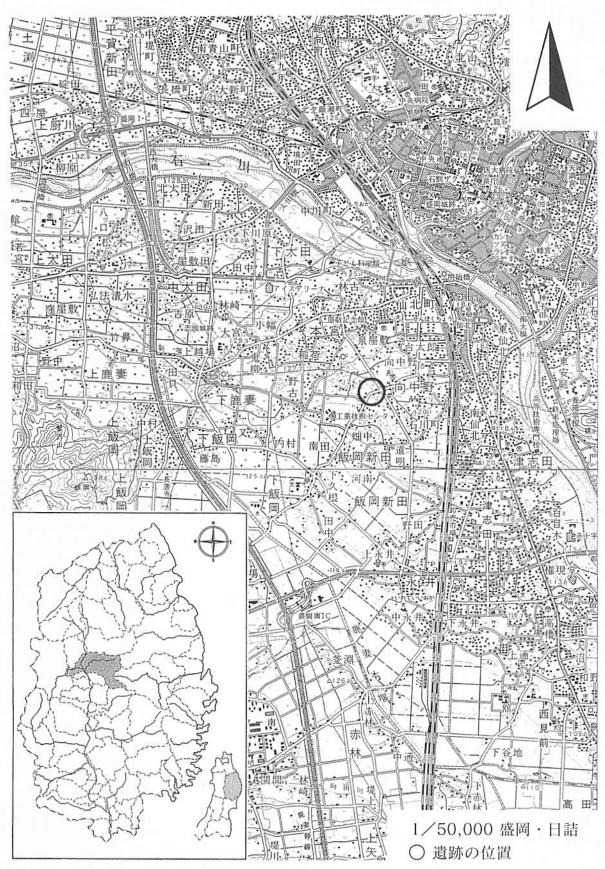
<本 文>

I 調査に至る経過2	5. 陥し穴状遺構56
II 遺跡の立地と環境2	6. 池状遺構57
1. 位置と地形2	7. 溝跡58
2. 地質と基本層序4	8. 円形周溝遺構63
3. 周辺の遺跡6	9. 土壙墓66
Ⅲ 野外調査と整理の方法]]	10. 柱穴状土坑68
1. 野外調査11	11. 遺構外の出土遺物68
2. 室内整理13	V まとめ108
IV 検出された遺構と出土遺物15	1. 遺構108
1. 竪穴住居跡15	2. 遺物108
2. 住居跡状遺構36	3. 遺跡109
3. 掘立柱建物跡39	報告書抄録161
4. 土坑44	職員名簿162
	•
< 1	長 >
·	•
第 1 表 周辺の遺跡一覧 ······8 第 2 表 柱穴状土坑計測表 ·······98	第3表 遺物観察表101
第 2 表 柱穴状土坑計測表98	1
/ 1578	u= \
<図	版>
第 1 図 遺跡の位置1	第22図 RB04掘立柱建物跡42
第2図 調査範囲と周辺の地形3	第23図 RB05掘立柱建物跡43
第3図 地形分類図4	第24図 RD05~22土坑50
第 4 図 基本土層5	第25図 R D 23~40土坑55
第 5 図 周辺の遺跡位置7	第26図 R Z 03池跡58
第 6 図 グリッド配置図12	第27図 RG09·11~13溝跡59
第 7 図 - 遺構配置図14	第28図 RG14~17溝跡62
第 8 図 R A 01竪穴住居跡 (1) ······16	第29図 R Z 01 · 02円形周溝 ·······64
第 9 図 R A 01 竪穴住居跡 (2)17	第30図 R Z 04~06土壙墓67
第10図 RA02竪穴住居跡19	第31図 遺構内出土遺物 (1)69
第11図 RA03竪穴住居跡21	第32図 遺構内出土遺物 (2)70
第12図 RA04竪穴住居跡23	第33図 遺構内出土遺物 (3)71
第13図 RA05竪穴住居跡 (1)25	第34図 遺構内出土遺物 (4)72
第14図 R A 05竪穴住居跡 (2)······26	第35図 遺構内出土遺物 (5)73
第15図 RA05竪穴住居跡 (3)·····27	第36図 遺構内出土遺物 (6)74
第16図 RA06・07竪穴住居跡 (1) …30	第37図 遺構内出土遺物 (7)75
第17図 RA06・07竪穴住居跡 (2) …31	第38図 遺構内出土遺物 (8)76
第18図 R A 08竪穴住居跡34	第39図 遺構内出土遺物 (9)77
第19図 RE01~04住居跡状遺構37	第40図 遺構内出土遺物 (10)78
第20図 RB02掘立柱建物跡40	第41図 遺構内出土遺物 (11)79
第21図 R B 03掘立柱建物跡41	第42図 遺構内出土遺物 (12)80

第43図	遺構内出土遺物	(13)	81	第52図	遺構内出土遺物	(22)90
第44図	遺構内出土遺物	(14)	82	第53図	遺構内出土遺物	(23)91
第45図	遺構内出土遺物	(15)	83	第54図	遗構内出土遺物	(24)92
第46図	遺構内出土遺物	(16)	84	第55図	遺構内出土遺物	(25)93
第47図	遺構内出土遺物	(17)	85	第56図	遺構内出土遺物	(26)94
第48図	遺構内出土遺物	(18)	86	第57図	遺構内出土遺物	(27)95
第49図	遺構内出土遺物	(19)	87	第58図	遺構内出土遺物	(28)96
第50図	遺構内出土遺物	(20)	88	第59図	遺構外出土遺物	97
第51図	遺構内出土遺物	(21)	89	付図	柱穴状土坑配置	×

<写真図版>

写真図版 1	遺跡遠景・近景、基本層序 …113	写真図版25	RG16 ·	17、柱	穴状土坑…137
写真図版2	RA01 ·····114	写真図版26	出土遺物	(1)	138
写真図版3	R A 02 ·····115	写真図版27	出土遺物	(2)	139
写真図版4	RA03 ·····116	写真図版28	出土遺物	(3)	140
写真図版5	RA04 ·····117	写真図版29	出土遺物	(4)	141
写真図版6	RA05 (1)118	写真図版30	出土遺物	(5)	142
写真図版7	RA05 (2) ·····119	写真図版31	出上遺物	(6)	143
写真図版8	R A 06 ·····120	写真図版32	出土遺物	(7)	144
写真図版 9	R A 06 · 07 ·····121	写真図版33	出土遺物	(8)	145
写真図版10	R A 08 ·····122	写真図版34	出土遺物	(9)	146
写真図版11	R E 01~04·····123	写真図版35	出土遺物	(10)	147
写真図版12	R B02~04·····124	写真図版36	出土遺物	(11)	148
写真図版13	R B 05 ·····125	写真図版37	出土遺物	(12)	149
写真図版14	R D05~07······126	写真図版38	出土遺物	(13)	150
写真図版15	R D08~11 ·····127	写真図版39	出土遺物	(14)	151
写真図版16	R D12~18·····128	写真図版40	出土遺物	(15)	152
写真図版17	R D20~24·····129	写真図版41	出土遺物	(16)	153
写真図版18	R D25~27、29 ·····130	写真図版42	出土遺物	(17)	154
写真図版19	R D30~33·····131	写真図版43	出土遺物	(18)	155
写真図版20	RZ06, RD37, RZ01 ·····132	写真図版44	出土遺物	(19)	156
写真図版21	R Z01 · 02 ·····133	写真図版45	出土遺物	(20)	157
写真図版22	R Z 03 · 04 ·····134	写真図版46	出土遺物	(21)	158
写真図版23	R Z 05、 R G 09~11 ······135	写真図版47	出土遺物	(22)	159
写真図版24	RG11~15136	写真図版48	出土遺物	(23)	160



第1図 遺跡の位置

Ⅰ 調査に至る経過

盛岡南新都市開発整備事業は、盛岡市が来るべき21世紀に向けて、経済・文化などに対する核機能を兼ね備えた東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に南部地区を新市街地として開発し、両者が機能的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村(現盛岡市)の三者が、地域振興整備公団に対して事業要請を行い、これを受けた公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施認可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間を事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に関わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、盛岡市 教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は(財)岩手県文化振興事業団の 受託事業とすることとなった。

当遺跡についても、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成12年度の事業とすることが確定したことを受け、平成12年4月3日に(財)岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長の間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなり、当遺跡は平成12年7月17日に調査を開始し同年11月29日に終了した。

報告書作成に係る室内整理は平成12年度の冬期間に実施し、報告書は平成13年度に刊行することとした。

II 遺跡の立地と環境

1. 位置と地形 (第1・2・3回、写真図版1)

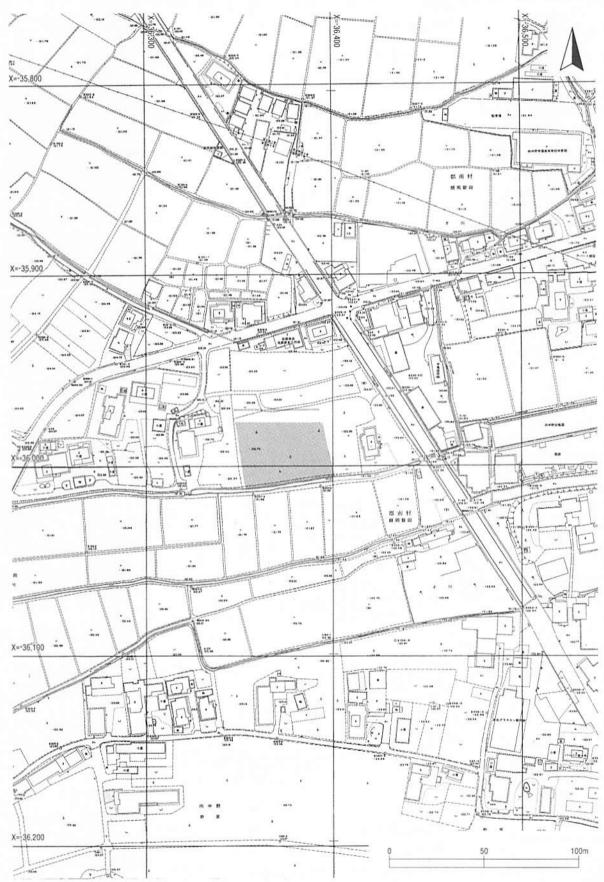
〈地理的な環境〉

当遺跡の所在する盛岡市は、総面積489.15km²、人工283,000人、人工密度14.10人/km²の岩手県庁所在地であり、奥羽山脈からの雫石川、北上山地からの中津川が合流し岩手県を南北に貫流する北上川中流域北端付近に位置する。北上川は市域の中央部を支流の雫石川・中津川・簗川等と合流しつつ南流し宮城県石巻市で太平洋に注ぐ。市域を形成する盛岡盆地は、北西の岩手山(2,038m)・北東の姫神山(1,124m)・南東の早池峰山(1,913m)といった山稜に囲まれている。

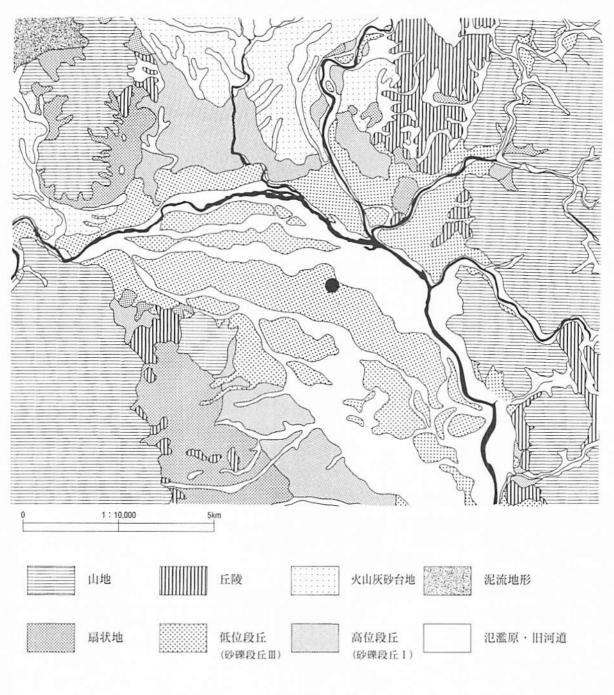
本遺跡は盛岡市飯岡新田2地割110-1ほかに所在し、国土地理院発行の1:50,000地形図「盛岡」NJ-54-13-14-2 (盛岡14号-2) の図幅に含まれる北緯39°40′52″、東経141°08′00″付近、東日本旅客鉄道東北線仙北町駅の西南西約1.5kmの雫石川右岸の微高地上に立地する。調査区は東西44~47m・南北30~34mの略台形状範囲で、調査面積は1,582㎡である。標高は約122~123m、現況は畑地である。

〈地形的な環境〉

零石川以南・北上川以西には、零石川の下刻・堆積作用により上位から順に「砂礫段丘」」・「同日」・「同日」の沖積段丘面が形成されている。低位の「砂礫段丘田面」には零石川の河道変遷に伴い大きく4期にわたる河道変遷が確認されており、古代においてもかかる河道の変化は頻繁であった。文献資料に依れば、志波城は雫石川の水害が原因で徳丹城に移転したとされ、志波城の北辺部が雫石川の旧河道によって削られ消失していることが発掘調査によって確認されている。さらに、小河川の河道痕跡が網目状に入り組み、小規模な自然堤防状の微高地を形成しており、当遺跡を含む古代遺跡の多くはこうした自然堤防状の微高地に立地する。一方、北上川以東では様相を異にし、古墳~平安時代の遺跡は少なく縄文時代の遺跡が卓越する。



第2図 調査範囲と周辺の地形



第3図 地形分類図

2. 地質と基本層序 (第4回、写真図版1)

本遺跡の立地する低位段丘(砂礫段丘III)の堆積物は、雫石川の堆積作用により構成されており、水成堆積の砂礫層を基盤としてその上位を同様に水成堆積によるシルト層が覆うことを基本とするが、今時調査区でも概ね同様の堆積状況を示すことが判明した。

調査開始当初に設定した試掘トレンチの土層観察をもとにして設定した当遺跡の基本層を以下のようであ

るが、調査に際しては、下記の層序区分によって遺構精査・遺物の取り上げを行った。

I a層 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まりとも若干あり。現表土で畑耕作土。

【 b 層 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱く締まりあり。細礫混在、本層まで草根到達する。

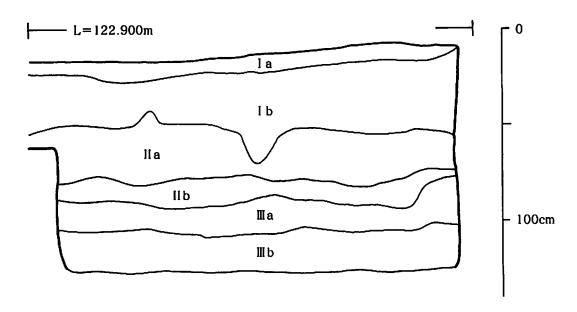
II a 層 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締まりとも若干あり。黒褐色土塊が約3%混入。

II b 層 10YR2/3 黒褐色シルト 若干粘性あり、締まりは弱い。

Ⅲa層 10YR4/3 鈍い黄褐砂質色シルト。粘性・締まりとも弱い。ほとんどの遺構はこの上面で検出。

□ b層 10YR4/6褐色シルト。粘性・締まりとも強い。IV層の段丘滎層の面が一様で無いため層厚が地点により大きく異なる。縄文時代と推測される遺構が剣士湯津される場合がある。

IV 層 10YR4/6鈍い褐色の砂層〜砂礫層。段丘礫層であり、基盤層を構成する。この層で検出される遺構はまったく無い。



第4図 基本十層

前述のとおり調査区が東西南北ともほぼ同じ方形に近い範囲であることから、各地点とも堆積状況に大差が無く全体として大同小異ということが出来る。

調査区の南は1mほど低い水田面であることから元来沢もしくは小川跡と推測され、当遺跡の土層堆積には平石川のみではなくこの小川の影響によることも推測される。また、集落の近郊であり削平・攪乱の痕跡も多く観察されることは、現表土が浅いことの要因であろうことも留意する必要がある。

当遺跡で検出された遺構のほとんどはⅢ層であるが、縄文時代の陥し穴状遺構はⅣ層で検出されたことから、古代までの遺構はⅢ層、それより古い遺構はⅣ層での検出となろうか。

3. 周辺の遺跡 (第5図)

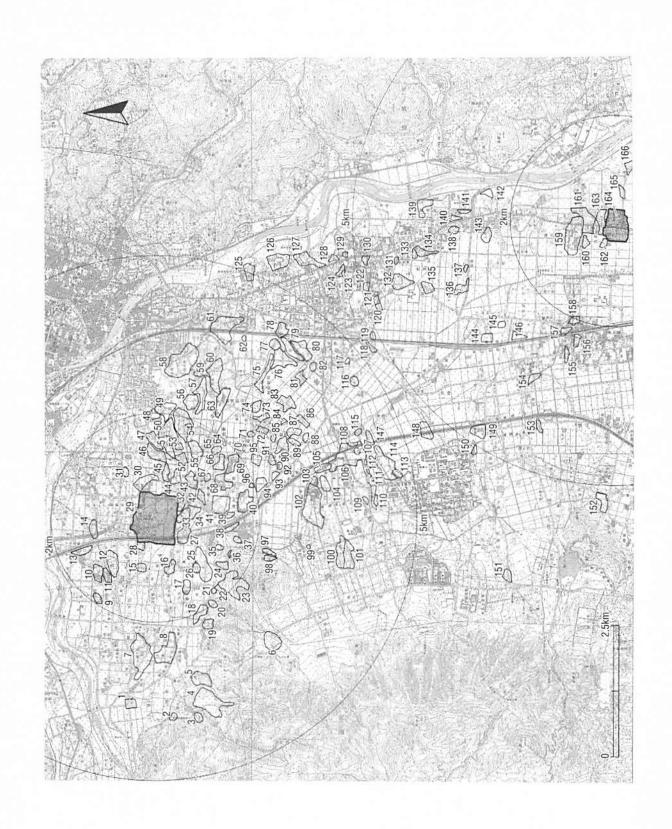
平成12年度の遺跡登録台帳によると、盛岡市内に約500箇所、南隣の矢巾町には約150箇所の遺跡が登載されているが、本項ではそれらの中から北上川以西、雫石以南に所在し、当遺跡の主体的な時期である古代に属し、かつ発掘調査された遺跡に限定して概観することとする。図示したのは、盛岡市南西部の太田・飯岡(北半部)・羽場地区及び飯岡(南半部)地区~矢巾町徳田付近までの166遺跡である。前者は志波城、後者は徳丹城という城柵官衙遺跡が所在する地域である。

既述のとおり、雫石以南、北上川以西の氾濫平野には自然堤防上や微高地上に古墳時代~古代の遺跡が数多く立地するものの、弥生時代や縄文時代の遺跡は疎らである。図示した二つの同心円はそれぞれ志波城と徳丹城からの直線距離を示す。志波城(22)は延暦22年(803年)頃、志波城から替わった徳丹城(164)は弘仁4年(813年)頃に創建された平安時代初~前期の官衙跡であるが、両城と取り巻く同時代の遺跡群との間には強い有機的な関連を推測させるが、現在の遺跡分布状況からはそれを完全に読み取ることは出来ない。

まず志波城を中心とする盛岡市南西部~太田・飯岡 (北半部)・羽場地区について見る。当該範囲で、志波城に先行する古墳~奈良時代の遺跡は、集落跡として台太郎 (58)、八卦 (14)、西鹿渡 (126)、本宮熊堂 B (49)、野古A (54)、飯岡才川 (57)、飯岡沢田 (56)、等、墳墓としては太田蝦夷森古墳群 (7)、高館古墳 (36)、飯岡才川 (57)、飯岡沢田 (56) などが上げられるが、全体としては疎らな分布を示す。平安時代では遺跡数が急増し、志波城2km圏内では志波城造営前後の遺跡群-集落跡の松ノ木 (10)、太田館 (11)、竹花前 (27)、林崎 (30)、小幅 (46)、鬼柳A (51) 等が分布している。一方5km圏内では台太郎、本宮熊堂B、飯岡才川 (57)、飯岡沢田 (56)、向中野館 (59)、細谷地 (60)、南仙北 (61)、飯岡林崎 (94) などの集落が分布している。ここでは紙幅の関係で個々の詳細を羅列しないが、松の木、太田館、台太郎、細谷地遺跡等で住居跡が高密度で検出される一方、飯岡林崎日遺跡では円面硯が出土しており、官衙との関連が窺われる。また、該期の葬制に関わると推測される周溝状遺構 (円形・方形) は、台太郎、小幅、飯岡才川、飯岡沢田、湯沢B [現在は下湯沢 (108) に統合] で検出されている。

一方、盛岡市の飯岡地区(南半部)から矢巾町徳田地区の範囲では、低位段丘である「都南段丘」上に、徳丹城をはじめとする古代の遺跡群が占地している。奈良時代では、集落跡である百目木(127)、60基以上の終末期古墳を検出した墳墓群の藤沢狄森古墳群(159)等が上げられる。平安時代の遺跡は多数存在しており、図幅では百目木、館畑(163)、宮田(149)、一本松(147)、下赤林(144)等、平安時代中~後半期-徳丹城遺営以降の遺跡群がある。館畑は徳丹城東方に隣接する遺跡であり、平成10年度の調査では竪穴住居跡から「別将」と墨書された須退器坏が出土しているし、徳丹城の平成12年度の調査では、範囲外ながら徳丹城と北上川とを連結する週河「津」と推測される溝が発見されている。

本遺跡は志波城の東約2kmに位置しており、周辺には、東:向中野館、西:矢盛(63)、南:細谷地、北:飯岡沢田等、四方を奈良~平安時代の墳墓群や集落跡に取り囲まれた中に所在し、特に現時点では未調査であるが、当遺跡の北端部には大規模な墳墓群と集落跡の存在が試掘調査で明らかにされており、今後当地区の遺跡が発掘調査されることにより、当地域のみならず紫波郡~岩手郡における古代の様相が明確になっていくものと推測される。



第5図 周辺の遺跡位置

第1表 周辺の遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	時代	遺橋・城主など	備考·文献番号
1	三枚橋	盛岡市	古代	土師器、剥片	MH-22 X PIX FIF 73
2	田面野木	盛岡市	和文·古代	- 調文上器·土師器	
3	上猪去	盛岡市	和文~中世	受穴住居跡(株文)、土坑、道物包含号、科文土器、受穴状(平安)、土間容、担立柱建物(中世)	
4	上平	盛岡市	和文·古代	显文在县区(周之)、县立在建物、土坑、土器早级宣称、直物名分析、日文土器、办主土器、土部署	-
5	猪去館	盛岡市	縄文~中世	型大在展的情力、土坑、直转包含品、概文土容、海路、土部名、柱穴、根、系、根立柱柱机、土器	
6	大ケ森	盛岡市	和文·古代	和文土器、土師器	
7	太田蝦夷森古墳群	盛岡市	奈良	- 44 和文土器、土師器、玉、刀、和同阴环	
8	一本木	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器	
9	細田	盛岡市	平安	上師器	
	松ノ木	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土坑、土師器	
11	館(太田館)	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土坑、土師器、溝、堀、土師器、土塁	
12	上野屋敷	盛岡市	古代	上師器	
13	八ツロ	盛岡市	古代	北師器	
14	畑中	盛岡市	奈良·平安	竪穴住居跡、土坑、土師器	
16	五兵衛新田	盛岡市	古代	上師器	
17	天沼	盛岡市 盛岡市	古代	土師器 土師器	
18	<u> </u>	盛岡市	古代	上師器	
19	ニツ沢	盛岡市	和文·古代	100 100	
20	盤沢	盛岡市	和文·古代	柳文上級、上師器	
21	ヘビ堂	盛岡市	和文·古代	和文工部、工作部 和文土器、土 6 器	
22	山中	盛岡市	組文·古代	和文土器、土師器	
	オミ坂	盛岡市	和文·古代	和文土器、土師器	
24	月見山	盛岡市	和文·古代	和文土器、土師器	
25	中村	盛岡市	平安	上師器·須惠器	
26	竹鼻	盛岡市	古代	上師器	
27	竹花前	盛岡市	平安	竪穴住居跡、焼土、土師器、緑釉陶器、組立柱建物	
28	小沼	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器、緑釉陶器	
29	志波城(志和城)	盛岡市	平安		国指定史跡
30	林崎	盛岡市	平安	竪穴住居跡、掘立柱建物、土師器、須惠器	
31	田中	盛岡市	平安	上解器	-1
32	新規端	盛岡市	縄文·平安	柳文上器、土師器、竪穴住居跡、土坑、大湖	志波城指定地外
33	石仏	盛岡市	古代	型穴住居跡、土師器 土師器	
35	堤	盛岡市	和文·古代	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
36	高館古墳	盛岡市	奈良~平安	土師器、炭手刀、切子玉	盛岡市指定史跡
37	大柳川	盛岡市	古代?	上師器?	MI-MAINE XW
38	大柳 [盛岡市	古代	上師器・須忠器	
39	藤島 II	盛岡市	平安	土前器	
40	藤島]	盛岡市	縄文·古代	和文土器、土師器、須恵器	
41	让屋敷	盛岡市	古代	土師器	
42	上越場	盛岡市	古代	上師器	
43	水門	盛岡市	古代	上師器	
	大宮	盛岡市	古代·中世	竪穴住居跡、土師器	
	大宮北	盛岡市	古代	游跡、土師器	
46	小幅	盛岡市	平安	竪穴住居跡、掘立柱建物、土坑、土師器、須惠器	
47	宮沢	盛岡市	古代	游跡、土師器	
48	本宮旗堂A	盛岡市	和文·古代	和文土器、竪穴住居跡、陥し穴、土師器、消	
49	本宮熊堂B	盛岡市	和文·古代	概文主器、箱心穴、竪穴住居跡、超立柱建物、上坑、清跡、土師器 ※88.86 - 1.6万.89	
50	稲荷	盛岡市	古代		
51 52	鬼柳A 鬼柳B	盛岡市	古代	竪穴住居跡、溝跡、土師器 土師器	
53	鬼柳C	盛岡市	古代	土師器	
54	野古A	盛岡市	平安	上岬板 竪穴住居跡、土師器	
55	野古B	盛岡市	古代	上价器	
56		盛岡市	古代	竪穴住居跡、古墳、周游、土師器	
57	飯岡才川	盛岡市	平安	竪穴住居跡、揺立柱建物、土坑、消跡、土師器、須思器	
58	台太郎	盛岡市	奈良~近世	翌穴住居跡、思立柱建物、土坑、消跡、土鮮岛、須息呂、土壤草、内磁器	
59	向中野館	盛岡市	平安·中世	竪穴住居跡、土師器、堀跡、土塁	
60	細谷地	盛岡市	平安	竪穴住居跡、揺立柱建物、土坑消跡、土師器、須惠器	
61	南仙北	盛岡市	和文・平安	竪穴住居跡、土坑、土師器、縄文土器	

				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
62	向中野幅	所在地	古代	上師器	
63	矢盛	盛岡市	古代	上師器	
64	前田	盛岡市	古代	上師器	
65	西田B	盛岡市	古代	土師器、須恵器	
66	西田A	盛岡市	古代	上師器	
67	上越場B	盛岡市	古代	土師器	_
68	二又	盛岡市	平安	上	(二又 1・11を統合)
69	内村	盛岡市	平安	土師器	
	中屋敷	盛岡市	机文·古代	土師器	「三竹」を改称
70			古代		
71	高風敷!	盛岡市		ALASKIII	
72	高屋敷 11	盛岡市	古代	上師器、須基器	
73	下久根	盛岡市	古代	44文土器、土師器、須恵器	
74	石持	盛岡市	古代	土師器、須恵器	Plant and all
75	夕覚	盛岡市	古代	上師器	「畑中」改称
76	树 屈	盛岡市	古代	上師器、須恵器	
77	生畔	盛岡市	古代	上師器	
78	津志田	盛岡市	古代	淌跡、土師器	
79	脚引	盛岡市	古代		「津志田模屋」改称
80	長沼	盛岡市	古代		
81	- 基本	盛岡市	古代	土師器、磨製石斧	
82	境田	盗岡市	古代	上脚節、海及石片	
83	松岛	盛岡市	古代	土師器、須惠器	
84	下久根Ⅱ	盛岡市	古代	和文土器	
85	西	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器	
86	田中	盛岡市	平安	土師器、須惠器、打製石器、石斧	
87	熊堂Ⅱ	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器、須恵器	「南谷地」」改称
88	南谷地	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器、須惠器	「南谷地门」改称
89	旗堂田	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器、須惠器	
90	熊堂 [盛岡市	和文·占代	縄文土器、石器、上師器、竪穴住居跡	「西田」・「熊堂」を統合
91	深淵Ⅱ	盛岡市	平安	竪穴住居跡	地点変更
92	上新田	盛岡市	平安	竪穴住居跡、土師器	「上新田!!」改称
93	飯岡林崎!	盛岡市	平安	土師器	-TWITH ILLICAN
				<u> </u>	E blankte i "Na Sho
94	飯岡林崎	盛岡市	古代	竪穴住居跡、土師器、須惠器、硯	「林崎」改称
95	深淵(盛岡市	平安	竪穴住居跡	
	LE26-0102	盛岡市	古代	土師器	詳細位置不明
96	LE26-0073	盛岡市	平安	土師器、須恵器	
97	赤坂Ⅱ	盛岡市	平安?	土師器	「赤坂」に改称
98	1 20 .00		古代		「赤坂川」と同一?
	飯岡赤坂	盛岡市	Imil		「かなけって同一(
99	飯岡赤坂			小塚	「 か 収 II] と
99	飯岡赤坂 砂子塚	盛岡市	古代	小塚	· 亦双 II] C [ii] - ?
100	飯岡赤坂 砂子塚 木節	盛岡市 盛岡市	古代 平安	小塚	「が収Ⅱ」と同一:
100	飯岡赤坂 砂子塚 木節 福千代	盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良		
100 101 102	飯岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因幡	盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 縄文·古代	縄文土器、土師器、須惠器	「因幅」・川・田」を統合
100 101 102 103	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因幡 新井田 I	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代		
100 101 102 103 104	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因婦 新井田 I	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代	縄文土器、土師器、須恵器 土	
100 101 102 103 104 105	版	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 古代	縄文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器	「因幅】・川・田」を統合
100 101 102 103 104 105 106	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因婦 新井田 I 新井田 II	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 中安	縄文土器、土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 竪穴住房路、上坑溝、境上(窓路?)、上路器、須思器、尋詢園器	
100 101 102 103 104 105 106 107	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因婦 新井田 I 新井田 II 新田 下羽場 間渡	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 古代 平安	和文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、上坑、海、境上(窓路?)、上時器、須恵器、緑柏陶器 土師器	「因幅 · · 回 を統合 文献、「稲荷」を統合
100 101 102 103 104 105 106	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因婦 新井田 I 新井田 II	盛岡市 盛岡市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 金岡市市 金岡市市 金岡市市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 古代 平安 平安 代	縄文土器、土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 土師器、須思器 竪穴住房路、上坑溝、境上(窓路?)、上路器、須思器、尋詢園器	「因幅】・川・田」を統合
100 101 102 103 104 105 106 107	版岡赤坂 砂子塚 木節 福千代 因婦 新井田 I 新井田 II 新田 下羽場 間渡	盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市 盛岡市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 古代 平安	和文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、上坑、海、境上(窓路?)、上時器、須恵器、緑柏陶器 土師器	「因幅 · · 回 を統合 文献、「稲荷」を統合
100 101 102 103 104 105 106 107 108	版 网 赤 坂 砂 子 塚 木 節 本 節 千 代 因 婦 新 井 田 I 新 井 田 II 新 田 下 羽 場 間 渡 下 湯 沢 小 田 I	盛岡市 盛岡市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 金岡市市 金岡市市 金岡市市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 古代 平安 平安 代	 44(文土器、土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 豆穴住居路、北坑溝、填土(窓路?)、土鈴墨、須惠墨、緑柏陶器 土師器 竪穴住居路、土坑、門形周溝、方形周溝、土師器、須惠器 土師器 	「因幅 ・ ・回」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田皿」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109	飯岡赤坂 砂子塚 木が 福千代 因嫡 新井田 I 新井田 II 新田 下羽場 間渡 下周 II 小田 II 小田 II	盛岡市 盛岡市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市 盛岡市市市市市市市市市市	古代 平安 奈良 細文·古代 古代 平安 平安 代 平安 (、細文) 古代	縄文土器、土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 竪穴住居跡、上坑、鴻、東上(窓跡?)、土崎器、須惠器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、湖、東上(窓跡?)、土崎器、須恵器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、円形周淵、方形周淵、土師器、須恵器 土師器	「因幅 ・ ・II」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110	飯岡赤坂 砂子塚 木が 福千代 因嫡 新井田 II 新井田 II 新田 下羽場 間渡 下田 II 本子	盛岡市 盛岡市 盛岡市市 盛岡西市市 盛岡西市市 盛岡西市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	古代 平安 郊文·古代 古代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 (平安 (十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十	縄文土器、土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 土師器、須惠器 竪穴住居跡、上坑、海、東上(窓跡?)、上崎県、須恵県、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、川形周海、方形周海、土師器、須恵器 土師器 土師器	「因幅 ・ ・回」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田田」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109	飯岡赤坂 砂子塚 木が 福千代 因嫡 新井田 II 新州田 III 新田	盛岡市 ・	古代 平安 宛 文·古代 古代 中安 平安 代 平安 (・細文) 古代 平安 代 平安 代 平安 (・細文) 古代 中安 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、土坑、海、境上(窓跡?)、土崎県、須恵器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、円形周瀬、方形周海、土師器、須恵器 土師器 土師器	「因幅 ・ ・ 回 を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田皿」改称 「小田皿」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110	版岡赤坂 砂子塚 木が 福千代 因婦 新井田 II 新田 下羽場 間渡 下田 II 森子 川田 II 森子 川渡 田	盛岡市 ・	古代 平安 郊文·古代 古代 中安 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二 十二	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、土坑、海、境上(窓跡?)、土崎県、須恵器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、円形周海、方形周海、土師器、須恵器 土師器 土師器 土師器 土師器	「因幅 ・ ・回」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田皿」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111	「	盛岡市 ・	古代 平安 宛 文·古代 古代 平安 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古	 縄文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112	「	盛岡市市	古代 平安 和文 古代 古代 中安 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 中古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、土坑、海、境上(窓跡?)、土崎器、須恵器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、円形周溝、方形周溝、土師器、須恵器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師	「因幅 ・ ・ 回 を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田皿」改称 「小田皿」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112	版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 不 が	盛岡市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	古代 平安 宛以 古代 古代 中安 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 中古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 竪穴住居跡、土坑、海、境上(窓跡?)、土崎器、須恵器、緑柏陶器 土師器 竪穴住居跡、土坑、円形周溝、方形周溝、土師器、須恵器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115	版 の が	盛岡市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	古代 平安 宛以 古代 古代 平安 不安 不安 不安 不安 不安 不安 不安 不安 不安	和文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 豆穴住居跡、土坑、湖、東上(窓跡?)、上時器、須恵器、緑柏陶器 土 師器 生 師器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器 土 節器、須恵器	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116	版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 不 が	盛岡市 ・	古代 平安 和文代 古代 平安 和文代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 中古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 ・型穴住居跡、土坑、湖、東上(窓跡?)、上時器、須恵器、緑柏陶器 ・生師器 ・型穴住居跡、土坑、円形周瀬、方形周海、土師器、須恵器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117	版 の が	盛岡市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	古代 平安 和文代 古代 平安 和文代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 大 中古代 中 大 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	和文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 型穴住居跡、土坑、漁、境上(窓跡?)、土貸器、須恵器、緑粕陶器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器、須恵器	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116	版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 示 版 の 不 が	盛岡市 ・	古代 平安 和文代 古代 平安 和文代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 中古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 ・型穴住居跡、土坑、湖、東上(窓跡?)、上時器、須恵器、緑柏陶器 ・生師器 ・型穴住居跡、土坑、円形周瀬、方形周海、土師器、須恵器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117	版 の が	盛岡市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	古代 平安 和文代 古代 平安 和文代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 大 中古代 中 大 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代 古代	親文土器、土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器 ・型穴住居跡、土坑、漁、境上(窓跡?)、土崎器、須恵器、緑柏陶器 ・生師器 ・型穴住居跡、土坑、円形周瀬、方形周海、土師器、須恵器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師器 ・上師	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118	版 网	盛岡市市	古代 平安 郊(本) 本代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	和文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 型穴住居跡、土坑、漁、東上(窓跡?)、土貸署、須恵器、緑南陶器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器 土 師器、須恵器	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121	版 の が が が が が が が が が が が が が が が が が が	盛岡市市	古代 平安 郊(本) 本代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	和文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 型穴住居跡、土坑、漁、東上(窓跡?)、土貸署、須恵器、緑恵器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120	版 の が が が が が が が が が が が が が が が が が が	盛岡市市	古代 平安 郊(本) 本代 古代 平安 代 平安 代 平安 代 平安 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	和文土器、土師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 型穴住居跡、土坑、漁、東上(窓跡?)、土貸署、須恵器、緑南陶器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器、須恵器 土 師器 土 師器、須恵器	「因幅 ・ ・□」を統合 文献、「稲荷」を統合 「湯沢ABC」統合 「小田□」改称 「小田□」改称 「小田□」改称

104	T* 1.46	I side trest - 4-4	I Am I do		
124	下水井	盛岡市	縄文、古代	和文土器、	
125	碇坝	盛岡市	奈良	土師器、	
126	西庭渡	盛岡市	古代	竪穴住居跡(奈良・平安)、満跡、土師器、須恵器	
127	百日本	盛岡市	抑文·古代	科文上思、空穴住居路(奈良·平安)、湖豚、土坑、上野思、紅意思、土製品、鉄器	
128	中岛	盛岡市	古代	須	
129	三本柳铝	盛岡市	和文·古代	4 文土器、土師器	「韬」改称
130	高格B	盛岡市	古代	土師器	
131	和野	盛岡市	古代		
132	三百刈田	盛岡市	古代·中世	上前器	
133	見前中島	磁岡市	古代	土師器	
134	見前久保屈敷	盛岡市	机文· 中世	須惠智、打製石斧、建物跡(中世後半)、洞跡、土坑、柱穴群、陶磁器、古鉄	
135	見前館	盛岡市	古代	上師器、仏像	
136	下谷地	盛岡市	古代	土師器	
137	下谷地前	盛岡市	和文·古代	44. 44. 44. 44. 44. 44. 44. 44. 44. 44.	
138	上畑	盛岡市	古代	土師器、須恵器	·———
139	大桜前	磁岡市	古代	上師器	
140	石名坂	盛岡市	古代	土師器、須惠器	
141	見前	盛岡市	古代	上解器	
142	高田福	矢巾町	古代	土師器、須必器	
143	高田	矢巾町	古代	土師器、須惠器	
144	下赤林川	矢巾町	平安	土坑、土師器、須惠器(10世紀代?)	
145	下赤林丨	矢巾町	平安	竪穴住居跡(10c中~後半)、上師器、須思器	位置不明
146	茨坦	矢巾町	脚文·古代	土師器、須思器、縄文土器、弥生土器	
147	高畑	矢巾町	縄文·平安	土師器、須惠器、和文土器	
148	一本松	矢巾町	平安	竪穴住居(平安中~)、掘立柱建物、焼土、土師器	
	大渡野	矢巾町	和文·平安?	和文土器(早)、石斧、須忠器(周辺に窯跡?)	
150	宮田	矢巾町	机文・平安	竪穴住居跡(10c~11c初)、土師器、机文土器、石器	
151	天戸	矢巾町	平安	土師器獎、須惠器	
152	石切茶屋西方	矢巾町	古代	須惠器、石棒	
153	煙山工	矢巾町	古代	上師器	
154	上矢次丨	矢帅町	古代	土師器、須恵器	
155	下海老沼	矢巾町	和文·古代	机文土器、石器、土師器、須瓜器	
156	明堂	矢巾町	和文·古代	和文上器、土師器	
157	又兵術新川	矢巾町	平安	土帥器、須惠器	
158	南矢巾	矢帅町	古代	土師器	
159	狄森古墳	矢巾町	古代	古墳、土師器、須恵器、鉄鏃、切子玉、刀	
160	田郷	矢巾町	古代	土師器、須恵器、砥石、焼石	
161	自山堂	矢巾町	古代	上師器、須恵器	
162	西的	矢巾町	古代	上師器、須惠器	
163	節畑	矢巾町	古代	土師器、須惠器	
164	他丹城	矢巾町	平安	官衙跡/掘立柱建物、土師器、須惠器	
165	川村	矢巾町	古代		
166	下通	矢巾町	縄文·古代	44文上器、上師器	

参考文献

- ※ 以下では次のとおり略記する。
 - (財) 岩手県文化擬興事業団埋蔵文化財センター、(財) 岩手県埋蔵文化財センター →「岩手埋文」
 - (財) 岩手県文化摄興事業団埋蔵文化財調査報告書 →岩文振埋文調報、 教育委員会 →教委
- 1. 岩手埋文 1994 「矢盛遺跡第1次発掘調查報告書」岩文擬埋文調報第205集
- 2. 岩手埋文 1995 「本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書」岩文振埋文調報第226集
- 3. 岩手埋文 1996 「小知遺跡第2次発掘調査報告費」岩文振埋文調報第244集
- 4. 岩手埋文 1997 「小幅遺跡第4次発掘調查報告書」岩文振埋文調報第265集
- 5. 岩手埋文 1998 「小帽遺跡第5次・第7次発掘調查報告書」岩文振埋文調報第267集
- 6. 岩手理文 1998 「大宮北遺跡・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書」岩文根埋文調報第291集
- 7. 岩手埋文 1998 「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (平成9年度)」岩文振埋文調報第282集
- 8. 岩手埋文 1999 「本宮熊堂 B 遺跡第 4 次、鬼柳 A 遺跡第 4 次発掘調査報告書」岩文振埋文調報第308集
- 9. 岩手埋文 1999 「熊堂B遺跡第5次、台太郎遺跡第16次発掘調查報告書」岩文振埋文調報第293集
- 10. 岩手埋文 1999 「台太郎遺跡第15次発掘調査報告書」岩文抵埋文調報第309集
- 11. 岩手埋文 1999 「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (平成10年度)」岩文振埋文調報第311集
- 12. 岩手埋文 2000 「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成11年度)」岩文振埋文調報第340集
- 13. 岩手埋文 2000 「向中野館跡第3次・小幅遺跡第10次発掘調査報告書」岩文振埋文調報第338集
- 14. 岩手埋文 2000 「向中野館跡第4次・小福遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調查報告書」岩文振埋文調報第321集
- 15. 岩手県教委 1970 「上太田蝦夷森古墳 二報」
- 16. 岩手県教委 1979a「東北擬貫自動車道関係文化財調查報告書一 l ー」 岩手県文化財調査報告書第31集
- 17. 岩手県教委 1979b 「東北擬貫自動車道関係文化財調查報告書一日-」岩手県文化財調查報告書第32集
- 18. 岩手県教委 1979c「東北新幹級関係文化財調查報告書一田-」岩手県文化財調查報告書第35集
- 20. 都南村教委 1979 「岩手県紫波郡都南村 百目木遺跡-発掘調査報告書-」(岩手県)
- 21. 都南村教委 1981 「西鹿渡遺跡発掘調査報告書」(岩手県)
- 22. 矢中町教委 1986 『徳田遺跡群詳細分布調査報告書-藤沢狄沢古墳群の発掘調査-』矢中町文化財調査報告書第8集 (岩手県)
- 23. 矢巾町教委 1999 「藤沢狄沢古墳群ーアパート建設に伴う緊急発掘調査」矢巾町文化財調査報告書第23集 (岩手県)
- 24. 盛岡市教委 1969 「盛岡市上太田蝦夷森古墳」(岩手県)
- 25. 盛岡市教委 1981 「志波城跡 」 太田方八丁遺跡範開確認調査報告」(岩手県)
- 26. 盛岡市教委 1995 「志波城跡 平成元年度発掘調査顕報」(岩手県)
- 27. 盛岡市教委 1992 「館・松ノ木遺跡-古代の遺構編-」(岩手県)
- 28. 盛岡市教委 1995 「上平遺跡群 (猪去館・上平11遺跡) 平成4・5年度発掘調査展報』(岩手県)

Ⅲ 野外調査と整理の方法

1. 野外調査

(1) 調査区の設定と遺構の呼称

〔調査区の設定〕

調査区の設定は以下のとおりである (第6図)。

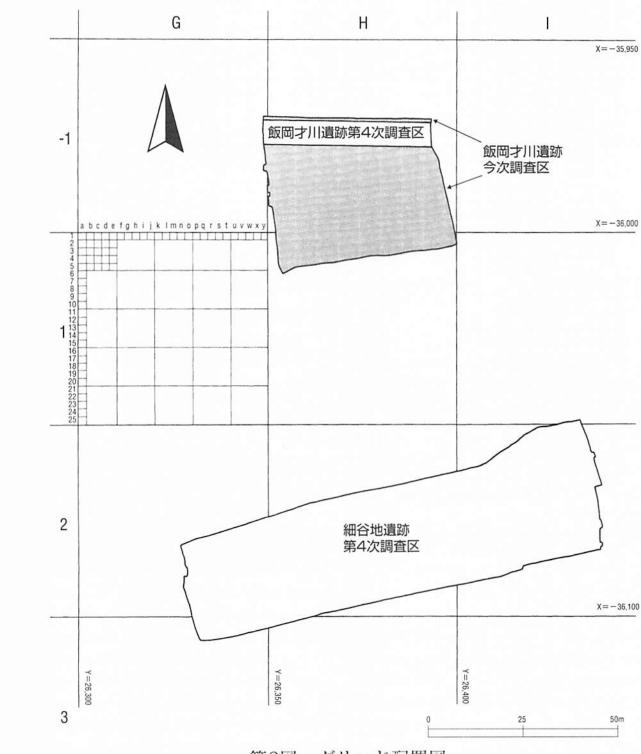
当遺跡の地形は、平坦な畑地で少面積で見通し可能のため、平面直角座標系第X系に基づいて調査座標を設定した。前述のとおり、今次調査区の南側には低位田面を挟んで細谷地遺跡が所在しており、便宜上、隣接する細谷地遺跡第3次調査と共通のグリッド(方眼)を設定することとした。具体には、平面直角座標系第X系のX=-36,000.000、Y=26,000.000を調査座標原点として50m×50mの大グリッドを設定し、北西隅を基点として東西方向にはアルファベットを東から順に、南北方向では南方向へ増加するように数字を付した。大グリッドの表示は両者を組合せて1A、5E、20H、25Y等と呼称する。今次調査区は概ね「-1H」および「1H」の大グリッド範囲内に収まっている。さらに大グリッドを東西・南北ともに25分割して2m×2mの小グリッド(625区両)に区割りした。小グリッドについても北西隅を基点に、東方向

にはa~yのアルファベット、南方向には1~25の数字を付した。小グリッドの呼称は、大グリッド名を付 して1H25y、-1H1a等と表示した。なお、調査区内に設置した基準点の座標値及び水準値は下記のと おりである。

基準点 1 X= 36,000.000 Y= 26,350.000 H= 122.773m

基準点 2 X = 36,000.000

Y = 26,390.000 H = 122.516m



第6図 グリッド配置図

(2) 粗掘りと遺構検出

調査開始時の地目が畑地のため雑物も無かったことから、地表面を簡単に消掃した後、試掘溝を設定し土の堆積状況、遺構の検出層位を確認する作業を進めた。その結果、地山而まで約30cm~50cmの深さがあり、 表土の薄い場所では耕作による攪乱が地山まで到達するが、さほど深い攪乱はないことが判明した。

試掘の結果に基づいて表土除去には重機を使用した。表土除去後は人手で清掃し遺構検出を行ったが、竪 穴住居跡等の遺構を比較的容易に検出することが出来た。

(3) 精査と実測

精査は、竪穴建物跡は4分法、他の土坑・陥し穴状遺構・柱穴状ピット・焼土は2分法で埋土の除去をし、 規模によって4分法と2分法を適宜使い分けた。

平面図は、グリッド軸に一致させた水糸を1mメッシュで地面に直接張る簡易選り方によって作成した。 断面図は上面に水平水糸を張って基線を設定して作成した。なお、レベルの数値は原則として整数cmで統一し、必要に応じて計測箇所を設けた。

縮尺は平面図・断面図とも20分の1としたが、必要に応じて10分の1も使用し適宜使い分けた。

基本層序の名称はローマ数字で上位から I・II 層、遺構埋土は算用数字で上位から1・2層とし、さらに細分される場合はアルファベットの小文字を付した。

(4) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、35mm版カメラ2台と6×7版1台、ポラロイド1台の4台をセットとして使用し、35mm版はモノクロとカラーリバーサに使い分け、6×7cm版の1台はモノクロ専用とし、ポラロイドは必要に応じ適宜撮影し、メモを写真に直接書き込むなどで使用した。

また、調査終了後の遺構配置や遺跡の地理的環境を把握するため、専門業者に委託して空中撮影を行った。 室内整理では、報告書掲載遺物の写真撮影は当センターの専任職員が撮影し、現像・焼き付けは外部に委託した。また、遺構写真の引き延ばしは外部に委託した。

2. 室内整理

(1) 遺物の整理

水洗記名の後、土師器と須恵器は接合・復元作業を行い、終了後は実測図を作成した。また、接合不能の 破片は、報告書に掲載を要する個体を選択し、実測個体と合わ台帳登録をし拓本図を作成した。鉄製品など 他の遺物も報告書に掲載する個体を選択して台帳登録して実測図を作成した。

また、報告書に掲載した遺物はすべて写真撮影をした。

(2) 遺物図版の作成

実測図個体はすべてトレースをし、トレース図を台紙に貼り付けて図版を作成した。報告書掲載遺物の印刷仕上がり縮尺は、土師器と須恵器は3分の1、須恵器大覲のように大型品は適宜縮尺を変更し、ページごとにスケールを付して明記した。鉄製品など他の個体は2分の1で統一し、貨幣は実大とした。

(3) 遺構図版の作成

野外調査で作成の図面は点検・修正の後、必要に応じて合成し、報告書掲載の第2原図を作成し、その後 トレース・遺構図版作成の順に作業を行った。

遺構図版の縮尺は40分1と50分1の統一努めたが、図版にスケールを付して明記した。



第7図 遺構配置図

N 検出された遺構と出土遺物

本遺跡から遺構として竪穴住居跡8棟、住居跡状遺構4棟、掘立柱建物跡4棟、土坑23基、陥し穴状遺構2基、溝跡8条、円形周溝2基、土壙幕3基、柱穴状小土坑544基等が検出され、遺物として竪穴住居跡を主とする遺構内から土師器・須恵器のほか各種の遺物が共伴する形で出土した。さらに、表土除去中や遺構検出の段階に遺構と直接関係しない形でいわゆる表土中からも各種の遺物が若干量出土している。

本項では、遺構に共伴して出土した遺物は遺構の記述の中で、遺構外出土の遺物は別項として一括し種類毎に記述することとする。(第7図)

1. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は8棟であるが、他遺構と重複する例は少なく、ほとんどは重複しないで単独で検出された。

(1) RAO1竪穴住居跡

遺 構 (第8・9図、写真図版2)

〈位 置〉 グリッド 1 H21 j 区と同23m区付近、R A 02竪穴住居跡の北東約20mに位置する。

〈検 出 状 況 〉 Ⅲ層の上面で黒褐色をなす埋土の上面が確認されたことにより住居跡と認定した。

〈重複状況〉 重複する遺構は無く、単独で検出された。

〈平面形·規模〉 隅丸長方形をなし、東西最大6.0m×南北最大4.8mの規模を持ち、床面積は約28.8mほどである。中軸方向はN-80°-Eを示す。

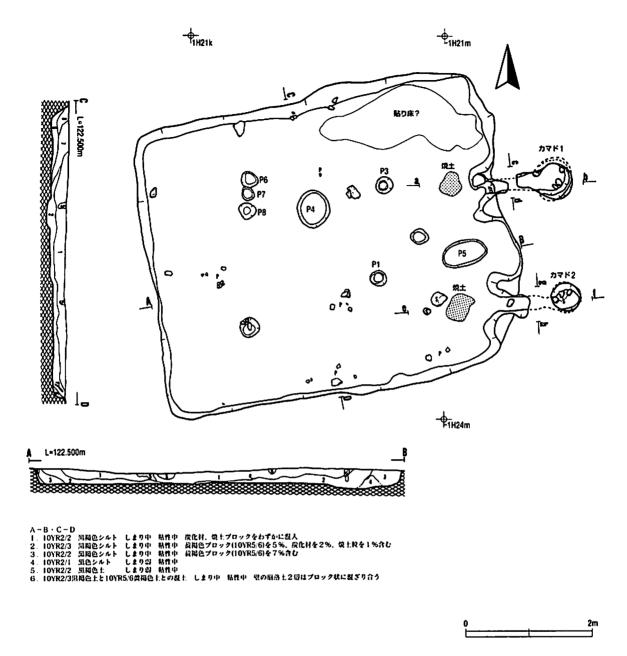
〈埋土〉 黒褐色シルトが主体であるが、混入物等によって6層に細分される。埋土上部には炭化物や焼土ブロック、下部の埋土には地山起源と思われる黄褐色土ブロックが混在し、壁際には壁の崩落によると推測される土の堆積も確認され、さらに断続的であるが壁際を中心に床面上12~13cmの範囲に焼土が分布し、残存状態のいい炭化材の検出は無いが消失住居の可能性が高い。自然堆積による堆積状況と推測される。〈壁・床面〉 壁は床面から軽く外傾して立ち上がり、東壁24cm、西壁25cm、南壁18cm、北壁30cmの壁高がある。床面のほとんどはは田層の黄褐色土で構築するが、北東隅部周辺には黒色土と黄褐色土の混合土による貼床がある。また、柱穴より内部の床面は壁際より堅くしまる。

〈床面の施設〉 壁溝・貯蔵穴ともに検出されていない。

〈柱 穴〉 柱穴状の小土坑が6基検出されているが、埋土は褐色土~黒褐色土が堆積し一部には柱痕跡も観察される。規模が径20cm~35cm、深さ17~15cmと小さいほか、位置が不規則など主柱穴としての数や配置は不明である。

〈 カ マ ド 〉 中央やや北寄り(1号)と東壁南東隅部付近(2号)に各1基の2基構築されている。

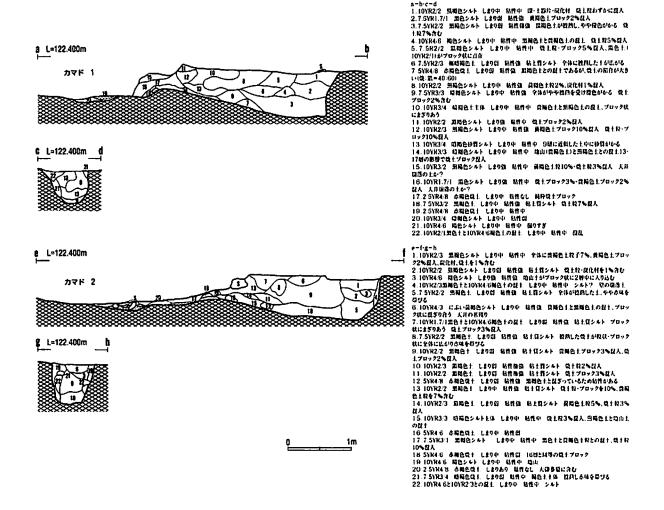
1号カマド 天井部が崩落した土に覆われた状態の袖部・燃焼部と煙道部・煙出し部を検出したが、袖部の残存状態が不良であり、詳細は定かでない。袖部は暗褐色土が若干混在する地山的な褐色基調のシルトで構築され、磔などによる補強は見られない。燃焼部は37cm×35cmの広さがあり、焚き口部から中央にかけて最大層厚3cmの焼土が観察された。煙道部は刳り貫き式と推測されたが、検出時には削平を受け判然



第8図 RAO1竪穴住居跡 (1)

としなかつた。煙道部の底面はカマド奥壁部分が若干高くなつた後、煙り出し部に向かつて次第に低くなり、 煙出し部は検出面から約37cmの深さでほぼ垂直に立ち上がる。埋土は22層に細分され、複雑な堆積状況を 示す。

2号カマド 天井部が削落し、その土が全体に被さる状態の袖部と燃焼部、それに煙道部と煙出し部を検出したが、煙道部以外の残存状態は不良である。袖部は地山シルトのみで構築され、礫等の袖強は無い。燃焼部は44cm×32cmの広さがあり、焚き口部~中央部付近に最大5cmの焼土が観察された。煙道部は刳り貫き式で天井部も一部残存が確認された。煙道部の底面は奥壁付近から煙出し部に次第に低くなり、煙 出し部で約30cmの深さがある。煙出し部の形は径約50cmの円形である。埋土は1号カマドと同様、22層に細分 され複雑な堆積状況を示す。



第9図 RAO1竪穴住居跡 (2)

遺物 (第31~34図1~40、写真図版27~29)

埋土内や床面から土師器25点や須恵器9点、磔石器1点・鉄製品3点等が出土したが、床面直上からの出土は少なく、埋土中~下位からの出土が主体を占める。

土師器-坏15点 (1~15)、高台付き坏2点 (16·17)、爼6点 (18~23)、鉢 (24·25) の25点あり、 21の翌以外はロクロ使用成形されている。

坏の15点は内面がミガキ後黒色処理される8点 (1・2・4・6・7・9・11・14) と、無処理の7点 (3・5・8・10・13~15) に分けられ、特に1と14は内外面黒色処理され、2は痕跡を残す程度である。底部の切り離し技法は基本的に回転糸切り離しと推測されるが3・4・6・7・15はヘラナデによる再調整され糸切り痕が判然としない。器形は底部から丸味を持って外傾する大同小異の形であるが、2・9・15は体部が直立気味となり、それ以外は比較的底径が大きく器高が浅い共通した特徴を脅取できる。

高台付き坏の2点は、16は完形であるが17は高台部分のみを残す。16は基本的に内面黒色処理の一般的な坏に高台を付した器形であり、体部外面に「八」字状の線刻が上下に二段付される。高台は17と同様に貼り付け高台であり、底部の切り離し技法はヘラナデ調整のため不明である。

選はすべて破損し破片での出土あり、18・19・21・23は口縁部~体部を残し、20・22は体部下位~底部と底部のみの破片である。ロクロ使用成形の個体は体部中位~口縁部は内外面ともロクロナデ調整のみで仕上げられ、20と23は体部下位外面はヘラケズリされる。全体的な器形は定かでないが、口縁端部は上方に引き出されて受口となる個体が多い。ロクロ不使用成形の21は、体部外面がヘラケズリ・口縁部ヨコナデ、内面はヘラナデ調整である。器形は口縁部が外反するほか定かでない。

鉢とした2点(24·25)は場合によっては鍋と分類されている器形である。2点とも口縁部~体部中位を残す破片のため、全体的なことは不明であるが、ロクロ使用成形され、体部下半は内外ともヘラケズリ調整され、体部が大きく外傾し口縁部が受口状の器形を示す。

須恵器-9点には坏2点、壷4点、雞3点を含むが、完形の個体は無くすべて破片での出土である。

坏の2点は体部下位~底部を残す26と口緑部~体部中位を残す27であるが、ロクロ使用成形、底部 回転糸切り離し無調整で、全体として再調整はまつたく観察されない個体である。

董は口縁部~肩部上位を残す28以外は頚部付近を残す破片であり、ロクロ使用成形され再調整はまったく無い。破片のため全体的な器形は定かでないが、大きく張る肩部から頚部が大きく窄み、口縁部が強く外反する器形と推測され、口縁端部は角張る形であるらしい。

翌は2点とも外面に並行叩き具痕を付し、内面に32は放射状当て具痕、33は並行当て具痕、34は凸面無文の当て具痕を持つ大甕の体部破片であり器形等不明である。

その他-磔1点と鉄製品4点、土製品1点が出土している。

磔(35)は性格不明だが、平面形状が略三角形状で断面扁平な自然磔であり、使用痕は判然としない。 鉄製品の4点(36~39)には器種として不明2点(36·37)、鏃2点(38·39)があり、いずれも錆化 により原形は明確で無いものの、鏃の2点は鏃身が二股に分かれる雁又鏃と推測される。

土製品(40) は鞴羽口の小破片である。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀代に位置づけられると推測される。

(2) RAO2竪穴住居跡

遺 構 (第10図、写真図版3)

〈位 置〉 グリッド I H3 c 区~同4 d 区付近で R A 01 竪穴住居跡の南西約20m に位置する。

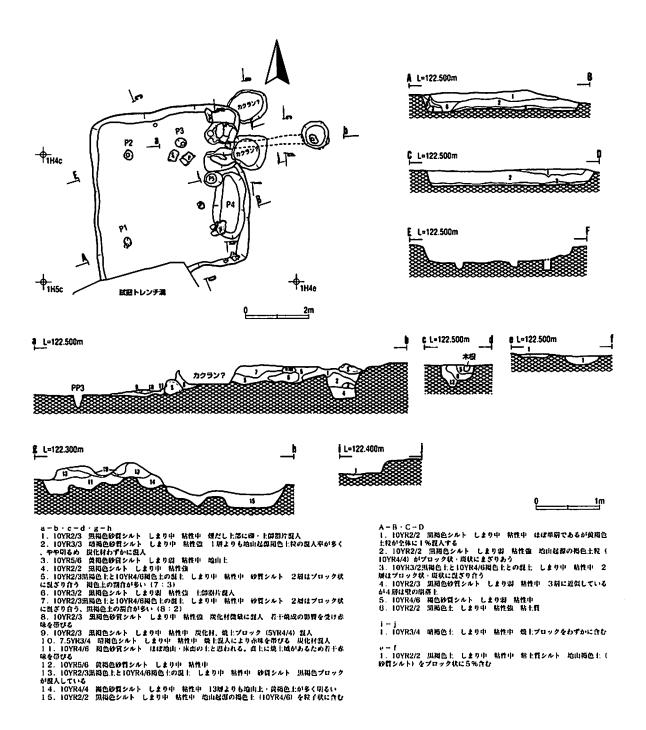
〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色の埋土が確認され住居跡と認定した。

〈重複状況〉 一部攪乱部分は存在するが、特に重複遺構は無く単独で検出された。

〈平面形·規模〉 隅丸長方形をなし、東西約2.50m×南北約2.70mの規模を持ち、床面積は約6.7㎡である。 中軸方向はN-80°-Eを示す。

〈埋 上〉 黒褐色を主体に褐色のシルトと砂質シルトが占めるものの6層に細分される。埋土上部は 黄褐色土粒の混在する黒褐色シルトであり、他の層もほぼ同質で混入量の違いによる分層である。全体に ややしまりがあり、粘性の強い部分も混在する。

〈壁・床面〉 壁は床面から外傾して立ち上がり、東壁28cm、西壁13cm、南壁24cm、北壁25cmの壁高がある。床面のほとんどは田層の黄褐色土と黒褐色土の混合したシルトで構築されており、意識的に貼床したものと推測したが、明確な掘方は確認されなかった。床面は部分的に良くしまる部分も観察されるが、総じて踏みしめがあまり強く無い。



第10図 RAO2竪穴住居跡

〈床面の施設〉 壁溝は検出されていないが、東壁のカマド右袖脇の壁沿いに貯蔵穴状の土坑が検出されている。規模は長径1.00m、短径0.50m、深さ20cmほどあり、平面形は楕円形、断面形は船底形である。

〈柱 穴〉 柱穴状の小土坑が3基検出されている。埋土は3基とも黒褐色と褐色のシルトが主体で、 径約15cm前後、深さ12~7cmと規模的には小型であるが、配置状況から主柱穴である可能性が強い。 〈カマド〉 東壁北東隅部よりに構築されている。天井部が川落し全体に天井部の土が被さる状態で検出された。袖部は磔等の補強材が確認されないことから、地山起源のシルトのみで構築したものと推測され、左袖部の上で確認された土師器の要はカマドとは無関係と考えられる。燃焼部は60cm×30cmほどの広さと推測されるが、床面に明確な焼土は検出されない。煙道部は床面とほぼ同じ平坦面として東に約1.45 m続き、煙出し部は径45cm、深さ25cm位の土坑状に掘られている。埋土は14層に細分されているが、いずれも黒褐色と黄褐色のシルトが混在し大同小異である。

遺 物 (第34~35図41~43、写真図版29·30)

埋土内や床面から出土しているが量的には少量であり、さらに東半部に偏って出土している。種類として は土師器・須恵器と石製品がある。

土師器-床面からロクロ不使用成形の塑が1点(41)出土のほか、坏と塑の小破片が数点出土した。

翌は、底部~口縁部まで残存し、径11.9cmと比較的広い底部から綴やかな丸味を持ち軽く外反し肩部に最大径を持つ体部は頚部で窄まり、口縁部は短く強く外反する器形を示す。器面調整は、底面と体部の外面は全面へラケズリ、体部内面はカキメ調整され、頚部と口縁部は内外面ともヨコナデ調整される。須惠器-ほぼ完形に近い坏(42)と体部下半~底部を残存する翌(43)の2点出土している。

坏・翌ともロクロ使用成形され、坏は底部回転糸切り離し無調整であるが、翌は全面ヘラケズリ調整され不明である。ともに体部下端に軽いヘラナデがあるほか、内外面ともロクロナデ調整のみである。 その他-出土していない。

遺構の時期

出土遺物中の土師器の様相から平安時代9世紀頃に位置づけられると推測される。

(3) RAO3竪穴住居跡

遺 構 (第11図、写真図版4)

〈位 置〉 グリッド-1H17p区~同17r区付近でRA01竪穴住居跡の北東約15m付近に位置する。 〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして確認されたが、南西壁付近の広い範囲が攪乱を受けていることと、壁の掘り込みが浅いこと等により詳細は不明である。

〈重複状況〉 特に重複する遺構も無く単独で検出された。

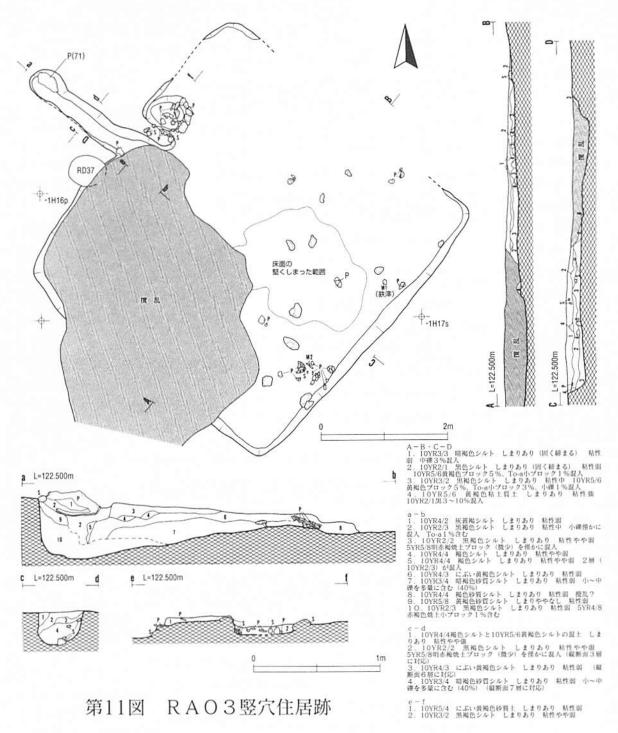
〈平面形·規模〉 略正方形をなし、東北-南西約5.30m×南東-北西約5.20mの規模を持ち、床面積は約27.5 ㎡ほどである。中軸方向はN-55°-Wを示す。

〈埋 土〉 大半はシルトで占められるが黒褐色〜黄褐色までの色調により4層に細分され。全体として締まるほか一部粘性があり、1層には一部に磔が混在する。1層は暗褐色シルト、2層は黄褐色シルト塊が混入し、3〜4層は黒色土の混じった黒褐色と黄褐色のシルトである。堆積状況の観察で自然埋没による堆積と推測された。

〈壁・床面〉 残存している南東壁はやや外傾して立ち上がり約28cmの深さがあり、その他は後世の投乱により残存しないため不明である。投乱を受けていない床面のほとんどはIII層の黄褐色土で構築されるが、一部に段丘礫層の上面が露出する。また、南東壁寄り中央の床の一部に堅く締まる部分が観察され、家内部の使われ方に影響されたと考えられる。

〈床面の施設〉 壁溝は検出されていないが、北東壁のカマド右袖沿いに長径75cm、短径55cm、深さ20cmほどの規模を持ち、平面形が楕円形、断面形が浅皿状をなす貯蔵穴状の土坑が1基検出されている。

〈柱 穴〉 柱穴状の小土坑は検出されていない。



〈カマド〉 北西壁中央やや北隅部寄りに構築されているが、後世の攪乱により燃焼部と左側袖部は残存しない。天井部は崩落しており、右側袖部のみの検出であるが、礫等の補強材が確認されないことから、地山起源の黄褐色や褐色のシルトのみで構築したものと推測される。燃焼部は60cm×45cmほどの広さと推測されるが、火床面の焼土は攪乱を受け検出されない。煙道部は掘り込み式として検出されたが、奥壁部分から次第に深くなって北東に約1.7m続き、煙出し部は深さ45cm位の深さに掘られほぼ垂直に立ち上がることから、本来は刳貫式の可能性が大きい。埋土は色調によって10層に細分されているが、いずれもシルトや砂質シルトであり、全体としてやや締まりがある。

迎 物 (第35~38図44~75、写真図版30~32)

埋土内や床面から土師器24点と須恵器4点、鉄製品2点が出土している。

土師器-土師器の24点(45~69)には坏11点(45~55·58)、高台付き坏2点(56·57)、翌11点(59~69)が含まれる。

坏11点はすべてロクロ使用成形されるが、内面がミガキ後黒色処理される7点(44・46~48・52~54)と、無処理の5点(45・49~51・55・58)があるものの、成形や器形等基本的にはほぼ同様である。底部の残存する54以外は回転糸切り離し一部へラナデ再調整があり、54は全面のヘラナデ再調整により切り離しが定かでない。器形は底部から僅かな丸味を持つ体部が大きく外傾する基本的にはすべて同じ様相を示す。

高台付き坏の2点は坏よりやや大振りであるが、ロクロ使用成形内面無調整の底部が回転糸切り離しの坏に「ハ」字状に広がる高台を付す器形で、口縁端部が小さく外反する以外は坏と同様である。

躍の11点はロクロ使用成形の5点(64~68)と不使用の6点(59~63·69)ある。口縁部~底部を 残す個体が2点(59·68)のみであり、詳細は不明である。ロクロ使用成形の外面は、体部中位~口縁 部がロクロ成形痕のみを残し下半にヘラケズリ調整を付し、内面は体部上位からヘラナデ調整される例 がある。

器形は個体差があるが、体部が若干膨らむ2点(66·67)と一般的な簡形のものに分けられ、口縁部は上方に引き出され受口状となる。なお、67は鉢の可能性も考えられる。ロクロ不使用成形の個体は59のみが完形で他は口縁部破片である。体部の器面調整は外面がヘラケズリ調整の3点(60·63·69)とヘラナデ調整の3点(59·61·62)がある。器形には体部が膨らむ2点(62·69)の他は所謂長嗣形であり、ともに口縁部は短く内外面ともヨコナデ調整され外反もしくは外傾する。

須惠器-外面に並行叩き具痕、内面に無文当て具痕を付す大顰の肩部付近 (70) や体部 (71~73) の破片が4点の出土である。

その他-鉄製品として紡錘車1点(74)と断面方形の棒状をなす器種不明1点(75)がある。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀前半~中葉頃に位置づけられると推測される。

(4) RAO4竪穴住居跡

遺 構 (第12図、写真図版5)

〈位 置〉 RA03竪穴住居跡の巣約10mで、グリッドー1H18u区~同18v区付近に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色に広がる黒褐色シルトによって確認されたが、南西隅部と西壁部分を残す広い範囲が攪乱を受けており、壁の掘り込みが浅いこともあり全体的なことは不明である。

〈 重 複 状 況 〉 特に重複する遺構も無く単独で検出された。

〈平面形·規模〉 検出された壁の方向から見て平面形は正方形か長方形をなすと推測されるが、南壁で約1.60m・西壁3.10m部分が検出されたのみであり、全体的なことは不明である。

〈埋 土〉 4 層に細分されているが、1~3 層は暗褐色や黄褐色のシルト粒が混在した黒褐色のシルトであり、4 層は黄褐色の砂質シルトである。全体としてやや締まりがあり、堆積状況の観察では自然埋没による堆積と推測された。

〈壁・床面〉 残存する西壁は床面から内湾気味に大きく外傾するが、明瞭に残存する壁で15cmの深さがあり、その他は後世の攪乱により残存しないため不明である。攪乱の無い床面は一部が段丘礫層の上面を露出

させるものの、ほとんどはⅢ層 の黄褐色シルトで構築され、南 西隅部付近は広く貼床が観察され、中央部分の一部に堅くしま る部分があり、家内部の使われ 方に影響されたと考えられる。

〈床面の施設〉 検出された床面 の範囲では壁溝・貯蔵穴とも検 出されていない。

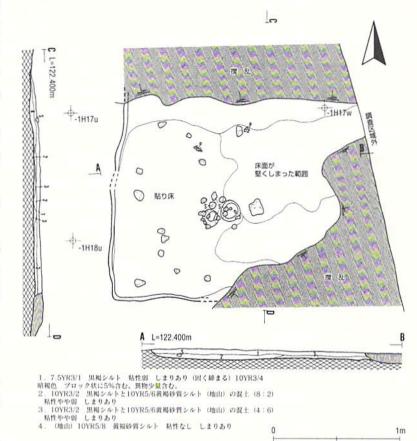
〈柱 穴〉 柱穴状の小土坑 は検出されていない。

〈カマド〉 残存し検出され た範囲内では検出されていない ことから、後世の攪乱により削 平されたも のと推測される。

遺 物 (第38図76~79、 写真図版32)

埋土内や床面から出土している が量的には少量であり、土師器 1点と須恵器3点を掲載した。

土師器-埋土上部から体部下 位~口縁部を残す坏 (76)



第12図 RAO4竪穴住居跡

が1点の出土である。ロクロ使用成形され内外面ともロクロナデ調整痕のみを残す所謂赤焼き土器の範疇に入るもので、下端の状況から本来は高台を付す器形の可能性が強い。底部の状況は不明であるが、体部は僅かな丸味を持ち大きく外傾する器形である。

須恵器-3点の出土であるが、いずれも埋土中・下位からの出土である。器種は77が甕の体部上端~頚部下端、78は瓶の口縁部、79は大甕の肩部破片である。77・78はロクロ使用成形され、ロクロナデ痕以外の調整痕は無い。79は外面に並行叩き具痕、内面に無文凸面の当て具痕を付し、ロクロ使用有無は判然としない。3点とも破片での出土のため器形等全体的なことは不明である。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀後半代頃に位置づけられると推測される。

(5) RAO5竪穴住居跡

遺 構 (第13~15図、写真図版6·7)

〈位 置〉 -1 H23 o 区~同23 t 区付近でRA04竪穴住居跡の南西約11mに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして確認された。

〈重 複 状 況 〉 耕作による後世の攪乱や柱穴状小土坑との重複はあるが、竪穴住居跡との重複はない。

〈重複状況〉 耕作による後世の攪乱や柱穴状小土坑との重複はあるが、竪穴住居跡との重複はない。 〈平面形・規模〉 北東ー南西約7m、南東ー北西約7.5m、床面積約52.5mの広さを持つ大型の住居跡であり、 平面形は南東ー北西にやや長くなる略方形をなし、中軸方向はN-38°-Eを示す。

〈埋土〉 大半はシルトまたはシルト質土の堆積であるが、色調や混入物等により17層に細分されている。全体的に見ると上位層は黒褐色や暗褐色・黄褐色をなし若干しまりのあるシルトで、7層まではほぼ平面的な堆積状況を示し、自然埋没による堆積の可能性が大きい。下位層はややしまりと粘性のある黒褐色や暗褐色シルトが堆積し、全体として焼土粒や炭化物粒の混入・混在が見られ、特に西壁よりの最下層は焼土と炭化物の層が観察され、この住居跡が火災で焼失した可能性の強いことを示している。下位層の堆積状況が複雑な様相を示すこともその傍証となろう。また、出土した炭化材の樹種同定では建築部材と推測される物はほとんどがクリ材、屋根材と推測される材にカヤなどが使用されている。

〈壁・床面〉 壁はやや外傾して立ち上がり、深さは30cm~20cm前後で、西に寄るほど深くなる傾向がある。床面はほぼ□層の黄褐色土で構築されるが、一部分に段丘礫層の上面が露出する。全体として僅かな起伏があり、中央部が高く壁よりがやや低くなる傾向が見られる。

〈床面の施設〉 壁溝・貯蔵穴とも検出されていない。

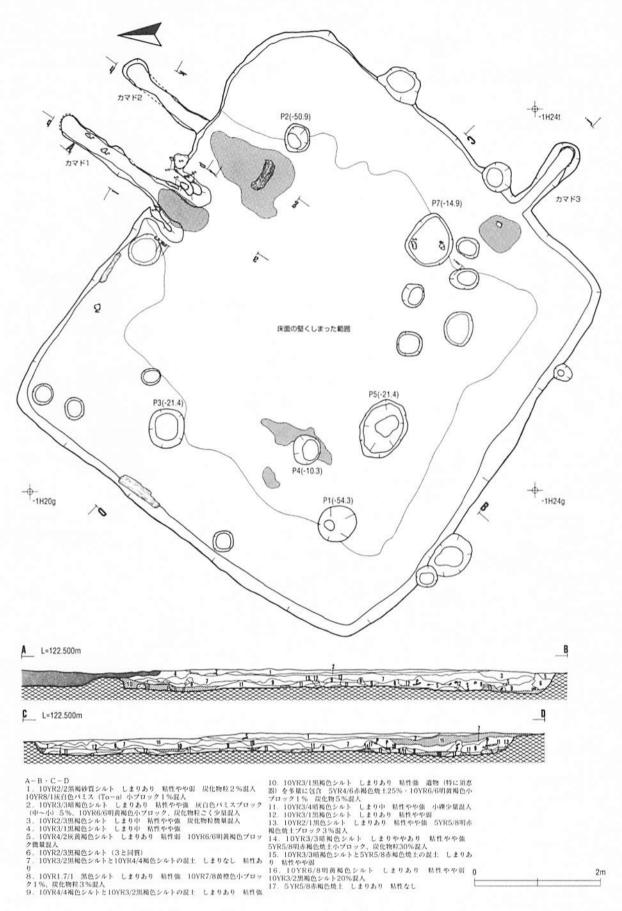
〈柱 穴〉 床面から柱穴状の小土坑が14基検出されている。規模は95cm×70cm~30cm×25cm、深さ21cm~54cmの範囲とパラツキが大きいほか、位置関係も不規則でありいずれが主柱穴となるのか明確でない。

〈カマド〉 北東壁の中央やや北東隅部寄りの1号、北東壁北東隅部寄りに2号、南東壁南東隅部寄りに3号の併せて3基構築されているが、袖部等の残存状態により3号カマドがもっとも新しいことは事実 であるが、1・2号カマドの新旧関係は不明である。

1号カマド 袖部の他燃焼部・煙道部・煙出し部などが残存し、住居跡が廃棄の時に使用されていたカマドであることを示す。袖部は極暗褐色のシルトで梅築され礫や土師器などによる補強材は無い。左右とも壁から70cmほど延び、それぞれ70cm×25~30cmの規模がある。燃焼部は70cm×35cmほどの広さがあり、ほぼ全面に最大層厚5cmの焼土が広がり、支脚は壁から20cm位離れた床面に径55cm、層厚4cmほどの楕円形状に広がっている。煙道部は消状に検出されたことから掘り込み式と推測され、底面が火床面と同じ面から次第に深くなって北東に約2.0m延び、煙出し部は深さ45cm位の深さがある。埋土は色調によって10層に細分さるが、いずれもシルトや砂質シルトが混入し、ややしまりがある。

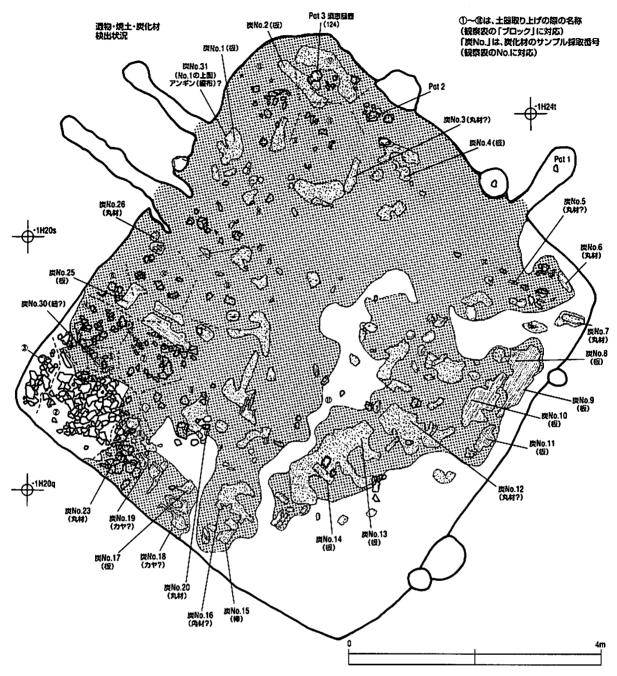
2号カマド 袖部は残存していないので不明であるが、燃焼部の焼土と煙道部が検出された。燃焼部の焼土は壁から20cm位離れた床面に径55cm、層厚4cmほどの楕円形状に広がっている。煙道部は消状に検出されたことにより、掘り込み式と推測され、奥壁で若干高くなつた後、次第に深くなって南東に約1.6m延び、煙出し部は深さ45cm位の深さがある。埋土は色調によって10層に細分さるが、いずれもシルトや砂質シルトが混入し、ややしまりがある。

3号カマド 煙道部と煙出し部そして燃焼部の焼土のみが残存し、その他の部分は不明である。燃焼部 の焼土は壁から15cmほど離れた床面に径40cmほどの略円形状に広がっている。煙道部は掘り込み式として 検出されたが、奥壁と同じ面から次第に深くなって南東に約1.4m延び、煙出し部は深さ45cm位の深さが あり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は色調によって10層に細分さるが、いずれもシルトや砂質シルトが混入し、ややしまりがある。



第13図 RAO5竪穴住居跡 (1)





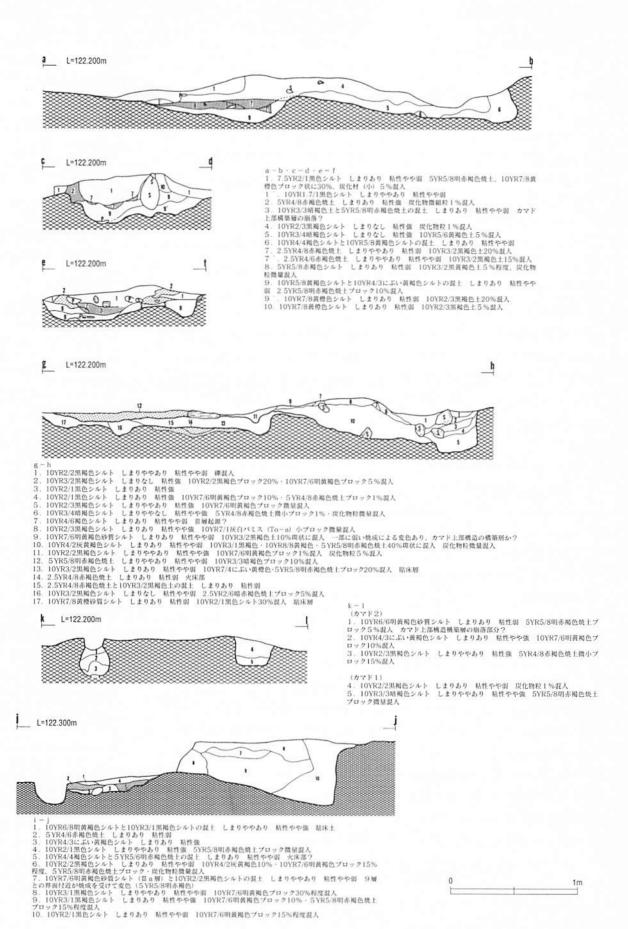
第14図 RAO5竪穴住居跡 (2)

遺 物 (第38~47図、写真図版26·32~39図)

埋土内や床面から土師器38点、須恵器20点、鉄製品8点など大量の遺物が出土している。

土師器-38点には坏24点 (80~89·91~97·99~105·108~110)、高台付き坏4点 (90·98·106·107)、 翌10点 (111~120) が含まれる。

坏の24点はすべてロクロ使用成形であるが、内面がミガキ後黒色処理される15点 (81~85·87·88·92·95·97·100·102·104·105·109·110) と無処理の9点 (86·89·91·93·94·96·101·103·108) がある。前者は底部から体部が僅かな丸味を持って大きく外傾する共通の器形をなし、一部の口縁端部



第15図 RAO5竪穴住居跡 (3)

は小さく外反する。底部の切り離しは回転糸切り離しであり、ほとんどは無調整であるが84·85·97·100·105などの個体は一部または全面をヘラナデ再調整する。また、87の体部外面に「本」の墨書がある。

高台付き坏は90・98・106・107の4点であるが、完形は90のみで他は体部下位~高台部を残す破片である。すべてロクロ使用成形され、回転糸切り離しの底部に「ハ」状に高台を貼り付けた器形であり、90以外の内面はミガキ後黒色処理される。坏部の器形は一般的な坏と同様であるが、90のみは特別大型であり一般的な個体の1.5倍ほどの大きさである。

型の10点 (111~120) は、111と118の2点はロクロ使用成形であるが他は不使用成形である。ロクロ使用成形の2点は体部下位~口縁部を残す111と体部中位~底部を残す118であるが、外面はロクロ成形の後へラケズリ調整、内面はヘラナデかヘラケズリ調整され、底面は全面ヘラケズリやナデ調整である。体部に若干ふくらみを持ち頚部で窄み、口縁部は外反し端部が直口気味となる器形である。ロクロ不使用成形の個体は115の小型鉢以外は破片での出土である。基本的に紐巻き上げロクロ仕上げであるが、体部の外面はヘラケズリを主体にヘラナデで調整され、内面はヘラナデやカキメの調整であり、基本的にはロクロ使用成形の個体と同様である。体部が長酮の個体(112・114・119)は頚部で軽く窄み口縁部が外傾する器形を示し、底部の周囲が突出する例もある。大きさは定かでないが大小関係があることは事実である。

須恵器-20点には坏4点 (99·121~123)、童12点 (124~131·133~138)、翌4点 (132·139·140)

坏はすべてロクロ使用成形され121と122は完形またはほぼ完形である。体部は内外面ともロクロ使用成形痕のみを残し、底部は回転糸切り離し無調整であり、体部が底部からほぼ直線的に外傾する器形である。

童の12点(124~129·131·133~138)には一般に長頸瓶となる9点(124~129·131·133·134)が含まれ、特に底部の縁に低く断面三角形の高台を付す4点(124·127·133·134)は長頚瓶であろう。すべてロクロ使用成形され肩部から上位はロクロ成形痕、肩部から下位はヘラケズリかヘラナデまたはカキメによる調整があり、134の肩部には並行叩き具痕が若干観察される。内面はほとんどロクロ成形痕のみであるが、底部よりにヘラナデ調整される例もある。底部から体部が大きく外傾し肩部で丸味を持って頚部で窄み、口縁部が大きく外反して端部は縁帯状の受口となる器形が多い。また、頚部の下端に突帯を付す例が3点あり、生産地に東北地方と他地域が想定される。一般的な童は5点(130·135~138)でそれも広口形である。高台が無いこと、広口であること、などを除くと形や調整等長頚瓶とした個体と特徴は大同小異であるが、大小関係が大きい。

翌の4点(130·132·139·140)は、体部外面に並行か格子目叩き具痕、内面に放射状・上位に放射状下位に並行、無文凸面の当て具痕を付す所謂大要の3点(132·139·140)と、広口盛的な1点(130)がある。130はロクロ使用成形され体部上位~口縁部はロクロナデ調整のみであるが体部下半は外面へラケズリ、内面へラナデ調整痕がある。底面は手持ちヘラケズリ調整され、体部は丸味を持ちながら外傾し、肩部に最大径を持って頚部で窄み、大きく外反する口縁部は端部が縁帯状をなし受口になる。大致は肩部に最大径を持って頚部で大きく窄み、口縁部が外反して端部が縁帯状の受口となる。

その他-鉄製品の8点には刀子3点(141·142·144)、釘4点(143·145~147)、槍鉋1点(148)がある。 遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀前半代に位置づけられると推測される。

(6) RAO6竪穴住居跡

遺 構 (第16~17図、写真図版8·9)

〈位 聞〉 1 H2m区~同2p区付近、RA05竪穴住居跡の南西約9mに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして確認された。

〈 重 複 状 況 〉 後世の柱穴状土坑のほか大きな攪乱は無いが、東側が R A O 7 竪穴住居跡と重複し、当住居跡の方が新しい遺構である。

〈平面形·規模〉 東ー西約7~6.50m、南ー北約6.50m、床面積約44㎡の広さを持つ大型の住居跡であり、平面形に若干歪みはあるももほぼ方形をなし、中軸方向はN-76°-Wを示す。

〈埋 土〉 大半は黒色〜褐色を示すシルトまたはシルト質土の堆積であるが、重複するRA07竪穴住居跡の埋土も含め色調や混入物等により17層に細分されている。全体的に見ると若干しまりと粘性のある黒褐色と暗褐色のシルトが大半を占め、壁際の埋土内には壁の崩落と推測される褐色シルトの堆積が観察されるほか、地山起源の明黄褐色のシルト粒を混入させる。堆積状況の観察では、壁際では外部からの流入を示す斜め堆積であるが、中央部はほぼ平面的な堆積状況であり、全体として自然堆積により埋没したものと推察される。

〈壁・床面〉 壁の深さは35cm~20cm前後でやや外傾して立ち上がり、床面には若干の起伏は見られるもののほぼ平坦であり、水平状態の部分が多い。床面は東壁寄り面積約3/1は段丘礫層に地山起源の明黄褐色シルトで貼床されるが、その他は旧層で構築され、カマド寄りの面積約3/2は踏みしめにより堅くしまる。

〈床面の施設〉 南壁際と北壁際の床面に壁溝が掘られているほか、貯蔵穴状の土坑は検出されていない。

南壁際の壁溝は幅・深さとも最大10cmで、中央やや西寄りに1.85mの長さがある。一方、北壁際は幅最大20cm、深さ約10cmで、ほぼ中央に一部断続するが4.05mの長さがある。実測図には西壁際の北隅部寄りに土坑が2基記載されているが、貯蔵穴とするには規模が小型であり、否定的である。

〈柱 穴〉 床面から柱穴状の小土坑が20基検出されている。規模は95cm×70cm~30cm×25cm、深さ9cm~24cmとパラツキが大きく、位置関係も不規則でありいずれが主柱穴となるのか明確でない。

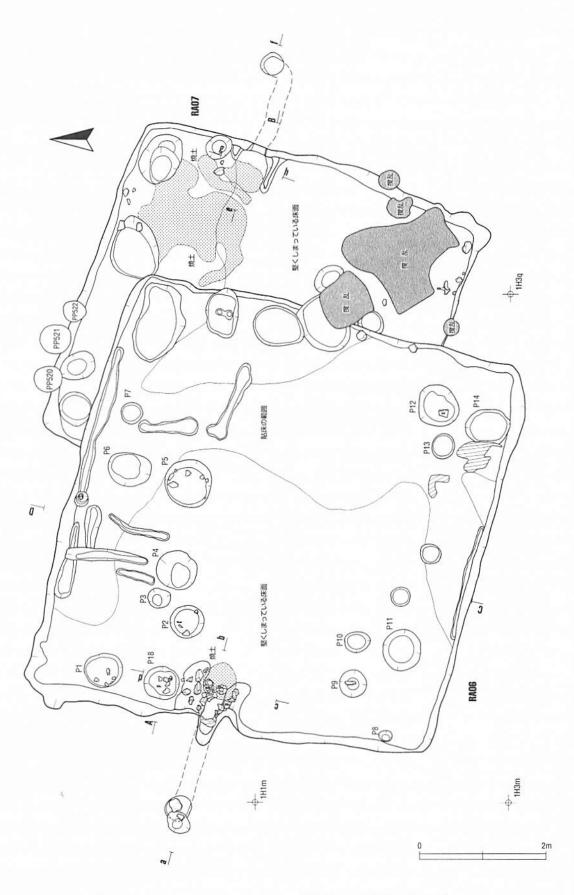
〈カマド〉 西壁の中央やや北隅部よりに構築され、袖部の他燃焼部・煙道部・煙出し部などが残存し、 袖部は崩落した天井部が被さる形で検出された。袖部は左右とも芯に礫を補強剤として配置し、それに褐色 シルトを貼り付けて構築しており、袖部は長さ80cm~60cm、幅40cm~30cmほどである。燃焼部は60 cm× 30cmほどの広さがあり、焚き口部から燃焼部中央付近まで最大層厚5cmの焼土が広がり、焚き口部から30 cmの位置に支脚が設置されている。煙道部は奥壁の床面から僅かに低くなって西に1.6m延びた別質き式で 構築され、煙りだし口は径約40cmの楕円形をなし、深さは約45cmである。埋土は黒色や黒褐色、赤褐色を なし、ややしまりと粘性をもつシルトが堆積し、色調や混入物の違いなどにより12層に細分され、下層には 焼土粒や炭化物粒が混在している。

週 物 (第47~49図、写真図版40~41図)

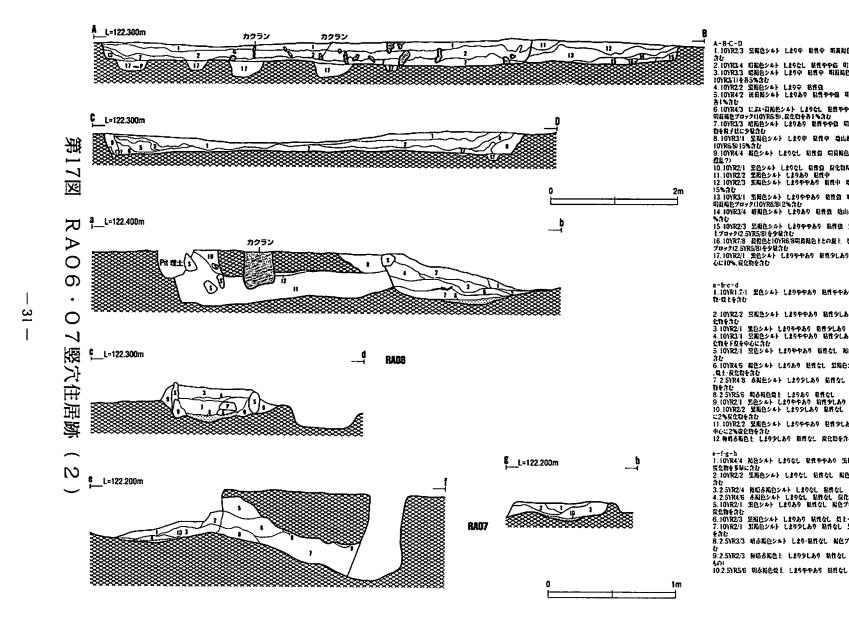
埋土内や床面から土師器15点と須恵器13点、鉄製品2点、土製品1点が出土している。

土師器-坏7点(149~155)、高台付き坏1点(16)、翌6点(157~159·161~163)がある。

坏はすべてロクロ使用成形であるが、内面がミガキ後黒色処理される3点(149·150·152)と黒色処理の無い4点(151·152·154·155)があり、底部は基本的には回転糸切り離しであるが149~151はヘラナデ再調整があり、149と155は体部下端にヘラケズリ調整、149の底面には判読不能の墨書が付される。体部は底部から軽い丸味を持って外傾し端部が軽く外反気味となる個体が多い。



第16図 RAO6·O7竪穴住居跡 (1)



1.107F2-3 兄弟色シルト L19中 影性中 明真褐色プロック(107R6/8).異位数を持3% 34 2.107R34 昭和色シルト L19なし 世世中中島 明月報色プロック(107R68)を19まむ 3.10円33 電視をシルト しまり中 日前中 明日和セプロック(10円868)・五利セプロック(10円37)を各5条など 4.10円22 宝瓶センルト しまり中 日前日 5.10YR42 後日報シルト L1989 日代中中日 明日報色プロック(10YR68)、収化物を 31830 6.10YR43 におい日初色シルト しまりなし 総数や中値 里和色ブロック(10YR3/1)15%。 可能をプロック(10YR63)、反応的をおり入れ 7.10YR13 可利色シルト L19あ9 を作や中の 可見知色プロック(10YR63)10%。反応 DERFULTER 8.10YR3/1 宝褐色シルト Lま9中 監性中 塩山起掘の明泉和色プロック(10YR6/6~ 9.107R44 BE221 LEPGL BES SIRNETHY2(10)R68105AUIANO 10.100円2/1 里色シルト しまりなし 総性会 反化物化子を降級に含む 11.100円2/2 黒褐色シルト しまりあり 船性中 12.10YR2/3 気料色シルト しまりややあり 貼性中 地川起源の明義報色ブロック(10YR7/6 15 10YR2/3 里根色シルト しまりややあり 粘性物 黒褐色 1.(10YR3/1)5%、明本褐色焼 1.プロック(2.5YR5/8)を少量合む 16 1018735 長衛色上1978589県福色土との墓土 しまりややあり 昭代線 明示福色集土 プロップ(2.57R5/8)を少量合む 17.10YR2/1 単色シルト しまりややあり 松性タしあり 料色プロック(10YR4/8)を下位を中 6年10%。現化物を含む 1.10VR1.7/1 里色シルト しよりテヤあり 名性ややあり 場色プロック(10VR4/8)3%、故化 n.Qteau 2.10YR2/2 思報色シルト しまりややあり 粘性少しあり 報色プロック(10YR4/6)・塩1.・炭 位的を行む 3.10TR2/1 宝色シルト しまり千やあり を作うしあり は1.1度位的を介む 4.10TR3/1 宝星色シルト しまり千やあり 総性タレあり 総色プロック(10TR4/6)・役し は 5.10YR2/1 空色シルト しまりややあり 目性なし 彩色プロック(10YR46)・収1・収化物を 6.107845 #02001 L1989 BECL SE02041(107823)4184446130% 、現土・保証的を含む 7.2.57R48 お料色シルト しまり少しあり 取代なし 単色ブロック(107R2/1)を7%。保証 刊を行び 8.2 5円26 明春報色性 しょうもう を作なし 9.101円27 五色シルト しょうキャカラ 製作がしあり 世上 現代日本市と 10.101円22 宝坂色シルト しょうりしあう 製作がし 彩色プロックロの194 67 41.Rで中心 **235度度日本省也** 11.10YR2.2 呈版色シルト しまりテテあり 単性少しあり 料色プロック(10YR4.6)を1.収を 中心に2%度化物を含む 12. 機略を報告主 しより少しあり 報性なし 変化物を含む e-fig-h 1.10YR4/4 褐色シルト しまりなし 発性ややあり 黒褐色ブロック(10YR2:2)を10%(最上) 2.101R22 黒褐色シルト しまりなし 単性なし 単色プロック(10)R4 6)・R化物を開始に 312 537224 投稿系稿色シルト しまりなし 影性なし 以上プロック・収定的を多く介む 4.2.537846 系稿色シルト しまりなし 監性なし 以化物を介む収入の 5.1037821 黒色シルト しまりあり 転性なし 似色プロック(1037844)を多数には人、境上・ 6.101R2/3 里知色シルト しまりあり 場性なし 炭上・炭化物を収入 7.101R2/1 黒褐色シルト しまりをしあり 特性なし 里褐色シルト(101R3/3)・袋上・炭化物 8.2.57R3.3 明春報色シルト しまり・私性なし 利色プロック(107R4.6)と皮化物を多場に含 9.2.5YR2/3 展項赤褐色: L19少Lあ9 特性なし 投化物を含む (人井部が無変化した

高台付き坏1点(156)はロクロ使用成形内外面ともヘラミガキ後黒色処理され、底部の切り離しは 定かでないが「八」字状の高台を貼り付ける。坏部の器形は他の坏とほぼ同様である。

型の6点(157~159·161~163)は、ロクロ使用成形される2点(158·161)とロクロ不使用成形のその他とある。前者の158は体部下位~底部を残し外面へラナデやヘラケズリ、内面がヘラナデ、底面もヘラケズリ調整される。全体的なことは不明であるが、口縁部は外反して縁帯状をなし受口状になる。ロクロ不使用成形の個体は体部外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整され、底面に木葉痕を付す個体が多い。底部から外側する体部は肩部に最大径を持って頚部で窄み口縁部が小さく外反する器形を示す。

場の1点(160)は口縁部~体部上位を残す破片であり、詳細は定かでないが、内外面にロクロ調整 痕を残し、体部~口縁部が軽く外反する器形らしい。

須恵器-13点には坏5点(164~168)、壷5点(169・173~176)、雞3点(170~172)がある。

坏は口縁部〜底部まで残すのは168の1点のみで他は口縁部破片2点(164·166)と底部破片2点(165·167)である。いずれもロクロ使用成形され底部が回転糸切り離しで168は若干ヘラナデ調整される。

童の中には所謂長頚瓶と推測される2点(175·176)のほか高台が付される2点(169·173)も長 頚瓶である可能性が高い。高台を付す2点はともに体部が球状に膨らみ、169の外面はヘラケズリ、内 面がヘラナデ調整されるが、173は内外面ともロクロナデ痕のみである。その他は頚部か口緑部を残存 する破片であるが、口緑部が頚部から大きく外反し端部が緑帯状の受口となる。なお、頚部には突帯が 付される東北型も観察される。

翌の3点は肩部上位~口縁部を残す170のほかは体部破片である。体部の外面はいずれも並行叩き具痕を持ち、内面には並行や放射状の当て具痕を付す。

その他-鉄製品が2点と鞴羽口が1点出土している。鉄製品の1点(178)は器種不明であるが、177は 断面が丸棒状の素材を環状に丸めた製品である。179は鞴羽口の小破片である。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀頃に位置づけられると推測される。

(7) RAO7竪穴住居跡

遺 構 (第16~17図、写真図版9)

〈位 置〉 1H2p区付近でRA06竪穴住居跡の東に約2.5mずれる形で重複する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして確認された。

〈重複状況〉 RA06住居跡が重複し、南西部分の約55%を削平しており、東壁と北壁は全体が検出されたが、西壁と南壁は一部を残して削平を受けており残存せず、当住居跡の方が古い遺構である。

〈平面形·規模〉 残存する壁からの計測では東一西約5.30m、南一北約5.7mの規模で、本来の床面積は約30.2mの広さと推測される。平面形に若干歪みはあるももほぼ方形をなすものと推定され、中軸方向はN-76°-Wを示す。

〈埋土〉 大半は黒色〜褐色を示すシルトまたはシルト質土の堆積であるが、重複するRA06竪穴住居跡の埋土も含め色調や混入物等により17層に細分されている。全体的に見ると若干締まりと粘性のある黒褐色と暗褐色のシルトが大半を占め、壁際の埋土内には壁の崩落と推測される褐色シルトの堆積が観察されるほか、地山起源の明黄褐色のシルト粒を混入させる。堆積状況の観察では、壁際では外部からの流入を示す

斜め堆積であるが、中央部はほぼ平面的な堆積状況であり、全体として自然堆積により埋没したものと推察 される。

〈壁・床面〉 壁の深さは35cm~20cm前後でやや外傾して立ち上がり、床面には若干の起伏は見られるもののほぼ平坦であり、水平状態の部分が多い。床面は東壁寄り面積約3/1は段丘滎層に地山起源の明黄褐色シルトで貼床されるが、その他は皿層で構築され、カマド寄りの面積約3/2は踏みしめにより堅く締まる。

〈床面の施設〉 南壁際と北壁際の床面に壁溝が掘られているほか、貯蔵穴状の土坑は検出されていない。 南壁際の壁溝は幅・深さとも最大10cmで、中央やや西寄りに1.85mの長さがある。一方、北壁際は輻最大 20cm、深さ約10cmで、ほぼ中央に一部断続するが4.05mの長さがある。実測図には西壁際の北隅部寄りに 土坑が2種記載されているが、貯蔵穴とするには規模が小型であり、否定的である。

〈柱 穴〉 床面から柱穴状の小土坑が20基検出されている。規模は95cm×70cm~30cm×25cm、深さ 13cm~27cmの範囲とバラツキが大きいほか、位置関係も不規則でありいずれが主柱穴となるのか明確でない。

〈カマド〉 西壁の中央やや北隅部よりに構築され、袖部の他燃焼部・煙道部・煙出し部などが残存し、袖部は崩落した天井部が被さる形で検出された。袖部は左右とも芯に磔を補強材として配置し、それに褐色シルトを貼り付けて構築しており、袖部は長さ80cm~60cm、幅40cm~30cmほどである。燃焼部は60cm×30cmほどの広さがあり、焚き口部から燃焼部中央付近まで最大層厚5cmの焼土が広がり、焚き口部から30cmの位置に支脚が設置されている。煙道部は奥壁の床面から僅かに低くなって西に1.6m延びた刳貫き式で構築され、煙りだし口は径約40cmの楕円形をなし、深さは約45cmである。埋土は黒色や黒褐色、赤褐色をなし、ややしまりと粘性をもつシルトが堆積し、色調や混入物の違いなどにより12層に細分され、下層には焼土粒や炭化物粒が混在している。

逍 物 (第50図、写真図版41~42図)

埋土内や床面から土師器19点、須恵器2点、鉄製品2点、石製品1点の出土であるが、量的には少ない。 土師器-坏7点 (180·182·183·185·188·190)、高台付き坏2点 (181·184)、斑2点 (189·191) が含まれる。

坏7点はすべてロクロ使用成形、190以外は内面へラミガキ後黒色処理され、底部は回転糸切り離しで一部(182·185·186)手持ちヘラケズリ調整される。底部から軽い丸味を持って体部が外傾する器形で、端部が若干外反する個体が多い。

高台付き坏の2点(181・184)は体部下位~底部を残す破片であり詳細は不明であるが、いわゆる一般的な坏に高台を貼り付けた形と推測されるが、181には内面黒色がない。

翌の2点(189·191)は、ロクロ使用成形(189)とロクロ不使用成形(191)があるものの、前者は体部下位~底部、後者は口縁部~体部上位を残す破片のため全体的なことは定かでない。前者は底部が回転糸切り離しされ体部の内外面ともロクロナデ痕があり、後者は体部外面へラケズリ、内面ハケメ、口縁部は内外面ともヨコナデ調整される。体部に最大径があり、頚部で軽く窄み口縁部が外反する器形である。

須恵器-坏1点(192)、童1点(193)ある。坏はロクロ使用成形、底部回転糸切り離し無調整で、体部が僅かに丸味を持ち外傾する器形である。童はロクロ使用成形された口頚部のみを残存する個体である。その他-鉄製品(195·196)は器種不明の2である。石製品(194)は小型の砥石である。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀前半代に属すると推測される。

(8) RAO8竪穴住居跡(旧名称RA11)

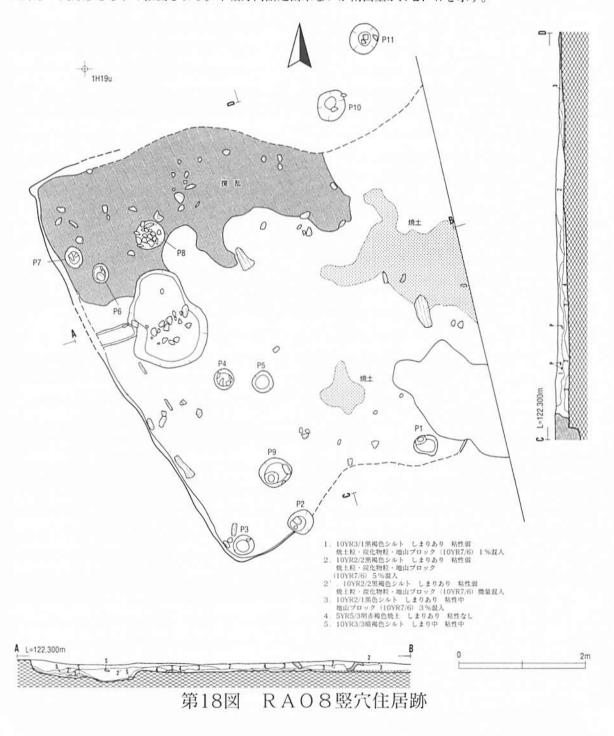
遺 構 (第18図、写真図版10)

〈位 置〉 RA05竪穴住居跡の東約8mで、-1H21u区~同21v区付近に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色に広がる黒褐色シルトによって確認されたが、北部と南部が後世の 攪乱による削平を受けており、南西壁と北西壁・南東壁の一部を検出したのみである。

〈重複状況〉 攪乱により詳細は不詳であるが、特に重複する遺構も無く単独で検出された。

〈平面形·規模〉 検出された南西壁の長さ7mからみて全体規模は7m×?と推測することができ、平面形は 正方形か長方形をなすと推測される。中軸方向断定出来ないが南西壁がN-27-Wを示す。



〈埋 土〉 大全体が5層に細分されているが、1・2層は黒褐色のシルト、3層は黒色のシルト、4層は明赤褐色の焼土、褐色のシルトであり、全体に焼土粒や炭化物粒が混入する。堆積状況の観察では自然埋没による堆積と推測された。また、埋土内に焼土や炭化物を多く含むなどから焼失住居である可能性がある。

〈壁・床面〉 残存する南西壁は床面から外傾し、約20cmの深さがある。残存状態が悪く詳細は不明であるが、床は基本的に凹層で構築されるが東寄りの一部段丘礫層が解出している。北部には黒褐色シルトと 混合したシルトによる貼床も観察され、踏みしめにより堅く締まる。

〈床面の施設〉 検出された床面の範囲では壁溝・貯蔵穴とも検出されていない。

〈柱 穴〉 柱穴状の小土坑は11基検出されているが、規模・位置関係とも不揃いであり、いずれが主柱穴を構成するかは不明である。

〈カマド〉 検出範囲では存在を確認していないことから、後世の攪乱により削平されたか、東壁に設置されていた可能性が強い。

遺 物 (第51~54図、写真図版42~44図)

埋土内や床面から土師器 7 点、須遮器 18 点、鉄製品 1 点出土している。

土師器-土師器には坏4点 (198·200·201·203)、高台付き坏2点 (199·202)、翌1点 (204) が含まれる。

坏はすべてロクロ使用成形で底部回転糸切り離し無調整であるが、内面はミガキ後黒色処理の2点 (198·201) と無処理の2点 (200·203) がある。体部が底部から若干丸味を持って外傾する器形はすべてに共通する特徴である。

高台付き坏の2点(199·201)には、体部下位~高台部を残す前者と高台部のみを欠失する後者があり、ロクロ使用成形された一般的な坏に高台部を貼り付けた器形と推測される。

翌はロクロ不使用成形された体部~口縁部を残す破片であるが、体部は外面へラケズリ、内面がヘラナデ、口縁部は内外面ともヨコナデで調整される。

須恵器-坏2点、童6点、翌10点出土している。

坏2点(205·206)はロクロ使用成形、底部が回転糸切り離し無調整で、器形は前者が体部に僅かな 丸味を持って外傾、後者は直線的に外傾し、ともに端部は軽く外反する。

壺の6点(207~212)には口縁部のみを残す4点(207~210)と、底部から口縁部まで残存する 2点(211·212)がある。前者の内207·208は長頚瓶的な雰囲気を持ち、他の2点は塑的な器形を推 測させ、すべてロクロ使用成形されている。後者2点の内211は塑的な量であるし、212は底部に高台 を付す等長頚瓶的な量と言えよう。2点ともロクロ使用成形であるが、後者は体部外面がヘラケズリ調 整される他、体部下端に並行叩き具痕を僅かに残す。底部の切り離しは211では回転糸切り離し無調整 である。

翌は10点 (213~222) と多いが、完形品はまったく出土していない。破片の状況から外面に並行叩き具痕を付す所謂大選が8点 (213~216·219~222) と壺的な器形を推測させる2点 (217·218) がある。大甕は内面に同心円 (213·222)、放射状 (214·219·220·221) の当て具痕があり、壺的な器形とした個体は無文である。すべて体部が大きく膨らみ口緑部は外反や直線的に外傾する共通の器形であるが、大甕の底部は丸底となろう。口緑端部は上方に引き出されて緑帯状の受口と、肥厚させて外折させる例がある。

その他-鉄製品は1点(223)の出土であるが、器種は片刃となり鉈状利器の残欠の可能性がある。

遺構の時期

出土した遺物の様相から平安時代前期の9世紀前半代に位置づけられると推測される。

2. 住居跡状遺構

4 棟の検出であるが、竪穴住居跡に比較して平面形や壁高はほぼ近似した状況を示すが。、カマドや床面から焼土が検出されないこと、規模が若干小型であること、などから住居跡状遺樽として区別した。

(1) REO1住居跡状遺構 (旧名称RAO8)

遺 構 (第19図、写真図版11図)

〈位 置〉 - I H24 s 区~ I H25 t 付近で、R E 02住居跡状遺構は西北西に約24mの距離がある。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色の埋土が露出したことにより確認した。重複する遺構もなく単独で検出された。

〈規模と形状〉 東-西1.90m、南-北1.80mの規模を持ち、平面形は東西方向が僅かに長い略方形をなし、 床の面積は約3.40㎡である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体をなし、褐色シルトの粒が若干混在する。

〈壁・床面〉 壁高は東23cm、西22cm、南25cm、北24cmほどあり、床面からやや外傾する部分もあるが、 ほぼ直立気味に立ち上がる。

〈柱 穴〉 床面内外ともに柱穴と推測されるような規模の土坑は検出されていないので不明である。

〈 カ マ ド 〉 カマドに伴うと推測される遺構、焼土とも検出されていないので、カマドは設置されていないものと理解される。

遺 物 (第54図224、写真図版44図)

南西壁際床面付近から、内外面黒色され高台を付した土師器坏が出土している。

土師器-完形の高台付き坏1点(224)が出土している。ロクロ使用成形され内外面ともミガキ後黒色処理され、底部の切り離しはヘラナデ調整で不明であるが、「ハ」字状の高台を貼り付けている。体部か丸味を持って外傾し、全体的な雰囲気は高台付き碗と言える。

遺構の性格と時期

出土した土師器の器形から平安時代前期の遺構と推測されるが、性格については不明である。

(2) REO2住居跡状遺構 (旧名称RD15)

遺 構 (第19図、写真図版11図)

〈位 置〉 -IH22g区付近で、RE04住居跡状遺構は北東にに約12mの距離がある。

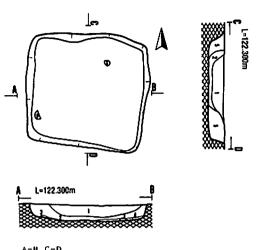
〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色に広がる埋土が検出されたことにより確認した。新期の柱穴状小土坑との重複は見られるが、竪穴住居跡や掘立柱建物跡との重複はない。

〈規模と形状〉 北東ー南西2.10m、北西ー南東2.00mの規模を持ち、平面形は北東ー南西方向が僅かに長い略方形をなし、床の面積は約4.20㎡である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体をなすが、床面付近に黒色シルトが層状に堆積する。

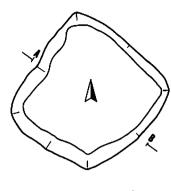
〈壁・床面〉 壁高は東28cm、西30cm、南35cm、北28cmほどあり、一部は床面からやや外傾するが、ほぼ 直立気味に立ち上がる。床面は凹凸が著しいものの、貼床などの処置は確認されていない。

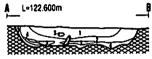
〈柱 穴〉 床面内外ともに柱穴状の土坑は検出されていないので不明である。



- A-B, C-D
 1. 10YR2/2 規格色土 しまり中 粘性袋 粘上質シルト
 10YR4/6円色上ブロックを10%介む 10YR1.7/1用色上ブロックを2%介む
 2. 10YR2/3 照視色土 しまり中 粘性魚 シルト 褐色上ブロックを15%介む
 3. 10YR4/6 褐色上上体 しまり中 粘性中 シルト 褐色土と規則色土の鞋上
 4. 10YR5/6 黄褐色土 しまり中 粘性中 砂質シルト 地山
 5. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 熱性症 砂質シルト

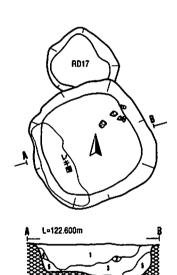
RED1





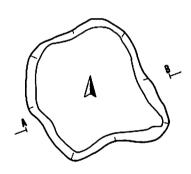
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまりややあり 粘性あり 粘土目シルト 地間起煙の両褐色土 (10YR5/6) をブロック状に10%合む 2. 10YR2/3 黒褐色土 しまりややあり 粘土剤シルト 1 財とはは同日であるが、黄褐色土の割りあいが有す多くやや明るい 3. 10YR2/1 黒色土 しまりややあり 粘土剤シルト 成褐色土材を3%合む
- 4. 10YR3/2 黒褐色比 しまりややあり 粘性あり 粘土冠シルト 異褐色比との紅土
- 5. IOYR5/6 料色シルト しまりややみり 松性ややあり 均川材

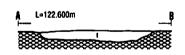
REO2



RE03

- A II 1 10YR2/I 無色土 しまりなし 精性あり 枯上質シルト 均山経 森の褐色土が下位を中心に 2 %質
- 環の報色主が下位を中心に2%以 人する 2. 107R2/2 現得色土 しまりなし 特性あり 均山起源の得色土か 下位を中心に2%現人する 3. 107R2/3 期間色土 しまり平を あり 特性あり 新士買ンルト 間色上(107R4/6) が頃状に7%
- は人する
 4. 10YR2/! 黒色! しまりややあり 粘性あり 褐色土 (10YR4/6) が2%起入する
 5. 10YR4/4 褐色砂質シルト しまりなし 熱性ややあり 均山原





1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 1~7四大の母を30%さむ

REO4



REO1~O4住居跡状遺構 第19図

〈 カ マ ド 〉 焼土等カマドに伴うと推測される遺構は検出していないので、設置しなかったと理解される。 **遺 物** (第54図225、写真図版19図)

埋土内から土師器が出土している。

上師器-ロクロ使用成形され内面がミガキ後黒色処理され、底部の切り離しはヘラナデ調整で不明な体部中位~底部を残す破片である。

遺構の性格と時期

出土した遺物から平安時代の遺構と推測される。

(3) REO3住居跡状遺構 (旧名称RD16)

遺 構 (第19回、写真図版11図)

〈位 置〉 - 1 H22 b 区付近に位置する。

〈検出状況〉 Ⅱ b 層~ Ⅲ 層上面で黒色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 北側がRD17土坑と重複し、新旧関係は当遺構の方が古い。

〈規模と形状〉 規模は、検出面で東西1.8m×南北1.7m、底面が東西1.45m×南北1.5m、壁高50cmであり、平面形は突辺隅丸のほぼ方形に近い形状をなし、約3m2の広さがある。

〈埋 土〉 上位は黒色シルト、下位が黒褐色シルト、最下部の壁際には褐色砂質シルトが堆積しており、中位の黒褐色シルトにも地山の褐色シルト粒が混入する。

〈壁・床面〉 壁は底面から軽く外傾して立ち上がるが、直線的な部分とやや不規則な部分がある。底面は東側が若干低くなり、全体として軽い起伏があるが堅い。また、西壁よりには地山礫層が露出する。

〈柱 穴〉 底面や周辺部からも柱穴状土坑は検出されていない。

〈カマド〉 設置されていない。底面に焼成の痕跡は見受けられない。

遺 物 (第54図226、写真図版19図)

埋土内から土師器が出土している。

土師器-ロクロ使用成形され内面がミガキ後黒色処理され、底部が回転糸切り離しの体部中位~底部を残 す破片である。

遺構の性格と時期

出土した遺物から平安時代の遺構と推測される。

(4) REO4住居跡状遺構 (旧名称RD28)

遺 構 (第19図、写真図版11図)

〈位 置〉 - 1 H 17 i 区付近に位置する。

〈検 出 状 況〉 IIb屑上面で黒色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。

〈規模と形状〉 規模は、検出面で東西1.8m×南北1.9m、底面が東西1.55m×南北1.6m、壁高18cmであり、平面形はやや不整な突辺隅丸のほぼ方形に近い形状であるが、南東隅部が軽く外方に突出する。

〈埋 上〉 黒褐色シルトの単層である。

〈壁・床面〉 壁は底面から大きく外傾して立ち上がり、直線的な部分とやや不規則な部分がある。底面 は東側が若干低くなるが、全体としてはほぼ平坦で水平に近い。 〈柱 穴〉 底面や周辺部からも柱穴を構成する土坑の検出は無い。

〈 カ マ ド 〉 設置されていない。底面に焼土等焼成を受けた痕跡は無い。

逍 物

埋土内から土師器が出土している。

遺構の性格と時期

出土した遺物から平安時代の遺構と推測される。

3. 掘立柱建物跡

当遺跡の発掘調査では4棟の掘立柱建物跡が検出されている。いずれも9本の柱が田の字状に配置されるほか、3棟がほぼ直線的かつ等間隔に配置するなど、共通した特徴がある。ほぼ同時期に建設された建物と考えることが出来よう。

(1) RBO2掘立柱建物跡

遺 構 (第20図、写真図版12図)

〈位 置〉 グリッドー1H21e区付近でRBO3掘立柱建物跡の南西約5mに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で柱穴が円形の黒色シルトの土層変化として検出された。

〈重 複 状 況 〉 新期のRG11満跡と重複し、当遺構の方が古い遺構である。

〈埋 土〉 埋土は柱穴によつて単層~5層に細分と違いはあるが、基本的にはやや粘性のある黒褐色か 暗褐色のシルトが堆積し、全体としてしまりがある。

〈規模と形状〉 全体規模が南東ー北西3.40m、南西ー北東3.40mであり、平面形態は若干の歪みはあるもののほぼ正方形に近い。中軸方向はN-50°-Eを示す。

〈柱 穴 配 置 〉 柱穴の配置関係を見ると、中間の柱位置は中心から若干ずれるものの各柱列の交点すべての 9箇所に田の字状に配置するいわゆる総柱建物である。

〈柱間 寸法〉 南東-北西3.40mにはほぼ中間の1.70mに、南西-北東3.40mは北東から1.80m+1.60mであり、各柱列には微妙に違いがあるものの、許容誤差の範囲と考えられる。

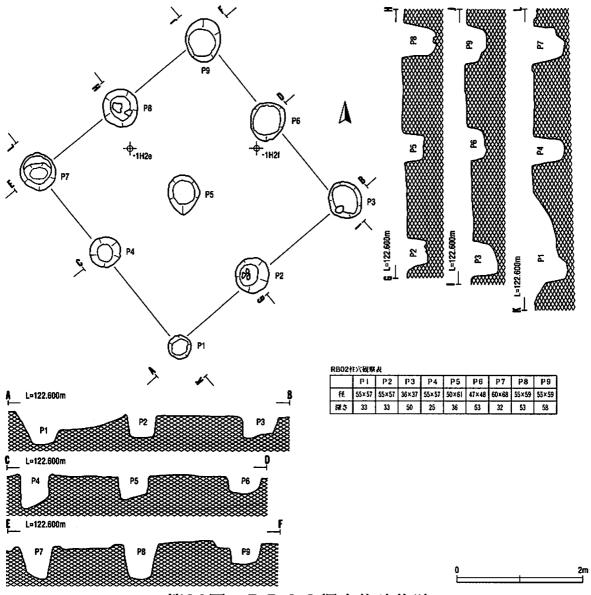
〈柱 穴 規 模〉 径約68cm~36cmとややパラツキがあるものの50cm以上の例が多く、平面形は円形か楕円形である。深さは55cm~25cmと若干の差があるものの30cmの深さがもっとも多い。

渤 物 (第57~58図271·275·276、写真図版47図)

埋土内から内外面に並行叩き具痕を付す須恵器大塾の体部破片が1点(271)と、鍋の口線部破片1点、高台付き坏1点が出土している。275はロクロ使用成形で外面がヘラケズリ調整され、内面はロクロナデ調整される口縁部破片である。276はロクロ使用成形で内面黒色処理がなく、一般的な坏の底部に高台を貼り付けた形である。

性格と時期

出土遺物などから時期や性格を明示出来る状況ではないが、平安時代の集落を構成する稲倉的な性格が想 定される。



第20図 RBO2掘立柱建物跡

(2) RBO3掘立柱建物跡

遺 構 (第21図、写真図版12図)

〈位 置〉 グリッド-1 H21e区付近でRB03号掘立柱建物跡の南西約5mに位置する。

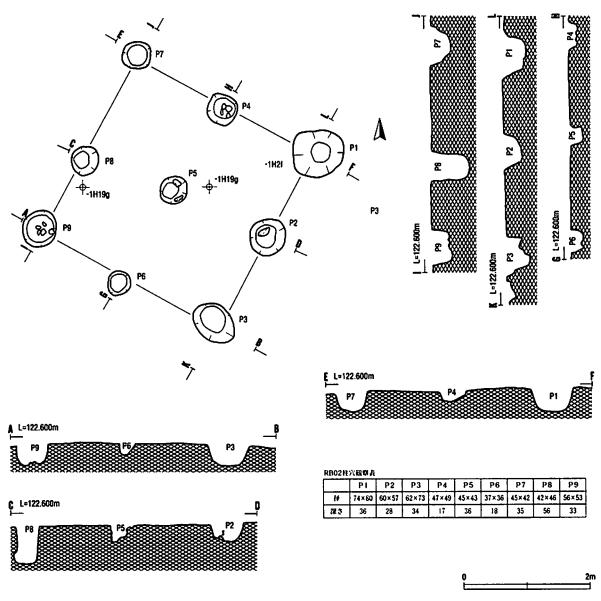
〈検出状況〉 Ⅲ 圏の上面で円形の黒色シルトの広がりとして検出されたる。

〈重複状況〉 新期のRG11満跡と重複する以外はまつたく重複しない。当遺構の方が古い遺構である。

〈埋 土〉 埋土は柱穴によつて単層~5層に細分と違いはあるが、基本的にはやや粘性のある黒褐色か 暗褐色のシルトが堆積し、全体としてしまりがある。

〈規模と形状〉 全体規模が南東ー北西3.40m、南西ー北東3.40mであり、平面形態は若干の歪みはあるもののほぼ正方形に近い。中軸方向はN-32°-Eを示す。

〈柱 穴 配 置〉 柱穴の配置関係を見ると、中間の柱位置は中心から若干ずれるものの各柱列の交点すべての 9箇所に田の字状に配置するいわゆる総柱建物である。



第21図 RBO3掘立柱建物跡

〈柱間寸法〉 南東-北西3.40mは1.70mのほぼ等間に、南西-北東3.40mは北東から1.80m+1.60mに分割されており、各柱列には微妙に違いがあるものの、許容誤差の範囲と考えられる。

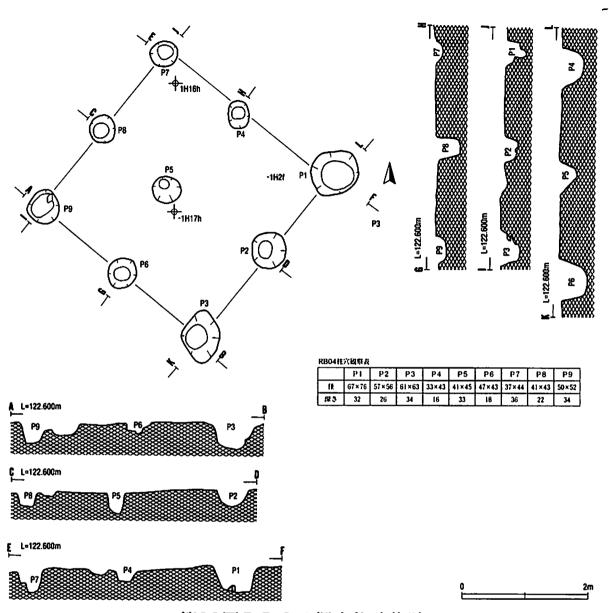
〈柱穴規模〉 径約80cm~37cmとややパラツキがあるものの40cm~40cm前後の例が多く、平面形は円形か 楕円形である。深さは56cm~17cmと大きな差があるが、30cm台がもっとも多い。

遺 物

遺物は出土していない。

性格と時期

遺物の出土が無いので時期を明示出来ないが、柱穴配置から稲倉的な性格の建物跡と推測され、集落を構成する遺構と判断される。



第22図RBO4掘立柱建物跡

(3) RBO4掘立柱建物跡

遺 構 (第22図、写真図版12図)

〈位 置〉 グリッド-1H17g区付近でRBo3号掘立柱建物跡の北東約5mに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で柱穴が円形の黒色シルトとして検出された。

〈重複状況〉 他遺構との重複はまつたく無く、単独で検出された。

〈埋 土〉 埋土は柱穴によって単層~5層と違いはあるが、基本的にはやや粘性のある黒褐色か暗褐色のシルトが堆積する共通性が見られ、全体としてしまりがある。

〈規模と形状〉 全体規模が南東-北西3.30m、南西-北東3.20mであり、平面形態は若干の歪みはあるもののほぼ正方形に近い。中軸方向はN-36°-Eを示す。

〈柱 穴 配 置 〉 柱穴の配置関係を見ると、中間の柱位置は中心から若干ずれるものの各柱列の交点すべての 9箇所に田の字状に配置するいわゆる総柱建物である。 〈柱間 寸法〉 南東-北西3.60mにはほぼ中間の1.65mに、南西-北東3.20mは北東から1.50m+1.70mであり、各柱列には微妙な出入りがあるものの、許容誤差の範囲と言うことが出来よう。

〈柱穴規模〉 径約67cm~33cmとバラツキがあるものの40cm以上の例が多く、平面形は円形か楕円形である。深さは36cm~16cmと差があり30cm~20cmがもつとも多い。

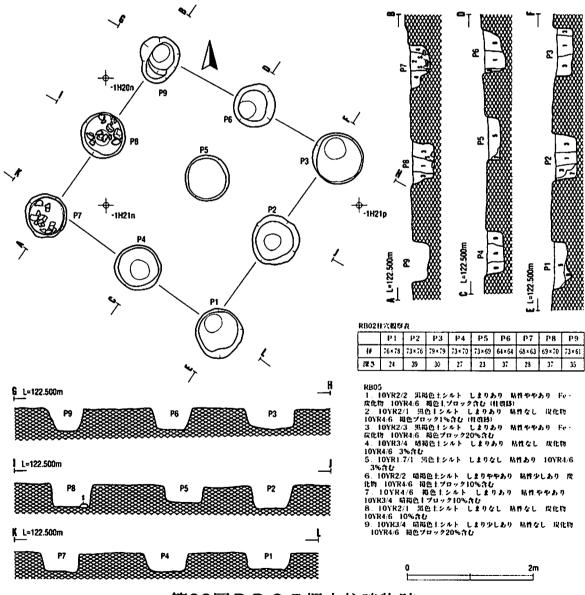
遺 物 (第58図272~274、写真図版47図)

柱穴内から須恵器が3点出土している。

須恵器の3点(272~274)は、272は外面に並行叩き具痕、内面に背海波文の当て具痕を付す大鲵の肩部上位破片である。273は壺(もしくは長頚瓶)の口縁端部の破片であり、274は外面の肩部上位はロクロナデし下位をヘラケズリ調整、内面はヘラナデやカキメ調整される號もしくは壺の類の体部破片である。

性格と時期

遺物の出土が無いので時期や性格を明示出来ないが、平安時代の集落に伴う稲倉的な性格が想定される。



第23図RBO5掘立柱建物跡

(4) RBO5掘立柱建物跡

遺 構 (第23図、写真図版13図)

〈位 置〉 グリッド-1 H21n区付近でRBo2号掘立柱建物跡の東約18mに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で柱穴が円形の黒色シルトとして検出された。

〈重複状況〉 他遺構との重複はまつたく無く、単独で検出された。

〈埋 土〉 埋土は柱穴によって単層~5層と違いはあるが、基本的には他の建物跡と同様、やや粘性のある黒褐色か暗褐色のシルトが堆積する共通性が見られ、全体としてしまりがある。

〈規模と形状〉 全体規模が南東-北西3.30m、南西-北東3.30mであり、平面形態は若干の歪みはあるもののほぼ正方形に近い。中軸方向はN-34°-Eを示す。

〈柱 穴 配 置〉 柱穴の配置関係を見ると、中間の柱位置は中心から若干ずれるものの各柱列の交点すべての 9箇所に田の字状に配置するいわゆる総柱建物である。

〈柱間寸法〉 南東-北西3.30mにはほぼ中間の1.65mに、南西-北東3.30mは北東から1.55m+1.65m であり、各柱列には微妙な差はあるものの、許容誤差の範囲と言うことが出来よう。

〈柱 穴 配 置 〉 径約79cm~61cmと差はあるがほぼ70cm前後の例が多く、平面形は円形か楕円形である。深 さは39cm~24cmの範囲と差はあるもののほぼ一定しており、全体として良く揃っている。

遺 物 (第54図228~230、写真図版44図)

埋土内から土師器が出土している。

土師器-ロクロ不使用成形された型の体部~頚部、体部~口緑部、口緑部の破片が3点(228~230)出 土している。体部外面はヘラケズリ(230)、ハケメ(228)、内面はヘラナデやハケメ調整され、口緑 部は内外面ともヨコナデである。

性格と時期

出土した遺物から平安時代前期の集落に伴う稲倉的な性格が想定される。

4. 土 坑

土坑は27基の検出であるが、そのほとんどが所属時期・用途などを明確に示す資料は得られていないことから、時期・性格とも不明の例が多い。

(1) RDO5土坑

遺 構 (第24図、写真図版14)

〈位 置〉 グリッド-1H17a区に位置する。

〈検出状況〉 II b 層中にR D 05・06・07土坑の3基が重複して検出された。II b 層は黒色土であるが、埋土はやや灰黒褐色気味を示している。

〈重複状況〉 RD06・07土坑と重複している。埋土断面の状況からRD06土坑が新しい。また、RD07 土坑は平面的な状況から当遺構の方が新しい。

〈規模と形状〉 平面形は楕円形、断面形は浅い皿状をなし、規模は検出面の開口部で径118cm×100cm、底部径89cm×74cm、深さ約22cmである。

〈埋 土〉 黒褐色シルト主体の単層である。

〈壁・底面〉 壁は外傾して綴やかに立ち上がる。底部付近に焼土及び炭化材を検出しているが、その性格は不明である。

迫 物

出土していない。

性格と時期

遺物の出土がないため時期・性格とも不明である。

(2) RDO6土坑

遺 構 (第24図、写真図版14)

〈位 置〉 グリッド-1G17y、-1H17a区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 II b 層中に R D 05・06・07土坑の各土坑と重複して検出された。 II b 層は黒色土であるが、埋土はやや灰黒褐色気味を示している。

〈重複状況〉 埋土断面の状況からRD05より古く、RD07土坑より新しい。

〈形状·規模〉 平面形は不発円形、断面形は浅い皿状をなし、規模は検出面の開口部で往170cm×147cm、底部径140cm×120cm、深さ約28cmである。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体の単層である。

〈壁・底面〉 壁は断面の状況からすると外傾して級やかに立ち上がると推測されるが、他の土坑との重複により、全容を把握出来ない部分がある。底部付近に焼土及び炭化材を検出しているが、その性格は不明である。

逍 物

出土していない。

性格と時期

出土遺物がないため時期・性格等定かでない。

(3) RDO7土坑

遺 構 (第24図、写真図版14)

〈位 置〉 グリッド-1G17yに位置する。

〈検出状況〉 II b 層中に R D 05・06・07土坑の各土坑と重複して検出された。 II b 層は黒色土であるが、埋土はやや灰黒褐色気味を示している。

〈重複状況〉 RD05土坑、RD07土坑に記載したとおりである。

〈形状·規模〉 平面形は楕円形、断面形は浅い皿状をなし、規模は検出面の開口部で径96cm×75cm、底部径78cm×57cm、深さ約10cmである。

〈埋 土〉 灰黒褐色シルトが主体の単層である。

〈壁・底面〉 RD06土坑との重複により全容の把握が出来ないが、西側壁は緩やかに外傾して立ち上がると推測される。

逍 物

出土していない。

性格と時期

出土遺物がないため時期・性格等定かでない。

(4) RDO8土坑

遺 構 (第24図、写真図版15)

〈位 置〉 グリッド-1H22e区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複する遺構は無く単独で検出された。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形は皿形より深い擂鉢状で、規模は検出面の開口部で径200cm×200cm、 底部径64cm×64cm、深さ約39cmである。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに外傾している。底部中央には地山礫層が露出している。

遺 物 (第55図232、写真図版45)

土師器小破片5点、須惠器小破片5点(壷・甕体部破片)が出土している。また、鞴羽口の破片と推測される土製品232も1点出土している。

性格と時期

出土遺物から平安時代の土坑である可能性が強い。

(5) RDO9土坑

遺 構 (第24図、写真図版15)

〈位 置〉 グリッド-1 H22 f 区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複遺構は無く単独で検出された。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形摺鉢状をなし、規模は検出面開口部で径192cm×185cm、底部径67cm×56cm、深さ約42cmである。

〈埋 土〉 黒色〜黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は底面の中央付近から緩やかに外傾して立ち上がり、開口部付近でやや直立気味になる。

遺 物 (第55図233、写真図版45)

土師器甕の体部破片が1点(233)出土している。外面がヘラケズリ、内面ハケメで調整される。

性格と時期

出土した遺物から平安時代の土坑と推測される。

(6) RD10土坑

遺 構 (第24図、写真図版15)

〈位 置〉 グリッド-1H24f区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複遺構は無く単独で検出された。

〈形状・規模〉 平面形はほぼ円形、断面形が皿状をなし、規模は検出面の開口部で径186cm×162cm、底部 径131cm ×56cm、深さ約24cmである。

〈埋 土〉 黒色シルトが主体的に堆積する。黒色土中には明黄褐色土の小塊が点在している。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

遺物 (第55図234、写真図版45)

埋土内から土師器の高台付き坏が1点出土している。ロクロ使用成形され、内面ミガキ後黒色処理の坏 に高台を付した形である。

性格と時期

出土した遺物から平安時代の土坑と推測される。

(7) RD11土坑

遺 構 (第24図、写真図版15)

〈位 置〉 グリッドー1H25g区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 重複遺構は無く単独で検出された。

〈形状・規模〉 平面形は不整円形、断面形が鍋底状をなし、検出面の開口部で径104cm×103cm、底部が径74cm×58cm、深さ30cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がり底面は平坦である。

遺 物 (第55図235、写真図版45)

埋土上部から上師器坏あるいは鉢の底部と推測される破片(内面黒色処理)が出土している。

作格と時期

出土した遺物から平安時代の土坑である可能性が強い。

(8) RD12土坑

遺 構 (第24図、写真図版16)

〈位 置〉 グリッド-1H22c区に位置する。

〈検 出 状 況〉 Ⅲ層上面で暗褐色シルトの広がりとして検出された。

〈 重複 状 況 〉 重複遺構は無く単独で検出された。

〈形状・規模〉 平面形は隅丸三角形、断面形が皿状をなし、検出面の開口部で径142cm×74cm、底部径135cm×58cm、深さ11cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は直立し、底面の北西側に地山礫層が露出している。

遺 物

陶磁器の破片と土師器の破片が数点出土している。

性格と時期

遺物の出土は有るが陶磁器を含むことや、形状や深さから土坑であるか否か疑問のある遺構である。

(9) RD14土坑

遺 構 (第24図、写真図版16)

〈位 置〉 グリッド1日2g区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 RD20土坑と重複しており、平面及び断面から当土坑の方が新しい遺構である。

〈形状・規模〉 平面形はほぼ凹形、断面形が鍋底状をなし、検出面の側口部で径98cm×84cm、底部径71cm×42cm、深さ29cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁はやや直立気味に立ち上がり、底面には凹凸がある。

遺 物

土師器の小破片と陶磁器の小破片が数点出土している。

性格と時期

遺物の出土はあるものの陶磁器片を含むことから最近の土坑と推測される。

(10) RD17土坑

遺 構 (第24図、写真図版16)

〈位 置〉 グリッド-1H22bと-1H22c区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重 複 状 況 〉 RE03土坑と重複しているが、平面及び断面の観察で新旧関係を明確にし得なかった。

〈形状·規模〉 平面形は隅丸方形状、断面形皿状をなし、検出面の開口部で径100cm×103cm、底部径85cm×77cm、深さ20cmの規模である。

〈埋 上〉 黒褐色シルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 外傾しながら立ち上がる。

逍 物

出土していない。

性格と時期

遺物の出土が無いので時期・性格とも不明である。

(11) RD18土坑

遺 構 (第24図、写真図版16)

〈位 置〉 グリッド-1 H18 d 区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で暗褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 RZ03溝跡と重複しているが、平面及び断面の観察で新旧関係を明確にし得なかった。

〈形状·規模〉 平面形は円形、断面形ピーカー状をなし、検出面の開口部で径190cm×190cm、底部径159

cm ×159cm、深さ36cmの規模である。

〈埋 上〉 黒褐色~暗褐色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は直立に立ち上がる。底面の約2/3には地山の礫層が露出している。

逍 物

上師器と須惠器の小破片が出土している。

性格と時期

出土し遺物から平安時代の土坑である可能性が強い。

(12) RD22土坑

遺 構 (第24図、写真図版17)

〈位 置〉 グリッド-1H19b·-1H19c区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 □層上面で黒色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 R Z 02円形周溝遺構の南側部分と重複しているが、新旧関係については明確にし得なかった。

〈形状・規模〉 平面形は不整形、断面形は丸鍋底状をなし、検出面の開口部で径221cm×64cm、底部径194cm×36cm、深さ32cmの規模である。

〈埋 土〉 黒色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は比較的緩やかに立ち上がり、底面にはほぼ全面に地山礫層が露出している。

逍 物

出土していない。

性格と時期

遺物が出土していないことや埋土の黒色土が比較的新規の土と推測されることから近現代の土坑の可能 性がある。

(13) RD23土坑

遺 構 (第25図、写真図版17)

〈位 置〉 グリッド-1H20b区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 RG11満跡を載っており、より新しいものである。

〈形状・規模〉 平面形は楕円形、断面形は鍋底状をなし、検出面の開口部で往183cm×86cm、底部往132cm×58cm、深さ25cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、埋土上位には木根痕が入り込んでいる。

〈壁・底面〉 壁は外傾しながら緩やかに立ち上がり、北西側には地山礫層が露出している。

山 物

須恵器甕体部破片が3点出土している。

性格と時期

出土した遺物から平安時代の土坑の可能性がある。

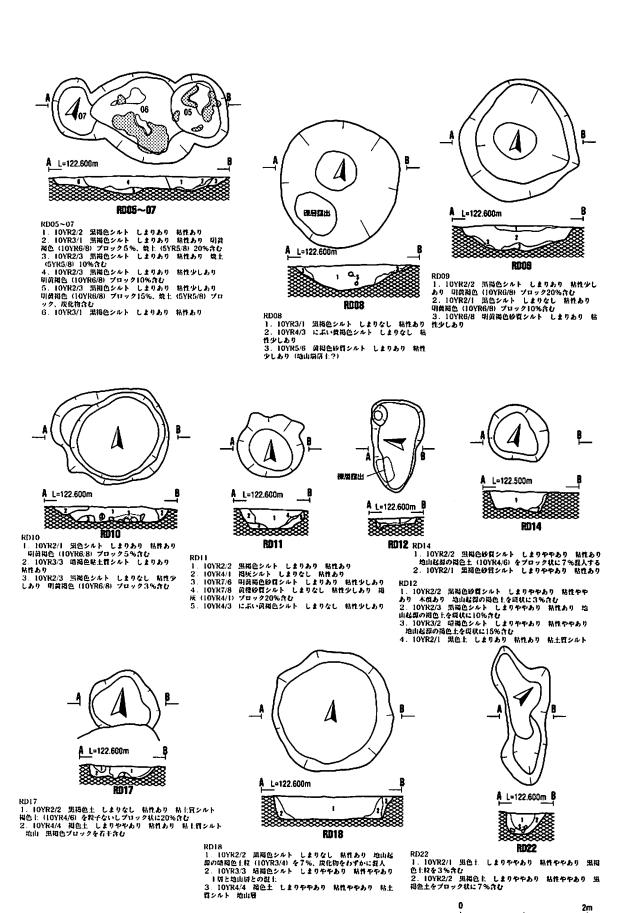
(14) RD24土坑

遺 構 (第25図、写真図版17)

〈位 置〉 グリッド-1H17k·-1H18k区に位置する。

〈検出状況〉 調査区中央部の礫層露出域で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複遺構は無い。



〈形状・規模〉 平面形は楕円形、断面形は鍋底状をなし、検出面の開口部で径196cm×141cm、底部径148 cm ×113cm、深さ42cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、埋土下位は砂や礫が主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾しながら綴やかに立ち上がり、開口部付近では直立気味となる。一部に地山礫層が露出し壁や底面は拳大の磔や砂で構成される。

逍 物

出土していない。

性格と時期

一応、土坑として登録したが、遺物が出土しないことや埋土の黒色土が比較的新規の土と推測されることから近現代の耕作に伴う土坑の可能性がある。

(15) RD25土坑

遺 構 (第25図、写真図版18)

(位 置) グリッド-1H19i区に位置する。

〈検出状況〉 田屑上面で暗黒褐色~黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複遺構は無い。

〈形状・規模〉 平面形は楕円形、断面形は丸鍋底状をなし、検出面の開口部で径110cm×82cm、底部径90 cm×53cm、深さ35cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、埋土中に焼土小塊や炭化材が混入する。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに立ち上がり、底面は丸味をおびている。

逍 物

土師器坏 (ロクロ使用・内面黒色処理?) 底部片、須思器甕体部破片が出土している。

性格と時期

出土した遺物から平安時代の土坑の可能性がある。

(16) RD26土坑

遺 構 (第25図、写真図版18)

〈位 置〉 グリッド-1H22k区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ屑上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 当土坑下部でPP145と重複しているが、当土坑が新しい遺構である。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形は皿状をなし、検出面の開口部で径115cm×103cm、底部径103cm×85 cm、深さ15cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、黄褐色シルト小塊が混入する。

〈壁・底面〉 壁は綴やかに立ち上がり、底面は丸味をおびている。

遺 物

出土していない。

性格と時期

遺物の出土がないので断定できないが、埋土の状況から近現代の土坑である可能性が強い。

(17) RD27土坑

遺 構 (第25図、写真図版18)

〈位 置〉 グリッド-1H17h·-1H18h区に位置する。

〈検出状況〉 調査区中央部滎層露出域で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 ない。

〈形状·規模〉 平面形は不整隅丸長方形状、断面形は皿状をなし、検出面の開口部で径197cm×95cm、底部径186cm×79cm、深さ25cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 土坑周辺は礫層が露出する区域であり、壁・底面も同様に礫が露出する。

遺 物

土師器小破片 (摩滅が著しい)、須惠器塑体部破片が出土している。

性格と時期

遺物の出土があるものの埋土の状況から近現代の土坑である可能性が強い。

(18) RD29土坑

遺 構 (第25図、写真図版18)

〈位 置〉 グリッド-1H19c区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 RD02土坑と重複しているが、平面や断面の観察で当土坑が古い土坑である。

〈形状・規模〉 平面形は隅丸方形状、断面形は皿状をなし、検出面の開口部で径93cm×70cm、底部径86cm×59cm、深さ9cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、焼土塊が僅かに混入する。

〈壁・底面〉 全体として浅く、壁・底面ともⅢ層であるが、一部不規則である。

逍 物

出土していない。

性格と時期

出土遺物が無いので断定出来ないが、埋土の状況から近現代の土坑、もしくは耕作に伴う掘り込みの可能性が強い。

(19) RD30土坑

遺 構 (第25図、写真図版19)

〈位 置〉 グリッド1日3m区に位置する。

〈検 出 状 況〉 □層の上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複する遺構はない。

〈形状・規模〉 平面形は円状、断面形は不整形をなし、検出面の阴口部で径100cm×100cm、底部径100cm× 100cm、深さ23cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積するが、下部は黒褐色シルトと黄褐色シルトが混在する。 また、検出面で焼土塊が確認されたほか、埋土中位の一部に炭化物が点在する。 〈壁・底面〉 壁はほぼ直立であるが、底面の起伏が著しく不規則である。

遺 物

土師器の小破片が出土している。

性格と時期

土師器の破片が出土しているものの、埋土の状況から近現代の土坑の可能性が強い。

(20) RD31土坑

遺 構 (第25図、写真図版19)

〈位 置〉 グリッド-1H20|と-1H21|区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 重複する遺構はない。

〈形状・規模〉 平面形は長楕円形、断面形は皿形をなし、検出面の開口部で径138cm×62cm、底部径119cm×43cm、深さ14cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁は級やかに立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 (第55図230、写真図版)

土師器坏と甕の小破片が5点出土している。230は甕の体部下端~底部ほを残す破片であるが、ロクロ不使用成形されたと推測され、底面に砂を付着させる砂底である。

性格と時期

土師器の破片が出土しており、平安時代の可能性が強い。

(21) RD32土坑

遺 構 (第25図、写真図版19)

〈位 置〉 グリッド-1H18c区に位置する。

〈検出状況〉 回層上面で、R Z 02を精査中に、黒色シルト域部分とR G 09と重複して検出された。

〈重複状況〉 平面形からRG09より当土坑の方が古いと推測されるが、主体部との新旧関係は断定出来ない。

〈形状・規模〉 平面形はほぼ円形、断面形は丸底鍋状をなし、検出面の開口部で径101cm×90cm、底部径67cm×52cm、深さ24cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁・底面とも地山礫層が露出する。

逍 物

出土していない。

性格と時期

不明である。

(22) RD33土坑

遺 構 (第25図、写真図版19)

〈位 置〉 グリッドー1H24k・-1H25k区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 □層上面で楕円形状の土師器と須恵器を出土する黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。

〈形状・規模〉 平面形はほぼ円形、断面形は丸底鍋状をなし、検出面の開口部で径101cm×90cm、底部径67cm×52cm、深さ24cmの規模である。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトが主体的に堆積する。

〈壁・底面〉 壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁・底面とも地山礫層が露出する。

遺 物 (第55図237~239、写真図版45)

埋土内から土師器坏2点と (237・238) 須恵器大甕1点 (239) のほか小破片が出土している。

土師器坏の2点はロクロ使用成形で内面ミガキ後黒色処理され底部が回転糸切り離しと共通するが、237は体部下端がヘラケズリ、238は底面がヘラナデによる再調整がある。

須恵器大跳(239)は体部~口縁部を残す個体である。ロクロ使用成形され肩部~口縁部はロクロナデ痕のみを付し、肩部より下位は外面に並行叩き具痕にヘラナデ痕、内面には並行当て具痕が付されている。

性格と時期

出土した遺物により平安時代9世紀代の遺構と推測される。

(23) RD37土坑

遺 構 (第 図、写真図版)

〈位 置〉 グリッド-1H15p区・RA03のカマド西脇付近に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面においてRAO3のプランの一部として検出した。当初はRAO3に伴うものとも考えられたが、精査の結果、別遺構として確認された。

〈重複状況〉 RA03と重複しているが、攪乱によりRA03との新旧関係は明らかではない。

〈形状·規模〉 平面形は開口部径52cm×48cmのやや楕円形で、断面形は丸底鍋状、深さ24cmである。

〈埋 土〉 黒褐色のシルトの単層である。拳大の磔や土師器片をやや多く含んでいる。

〈壁・底面〉 壁はやや外傾しており、底面は僅かにくぼむ。

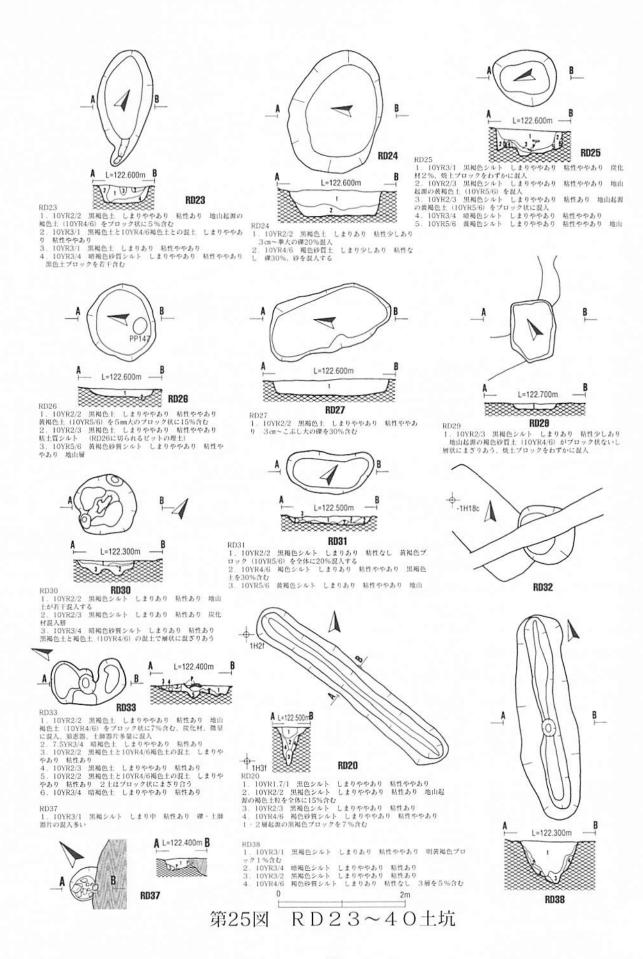
遺 物 (第56図245~249、写真図版)

埋土内から土師器の坏(245・246)と鍵(247~249)が出土している。

ロクロ不使用成形の坏 (245) は内外両面ともに黒色処理されている。一方、246はロクロ使用で、かつ 内面黒色処理されないものであり、出土した杯2点には時期差があると推測される。また、甕は2点 (247・ 248) がロクロ使用、1点 (249) がロクロ不使用のものである。

性格と時期

出土した遺物から、平安時代の土坑と推測される。



5. 陥し穴状遺構

満状をなす縄文時代の陥し穴状遺構が2基検出されている。

(1) RD20陥し穴状遺構

遺 構 (第25図、写真図版17)

〈位 置〉 グリッド1Hlf・1H2f・1H2g区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒色シルトの広がりとして検出された。

〈重 複 状 況 〉 RD14土坑と重複しているが、平面及び断面の観察で当土坑の方が古い遺構である。

〈形状・規模〉 検出面の開口部で長径367cm×短径54cm、底部の長径343cm×短径8cm、深さ61cmの規模を持ち、平面形は細長い溝状、断面形が漏斗状をなし、長軸方向はN-50°-Wを示す。

〈埋 土〉 上部は黒色のシルト、中~下部は黒褐色シルトが主体であり、壁際は壁の崩落土と推測される黒褐色シルトと褐色シルトの混合土になっている。

〈壁・底面〉 壁は上部まで底面からやや外傾してほぼ直線的に立ち上がり、開口部付近では大きく外傾する。底面はやや中央が窪む様相を示す。

遺 物

遺物は出土していない。

性格と時期

遺物の出土は無いが縄文時代中期以降と推測される。

(2) RD38陥し穴状遺構

遺 構 (第25図)

〈位 置〉 グリッドー1 h24w区に位置する。

〈検出状況〉 調査区北西端、拡張部分のII b 層上面で褐色シルトの広がりとして検出した。本来はII a 層から掘り込まれた可能性がある。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。

〈形状・規模〉 検出面の開口部で長軸330cm×短軸80cm、底部長軸285cm×短軸20cm、深さ70cmの規模で、平面形は細長い清状、断面形はV字に近い漏斗状をなし、長軸方向はほぼ南北を示す。

〈埋 土〉 黒褐色シルト〜褐色砂質シルトが堆積し、4層に細分される。

〈壁・底面〉 底部はほぼ直線的で、やや丸味を持つ底面から壁面が外傾する。

遺 物

出土していない。

性格と時期

縄文時代中期以降の遺構と推測される。

6. 池状遺構

1基検出した。池跡とした根拠は、当土坑から東西方向に溝跡(RG12・13・14)が延びているが、新旧関係の観察では新旧関係を明瞭に判別できず、むしろ同時存在し消跡と一体となる土坑と解釈した方が理解し易かったことによる。

(1) RZO3池状遺構

遺 樽 (第26図、写真図版22)

〈位 置〉 グリッド1H3r区に位置し、北半約50%は調査範囲外に延びる。

〈検 出 状 況〉 □層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重 複 状 況 〉 当池跡には東西に溝跡 (RG12・13・14) が延びるが、本来は重複関係として精査したが、新旧関係を明瞭に判断出来なかった。むしろ同時存在した遺構と解釈された。

〈形状・規模〉 検出面で長径5 m×短径2.8m、底面の径1.9m×1.9m、深さ95cmの規模があり、平面形は 楕円形と推測され、断面形は大小の皿を重ねたような形である。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体であるが、上位層は比較的粘性・しまりともあり、下層は褐灰色シルトで、粘性・しまりとも上位層より弱い。なお、最下層の6・7層は帯水状態で沈殿した粘土状態の 土であり、腐葉や植物の根等の堆積物が観察されている。また、5層と6層の間には十和田A降下火山灰 の堆積が確認されている。

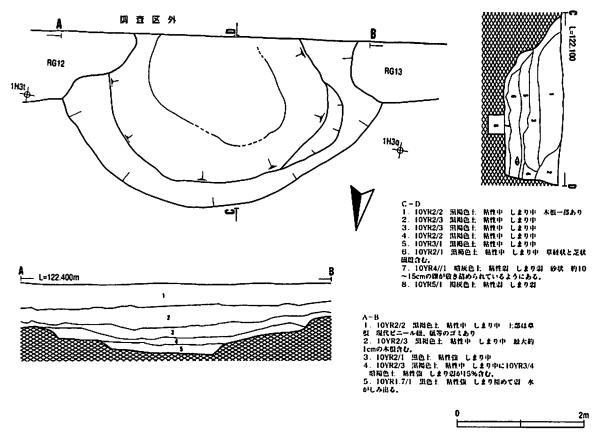
〈壁・底面〉 本来は底面が平坦で壁が外傾するやや深めの皿形と推測されるが、調査後の現状では大小の 皿を重ね合わせたような形である。

遺物 (第56図251~252、写真図版46)

土師器の破片が48点出土しているが、摩滅が著しいことと小破片のため復元された物はない。土師器坏の 底部片1点と須恵器大甕の体部破片1点を掲載した。

性格と時期

埋土内にAD915年降下とされる十和田A降下火山灰の堆積が確認されていることと、出土した遺物が平安時代の土師器と須恵器のみであることから、平安時代の遺構と言えるが、機能・性格については取りあえず池跡としたが、埋土の観察により帯水していたことは事実と思うが、池跡であるかは今後検討を要する。



第26図 RZO3池跡

7. 溝跡

9条検出したが、一部は長い例もあるが、短く完結する例もあり、性格を明確に出来なかった。また、所属時期にしても、平安時代の土師器や須恵器を出土した例も存在するが、埋土の観察ではそれほど古い堆積 状況と判断出来ない。おそらくは近現代の消跡が大半であろうと推測される。

(1) RGO9溝跡

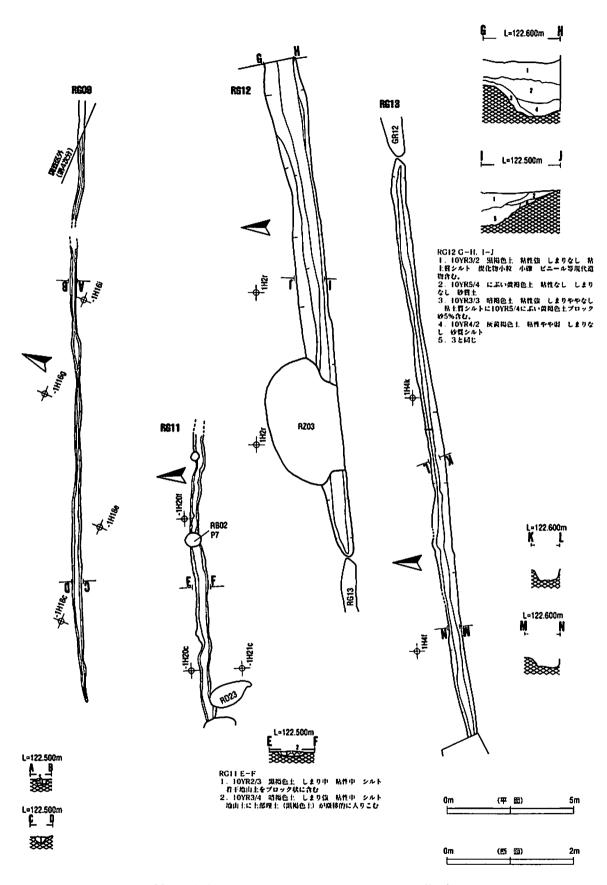
遺 構 (第27図、写真図版23)

〈位 置〉 グリッド-1H18a~-1H12q区にまたがって位置する。調査区の北半をおよそ南西-北東に横断する形で延びており、東半分が4次調査範囲、西半分が3次調査範囲にまたがる。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 当溝跡の西端部分でR Z02とR D32と重複している。埋土などの観察からR Z02より当遺構が新しく、R D32との新旧関係は明確にし得なかった。

〈形状·規模〉 形状はほぼ直線的に延びるが、西端部は調査区境付近で止まり、東端部は北東側の調査範囲



第27図 RGO9・11~13溝跡

外にさらに延びる。規模は検出された総延長約35m、幅は検出面で24cm~34cm、底面で14cm~20cmであり、深さは地点によってバラツキはあるものの概ね8cm~24cmの範囲であるが、溝の西半・中央・北東側の高低差についてレベル数値で比較すると、顕著な違いが無いことから、検出面の高低差によるものと推測される。長軸の方向はN-65°-Eを示す。

〈埋 土〉 ほぼ黒褐色シルト主体の単層であり、地点による大きな違いは見られないが一部に砂質シルトや砂が入り込んでいる。また、壁及び底面に地山礫圏の露出する部分がある。

〈壁・底面〉 断面形がほぼ全域でU字状であり、地点による差はほとんど無い。

遺 物

土師器と須惠器の小破片が数点出土している。

性格と時期

遺構の重複による新旧関係では古墳時代以降、出土遺物からでは平安時代以降の溝跡となるが、埋土の状況では近現代の遺構である可能性が窺える。

(2) RG11溝跡

遺 構 (第27図、写真図版23·24)

〈位 置〉 グリッド-1H20b~-1H20g区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 田周上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈 重 複 状 況 〉 中央部~東半にかけてpp199・pp224と重複する。 埋土の状態から当満跡が古い遺構である。

〈形状・規模〉 形状はほぼ東西方向に直線的に延びるが、調査区西側で現代の攪乱及び11層黒色土の落ち込み等によって分断されている様相を示す。東側は次第に埋土が浅くなり、-1 H20g付近の礫層に差し掛かると遺構が検出出来なくなる。検出された総延長約11m40cmほどで、幅は検出面で26cm~53cm、底面で15cm~35cm、深さ13cmほどである。底面の高低差に顕著な差は見られない。

〈埋 土〉 黒褐色シルト~暗褐色シルトが堆積している。

〈壁・底面〉 断面形がほぼ全域で皿状であり、地点による差は無い。

逍 物

出土していない。

性格と時期

時期を決定する資料は得られていないが、埋土の状況から近現代の消跡の可能性が強い。

(3) RG12溝跡

遺 構 (第27図、写真図版24)

〈位 置〉 グリッド1H3s~1H3y区にまたがって位置し、R203池跡から東に延び東端は調査範囲外にさらに延びる。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 西端部がR Z 03池跡と重複もしくは接続するが、精査の結果新旧関係よりも同時存在の遺構と認識された。

〈形状・規模〉 規模は、検出面で幅 $0.8m\sim1.80m$ 、底面の幅 $52cm\sim85cm$ 、深さ50cmであり、検出された延長は12mである。断面形はU字状をなす。

〈埋 土〉 最上層は黒褐色シルトであるが、中位層は黄褐色や暗褐色のシルトが堆積し、最下層は灰 黄褐色シルトでる。層で多少の違いはあるがどの層にも粘性はあるものの、しまりはあまり見られない。

〈壁 ・底 面〉 地点によって若干異なるが、やや丸味を持つ底面から外傾して立ち上がる。

遺 物

出土していない。

性格と時期

池跡の一部を構成する遺構であることから、平安時代の遺構と言えよう。

(4) RG13溝跡

遺 構 (第27図、写真図版24)

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出された。

〈重複状況〉 東端部がRG14消跡と相対しているが、検出時には離れていたが、本来は接続し同一の消跡の可能性が強い。現状では重複する遺構は無い。

〈形状·規模〉 規模は、検出面で幅28cm~52cm、底面の幅18cm~36cm、深さ10cm~15cmであり、検出された延長は26mである。断面形はU字状をなす。

〈埋 土〉 最上層は黒褐色シルトであるが、中位層は黄褐色や暗褐色のシルトが堆積し、最下層は灰黄褐色シルトとRG12満跡と同様である。

〈壁 ・底 面〉 地点によって若干異なるが、やや丸味を持つ底面から外傾して立ち上がり深い皿形に近い。

遺 物

出土していない。

性格と時期

池跡ととした土坑に付随する溝跡とすれば、平安時代に位置づけられる。

(5) RG14溝跡(旧名称RZ03)

遺 構 (第28図、写真図版24)

〈位 置〉 グリッド-1H14c区に位置し、北東側にRG15溝跡が位置する。

〈検 出 状 況〉 Ⅲ屑上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈形状・規模〉 検出された総延長約4mほどで、幅は検出面で8cm~16cm、底面で3cm~7cm、深さ2cm~10cmと浅く、形状はほぼ直線的で両端は完結しこれに続く様相の溝は無い。長軸の方向はN -34° -Eを示す。

〈埋 土〉 黒褐色シルト〜砂質シルトが主体的に堆積している。

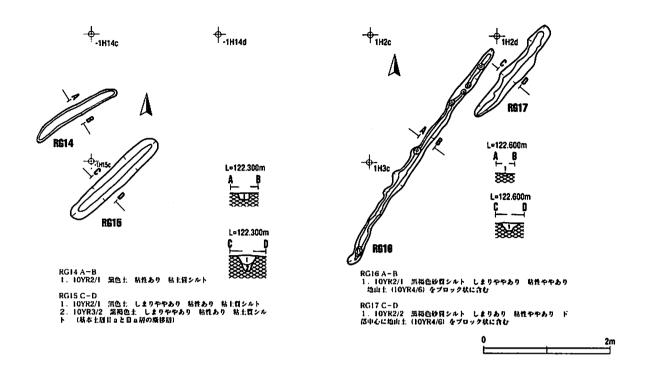
〈壁・底面〉 断面形はU字状〜捕り鉢状を示し、底面には小穴が連続して検出されたが、柵列の様相とも 異なり性格不明である。

遺 物

出土していない。

性格と時期

時期を決定する資料は得られていないが、埋土の状況から近現代の遺構の可能性が強い。



第28図 RG14~17溝跡

(6) RG15溝跡(旧名称RZ04)

遺 構 (第28図、写真図版24)

〈位 置〉 グリッド-1H14c・-1H14cg区にまたがって位置し、北西1mの場所に規模・形状の近似するRG14溝跡が位置する。

〈検出状況〉 調査区北西端のⅡ b 層中で灰黒褐色シルトの広がりとして検出した。

(重複状況) 重複する遺構は無い。

〈形状・規模〉 検出された総延長約1m77cmほどで、幅は検出面で31cm、底面で10cm、深さ25cmである。 両端とも完結する様相を示し、形状は溝状型の陥し穴状遺構的であるが、深さが25cmと浅く断定出来ない ので、収りあえず溝跡とした。長軸の方向はN-48°-Eを示す。

〈埋 土〉 黒色〜黒褐色シルトが主体的に堆積している。

〈壁 · 底面〉 検出面・壁・底面とも II b 層の黒色土中にあり、埋土との判別が困難であるが、断面形は捆り鉢状を示す。

逍 物

出土していない。

性格と時期

時期を決定する資料は得られていないが、埋土の状況から近現代の遺構の可能性が強い。

(7) RG16溝跡 (旧名称RZ05)

遺 構 (第28図、写真図版25)

〈位 置〉 グリッド-1H2c・-1H3cg区にまたがって位置し、北東側にRG17満跡が位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。

〈形状·規模〉 検出された総延長約4mほどで、幅は検出面で8cm~16cm、底面で3cm~7cm、深さ2cm~10 cmと浅く、形状はほぼ直線的で両端は完結しこれに続く様相の溝は無い。長軸の方向はN-34°-Eを示す。

〈埋 土〉 黒褐色シルト~砂質シルトが主体的に堆積している。

〈壁・底面〉 断面形はU字状〜捆り鉢状を示し、底面には小穴が連続して検出されが、柵列の様相と も 異なり性格不明である。

遺 物

出土していない。

性格と時期

時期を決定する資料は得られていないが、埋土の状況から近現代の遺構の可能性が強い。

(8) RG17溝跡(旧名称RZ06)

遺 構 (第28図、写真図版25)

〈位 置〉 グリッド-1H2dに位置し、南西側に並行するようにRG16灌跡が位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。〈形状・規模〉検出された総延長約1m79cmほどで、幅は検出面で22 cm~28cm、底面で6cm~10cm、深さ8cm~16cmである。形状はほぼ直線的で両端は完結し、これに続く様相の満は無い。長軸方向はN-38° - Eを示す。

〈埋 土〉 黒褐色シルト~砂質シルトが主体的に堆積している。

〈壁·底面〉 断面形はU字状を示し、底面はやや不整形で起伏がある。

遺 物

出土していない。

性格と時期

時期を決定する資料は得られていないが、埋土の状況から近現代の遺構の可能性が強い。

8. 円形周溝遺構

2基検出している。当初は古墳的な墳墓の区画に伴う溝跡と推測していたが、精査で主体部が未検出であることから、既述の性格を念頭に置きながらも周溝遺構とした。

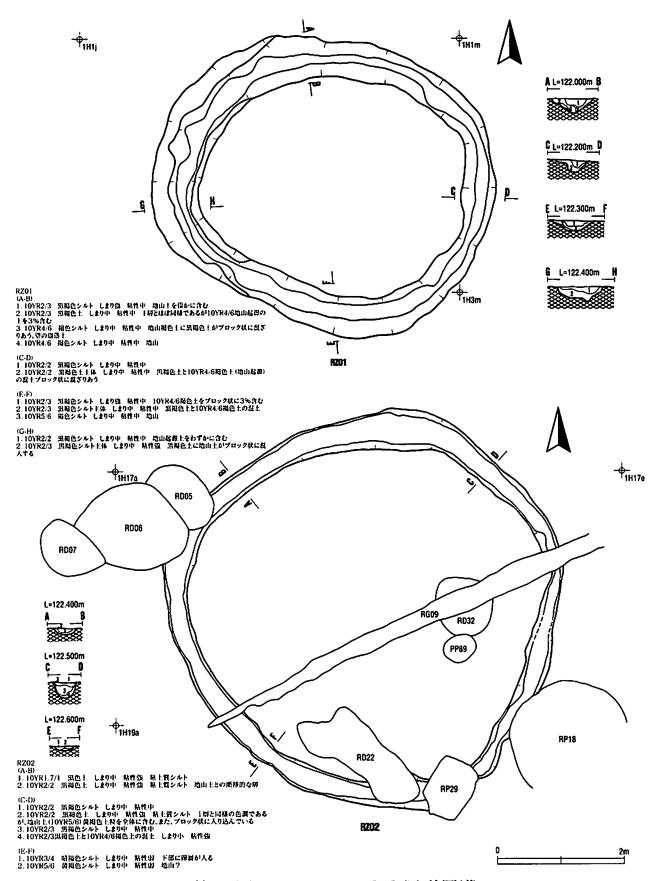
(1) RZO1円形周溝

遺 梢 (第29図、写真図版20·21)

〈位 置〉 調査区の南側グリッド1H1k~1H21区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 □層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 当周溝遺構内にR Z 04土壙墓とR Z 05土壙墓が検出されているが、R Z 04土壙墓以外は直接的な重複関係ではない。新旧関係は当土坑の方が古い遺構である。



第29図 RZO1・O2円形周溝

〈形状・規模〉 平面形は環状に巡る溝であるが、規模は、外径が東西5m40cm×南北4m70cm、内傾が東西4m14cm×南北3m42であり、全体形が正円ではなく東西にやや長くなる楕円形的である。周溝の幅は検出面で32cm~86cm、底面で12cm~32cmであり、深さは12cm~25cmと、位置によって幅・深さとも若干の差がある。

〈埋 土〉 上半は黒褐色シルト主体であり、下半は黒褐色シルトに黄褐色シルトが小塊状で混在する。

〈壁・底面〉 断面形がほぼ全域でU字状〜間り鉢状であるが、壁は底面から直立気味に立ち上がった後、 級やかに外傾する。なお、周滞で区画された内部では既述した別遺構の検出はあつたが、当遺構に伴う土 坑等の検出は無い。

遺 物 (第56図250、写真図版46)

周溝の埋土内から土師器と須恵器の破片が数十点出土しているが、土師器の破片は全体として摩滅が著しいため、本報告では須恵器の体部破片 1 点 (250) を掲載した。

須惠器-250は外面に並行叩き具痕、内面に並行のち無文凸面の当て具痕が付される。所謂大塾の体部破片である。

性格と時期

出土遺物では平安時代の遺構となるが、破片での出土であり決定的では無い。性格も決定付ける資料は得られていないが、これまでの調査経験から平安時代の墳墓を区画した溝である可能性が考えられる。

(2) RZO2円形周溝

遺 構 (第29図、写真図版21)

〈位 置〉 調査区の北西側グリッド-1H17b~-1H19d区にまたがって位置する。

〈検出状況〉 II b 層~II 層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 当周満遺構を横断するようにRG09が、周溝北東部でRD05と重複関係にあるが、当遺構よりいずれも新しい遺構である。さらに、南部でRD18・RD22・RD29とも重複するが、RD22は明確でなかったが他の2週構は当遺構よりも新しい遺構である。

〈形状・規模〉 平面形は環状に巡る溝であるが、規模は、外径が東西6 m25cm×南北6 m28cm、内径が東西5 m65cm×南北5 m30であり、全体形がほぼ正円に近い。周溝の幅は検出面で21cm~65cm、底面で16cm~46cmであり、深さは3cm~20cmと、位置によって幅・深さとも若干の差がある。

〈埋 土〉 北側は周辺がII b層の黒色シルトであり、埋土は黒色シルト〜黒褐色シルトが主体であるが、一部は黒褐色〜暗褐色シルトが主体である。

〈壁・底面〉 断面形は、II b層の広がる北側はU字状をなし他より深く、西~南側は周滯の掘り込みが 浅いため断面形も皿状をなし、埋土も暗褐色シルトが主体である。東側は溝の掘り込みが明確に検出され ないことから、全体か馬蹄形となる可能性もあるが、かろうじて黒褐色~暗褐色シルトが断続的に続くこ とから、環状に全周するものと推測した。周滯で区画された内部から当遺構に関連すると考えられる遺構は 検出されていない。

遺 物

埋土内から土師器と須恵器の破片が出土しているが、全体として摩滅が著しい。

性格と時期

出土した遺物が少量のため時期を明確にし難いが、先のR 201円形周遺構と同様の性格が想定される。

9. 十壙墓

3 基検出している。人骨の残存は不良であったが、出土した副葬品から近世~近代頃の墓壙と判断された。

(1) RZO4土壙墓

遺 構 (第30図、写真図版22)

〈位 置〉 グリッド1日21区に位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層の上面で攪乱によると推測される黒褐色シルトと地山褐色シルトの混合土の広がりとして検出された。

〈重複状況〉 RZO1周滞遺構と東端部が重複しているが、当遺構の方が新しい遺構である。

〈形状・規模〉 長径1.3m×短径95cm、深さ約35cmほどの規模があり、平面形は隅丸長方形気味で断面形は深皿状に近い。

〈埋 土〉 埋土は7層に細分されているが、中央部に棺跡の痕跡と推測される黒褐色シルトが堆積するほか、その周辺を暗褐色や黒褐色のシルトに地山黄褐色シルトが混在する土が1層を取り囲むように 堆積し、どの層も混合比率の多少はあるが大同小異と言える。

遺 物 (第56~57図253~259、写真図版46・47)

埋土下部から人骨の下顎骨辺や歯のほか、銅製の柄鏡や陶磁器・櫛などが出土している。

柄鏡の鏡部は径11.2cmの正円で鏡面は僅かな凸面で無文、背面は緑に幅2.5cmの高さ2cmほど、さらに3cm内側にも径5.8cmで幅2.5cmの突帯が全周し、外区に「藤原光長」の銘、内区には蝶が3匹鋳出されている。文様のない部分は魚子地である。柄部は幅2cm、長さ8cmの直方体である。

257は型作りの平面が凸レンズ状をなす紅皿で、体部外面は菊花の花弁状をなし口緑部は輪花となる。 その他として鉄釘1点(253)、カミソリ状の鉄製品残欠1点(254)、梳き櫛残欠1点(255)、種類不明 1点(256)がある。また、数珠様のガラス小玉79点(258)が、歯および柄鏡周辺から出土している。

性格と時期

出土した柄鏡の時期から近世~近代初期頃の土壙墓と言えよう。

(2) RZO5土壙墓

遺 樽 (第30図、写真図版23)

(位 置) グリッド1H3k区に位置する。

〈検出状況〉 田層上面で土坑と推測される黒褐色シルトと褐色シルトの混合土の広がりとして検出した。

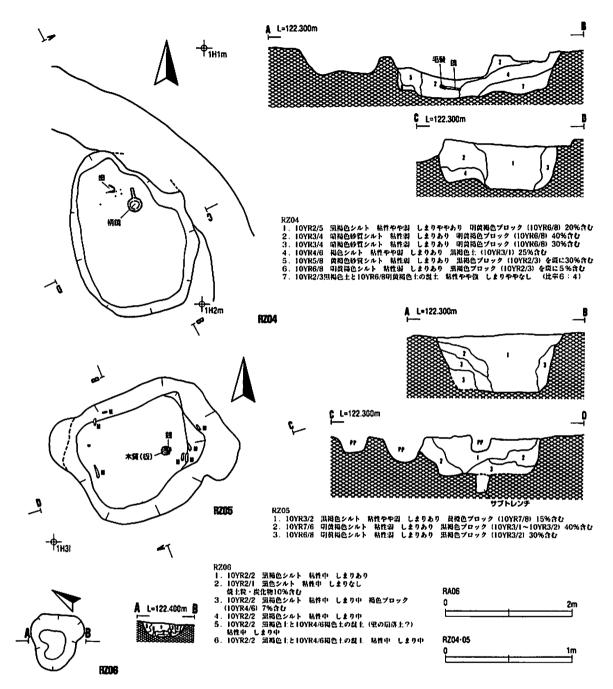
〈 重複状況〉 重複する遺構は無く単独で検出された。

〈形状·規模〉 長径1,2m×短径1m、深さ約40cmほどの規模があり、平面形は隅丸長方形気味で断面形は平坦な底面から壁が軽く直線的に外傾する深皿状に近い。

〈埋 土〉 埋土は3層に細分されるが、中央部分に棺跡の痕跡となる黒褐色シルトが堆積し、その周囲を取り囲むように暗褐色や黒褐色のシルトに地山黄褐色シルトを混在する土が堆積し、どの層も混合比率の差はあるが大同小異と言える。

遺 物 (第57図261~267、写真図版47)

底面付近の埋土内から板状の木片と鉄釘のほか銭貨「寛永通寳」が出土している。鉄釘1点(260)は尖端部を欠失する。銭貨はいずれも「寛永通寳」であるが、寛文13年以前に鋳造の3点(265~267)と寛文年間鋳造の2点(262·264)、さらに破損のため銭文が不明な2点(261·263)がある。



第30図 RZO4~O6土壙墓

性格と時期

人骨の出土は無いが、銭貨の出土や埋土の状況から近世17世紀代の土壌墓と考えられる。

(3) RZO6土壙墓(旧名称RD34)

遺 構 (第30図、写真図版20)

〈位 置〉 調査区の南側グリッド1H4eに位置する。

〈検出状況〉 Ⅲ層上面で黒褐色シルトの広がりとして検出した。

〈重複状況〉 重複する遺構は無い。

〈形状・規模〉 平面形は不整円形、断面形は鍋底状をなし、規模は開口部径95cm×81cm、底面は47cm×45 cm、深さ20cmである。

〈埋 土〉 黒褐色シルトが主体であるが、黄褐色シルトが小塊状で混在し、人為的に埋め戻された様相を示す。また、中位~下部には焼土や炭化材も混在する。

〈壁・底面〉 底面はやや丸味を持ち壁は軽く外傾気味に立ち上がる。

遺 物 (第56図241~244、写真図版45)

人骨は残存していないが、副葬された貨幣「寛永通寳」が4枚出土している。

性格と時期

出土した遺物の貨幣がすべて俗に古寛永通寶銭と言われる寛文年間より古い時期の鋳造であり、17世紀前半代の墓壙と推測される。

10. 柱穴状土坑

当遺跡の調査範囲から柱穴状の小土坑が約544基ほど検出されているが、当地は発掘調査直前まで畑地として耕作されていたことや地点により表土が薄いなどにより無数の小土坑が散在して検出された。

これらの小土坑にはいわゆる掘立柱建物の柱穴を構成する土坑も含まれる可能性があるものの、大多数は規模が小さいこと、規模に比較して全体として浅いこと、断面形が先細りの楔形で打ち込み土坑が多いこと、埋土の状態が新しい様相を示す例が多いことなどから、大半は耕作もしくは至近の屋敷に係る杭穴的な土坑である可能性が強い。また、これらの柱穴の中から掘立柱建物として把握された例が既述の4棟以外には無いこともこの結論に至った傍証である。本来であれば、現地調査の中で所謂柱穴状土坑と耕作に係わる杭穴的な柱穴状土坑とは区別するべきであつたが、一括で処理をしている現状では実測図だけで両者を判断し区分することは不可能であるため、本稿ではすべてを柱穴状土坑として一括して柱穴状土坑配置図を掲載し、それに伴う個別の計測一覧表を掲載し報告に換える。

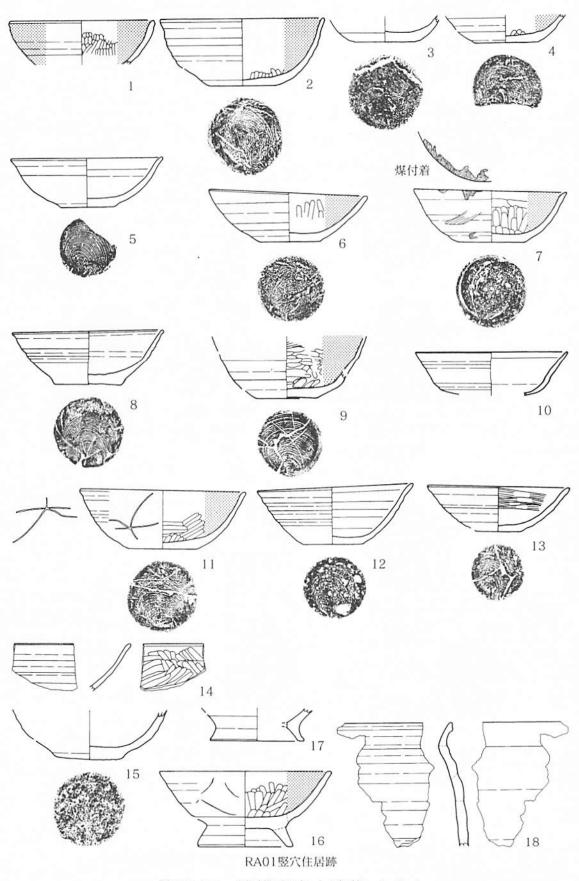
11. 遺構外の出土遺物

租掘りや遺構検出中に表土から出土した遺物は本項に一括したが、土師器7点、須恵器5点、石製品・石器2点の合わせて14点出土している。以下では種類毎に一括する。

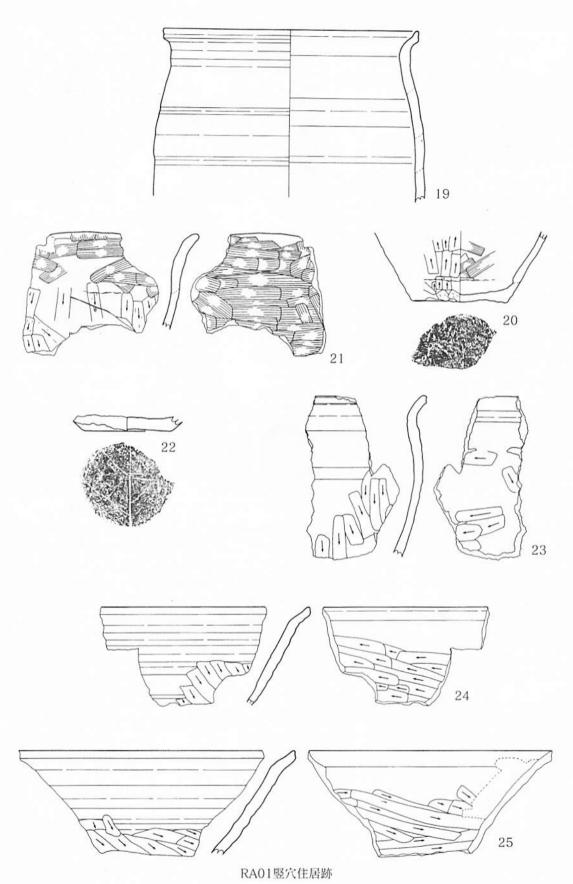
土師器-7点の出土であるが中に坏1点 (280)、高台付き坏3点 (277·281·283)、翌3点 (278·282·287) が含まれる。278以外はロクロ使用成形されるが、坏の1点 (280) は内面非黒色処理で底面は回転糸切り離し無調整である。高台付き坏の3点は一般的な坏に高台を貼り付けた形と推測されるが、いずれも高台部を欠損しており、詳細は定かでない。翌の3点はロクロ使用成形の2点 (282·287) とロクロ不使用成形の1点 (278) がある。前者282は外面の一部にヘラケズリ調整があり、内面はロクロナデのみである。287は内外面ともロクロナデ調整のみである。

須恵器 - 坏 1 点 (284)、 壺もしく長頚瓶 2 点 (285·286)、 壺 1 点 (279)、 墾 1 点 (288) がある。すべてロクロ使用成形されるが、 坏は底部回転糸切り離し無調整、 285·286は高台を付すことから長頚瓶と推測される。

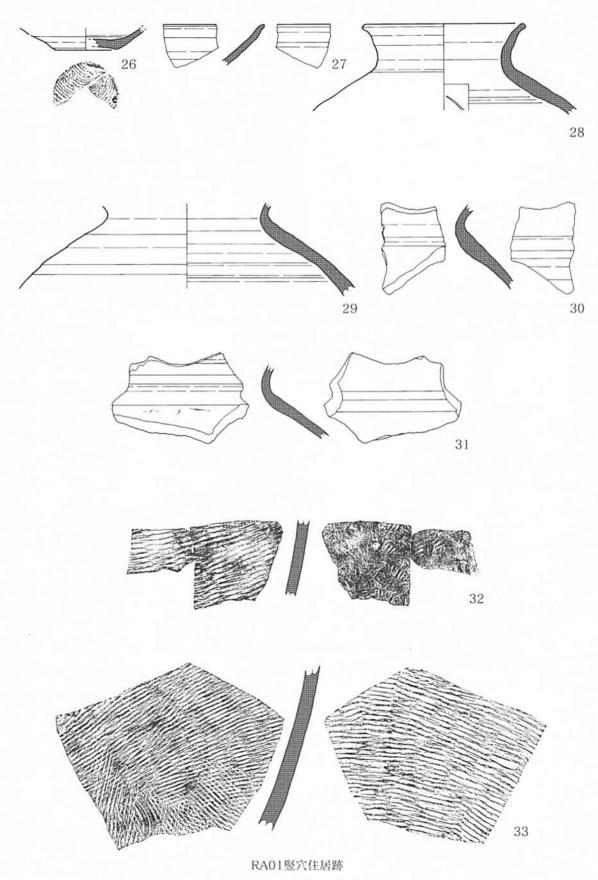
石製品の2点は290は自然壁であるが碁石的な様相であるし、289は縄文時代の削器である。



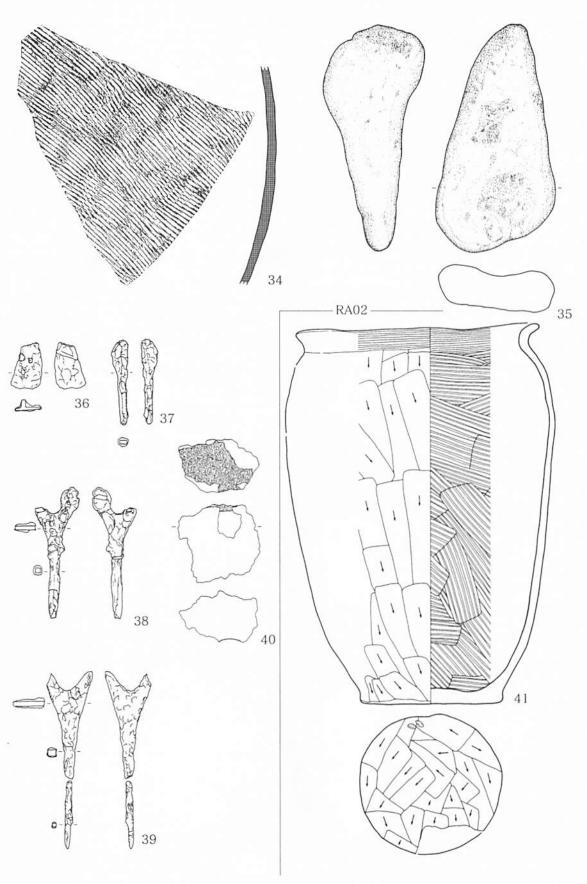
第31図 遺構内出土遺物 (1)



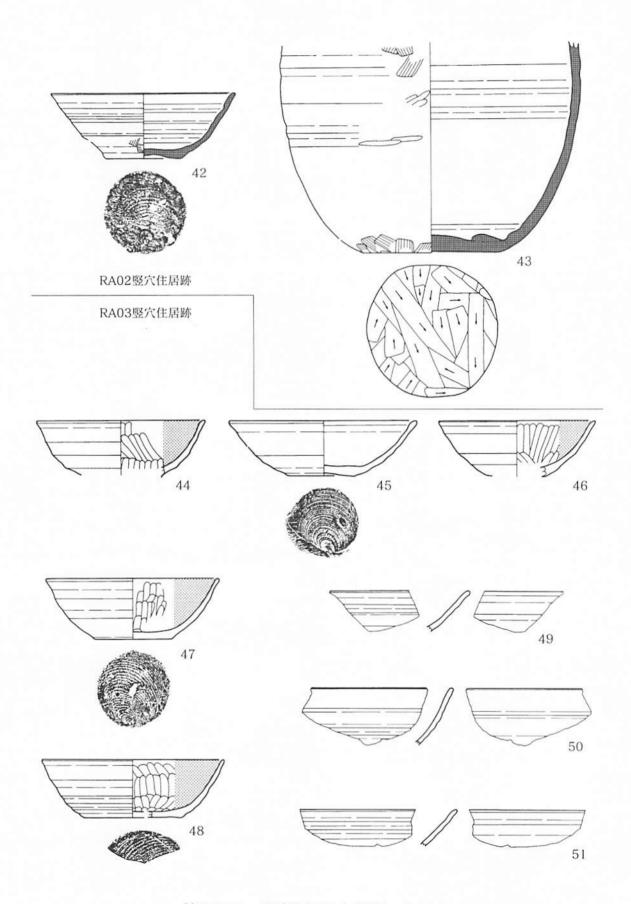
第32図 遺構内出土遺物 (2)



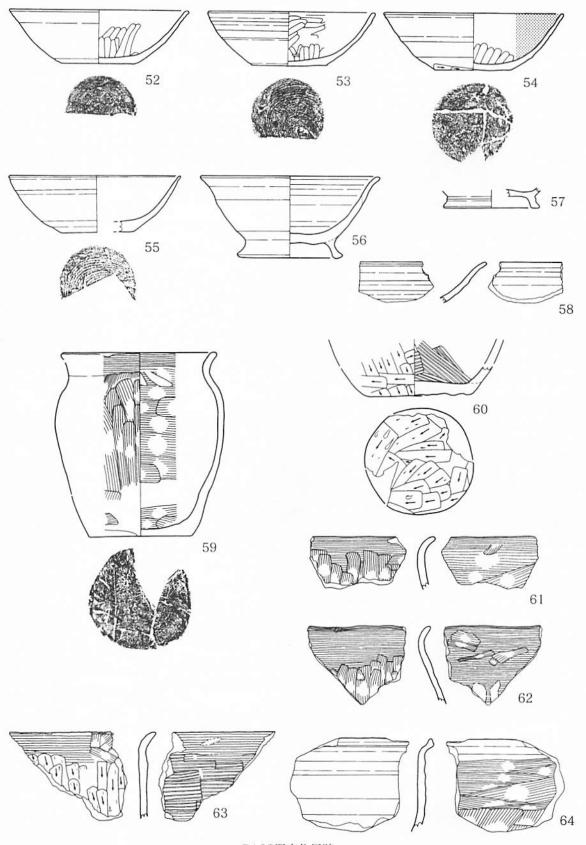
第33図 遺構内出土遺物 (3)



第34図 遺構内出土遺物 (4)

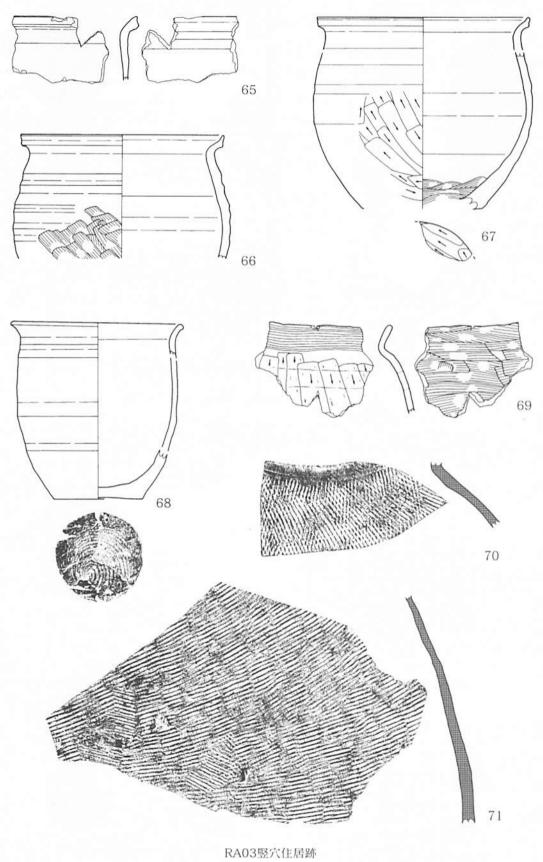


第35図 遺構内出土遺物 (5)

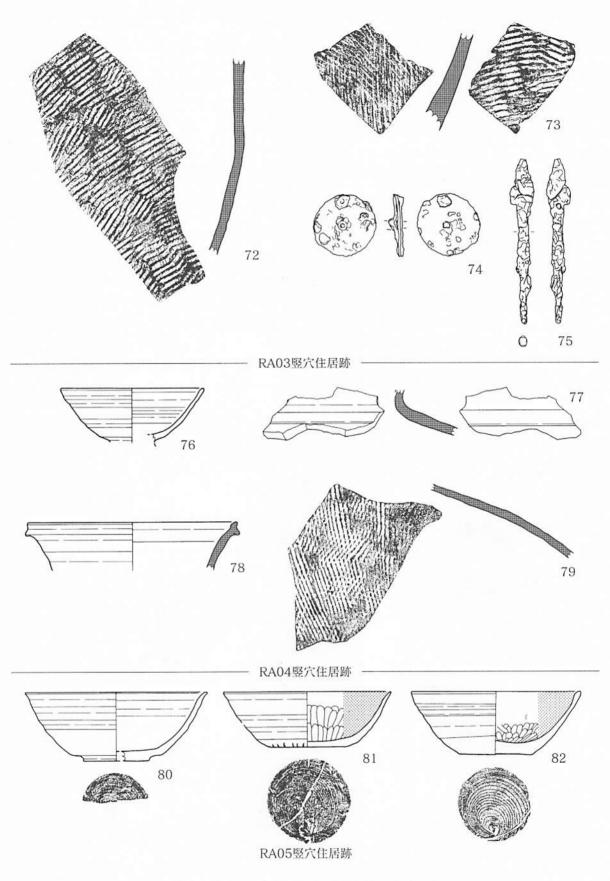


RA03竪穴住居跡

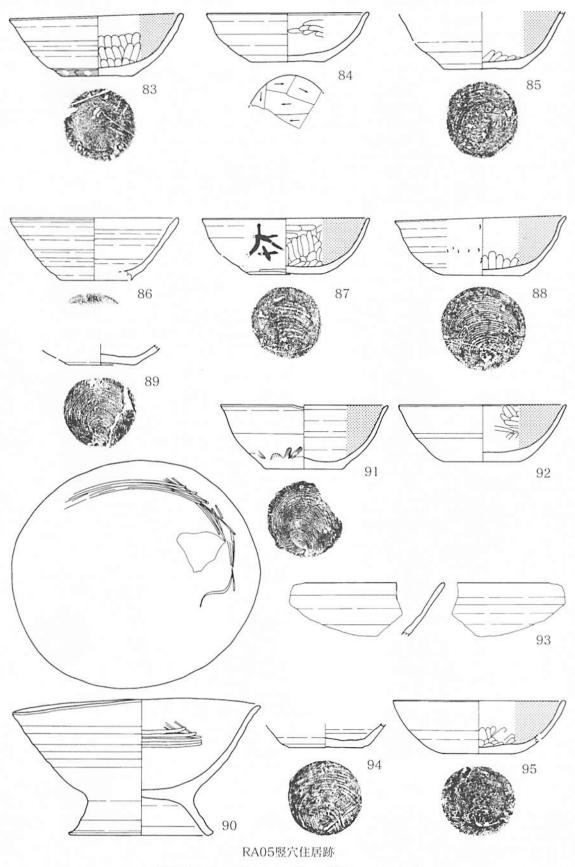
第36図 遺構内出土遺物 (6)



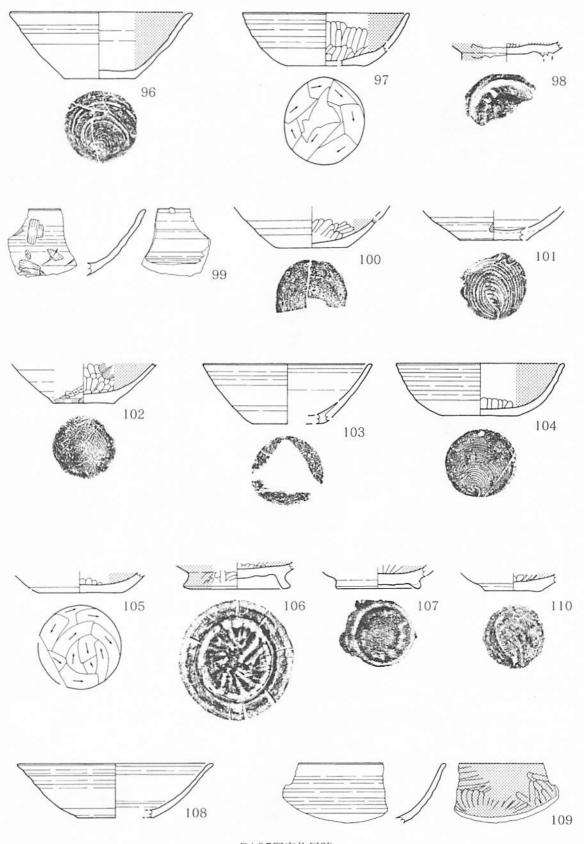
第37図 遺構内出土遺物 (7)



第38図 遺構内出土遺物 (8)

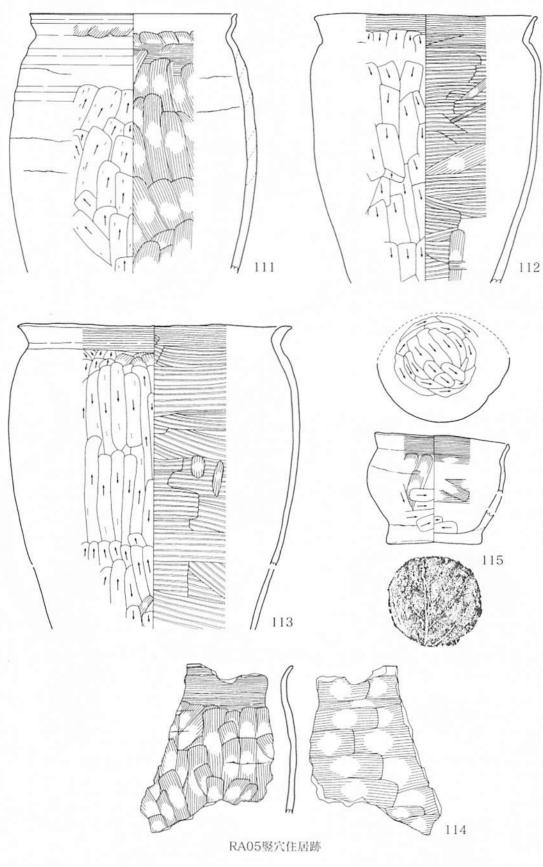


第39図 遺構内出土遺物 (9)

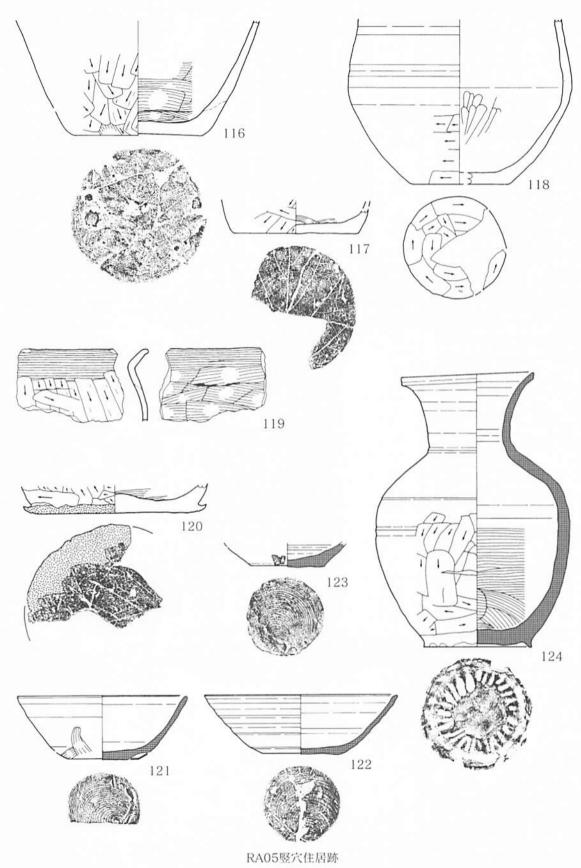


RA05竪穴住居跡

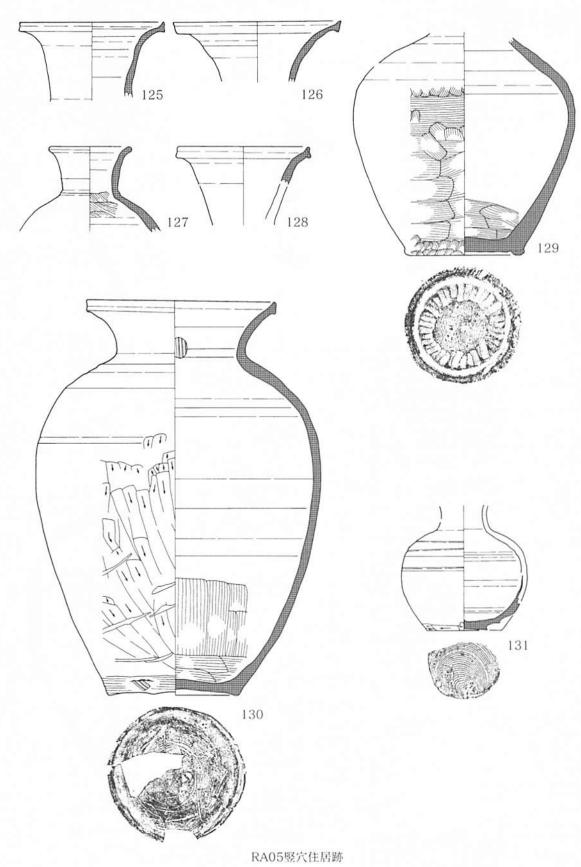
第40図 遺構内出土遺物 (10)



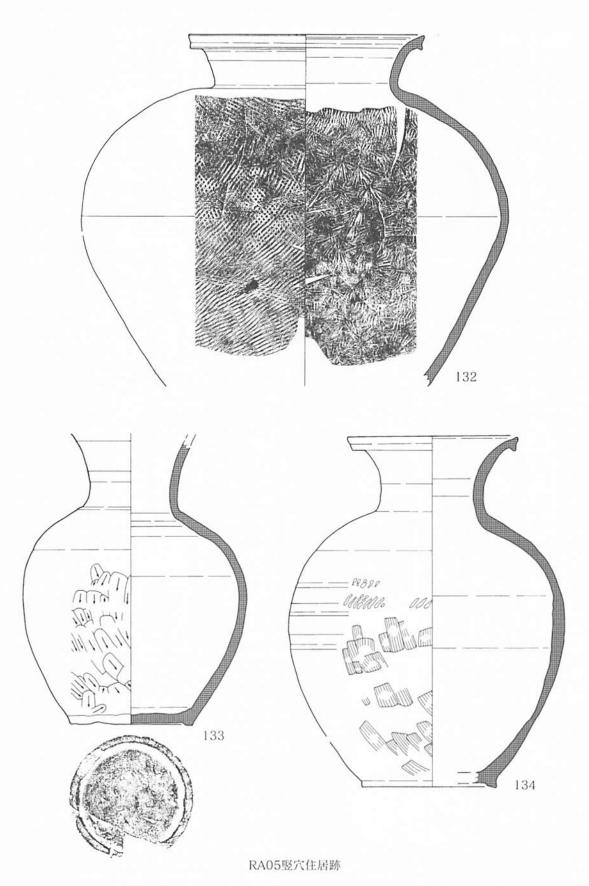
第41図 遺構内出土遺物 (11)



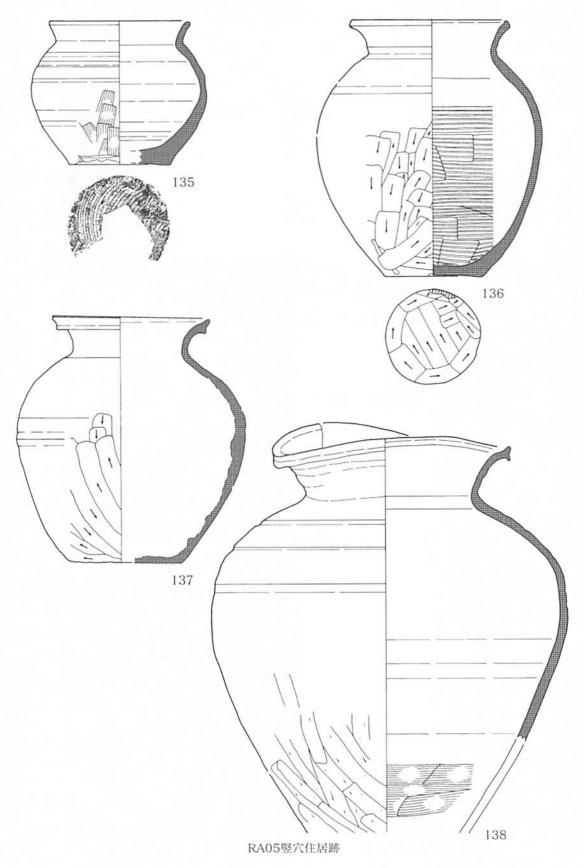
第42図 遺構内出土遺物 (12)



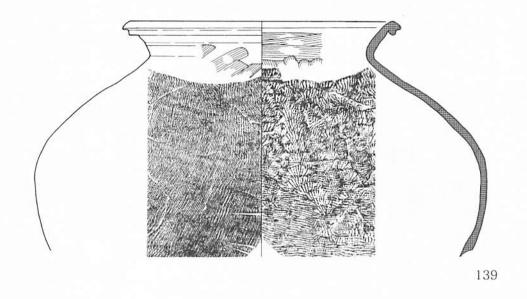
第43図 遺構内出土遺物 (13)

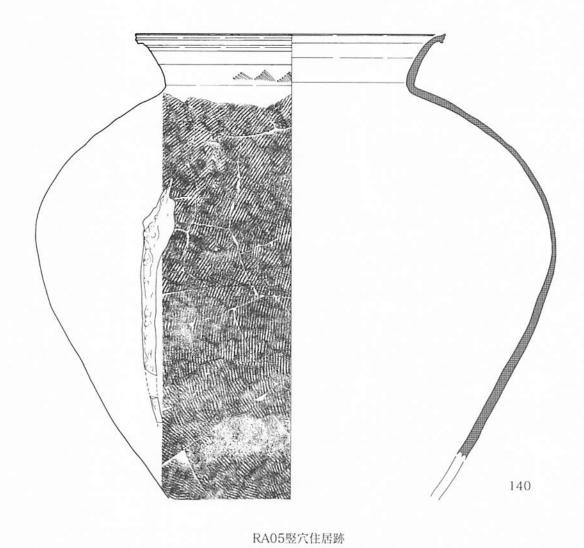


第44図 遺構内出土遺物 (14)

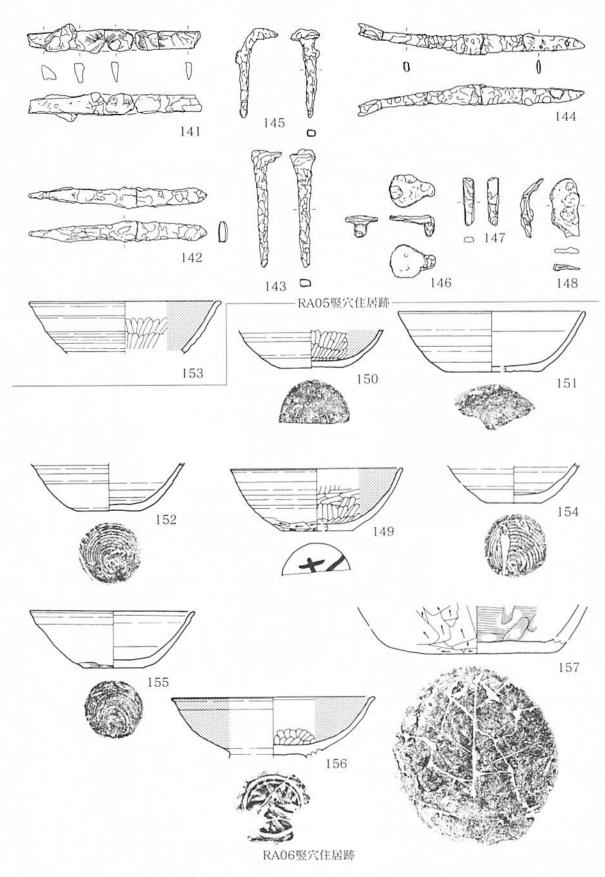


第45図 遺構内出土遺物 (15)

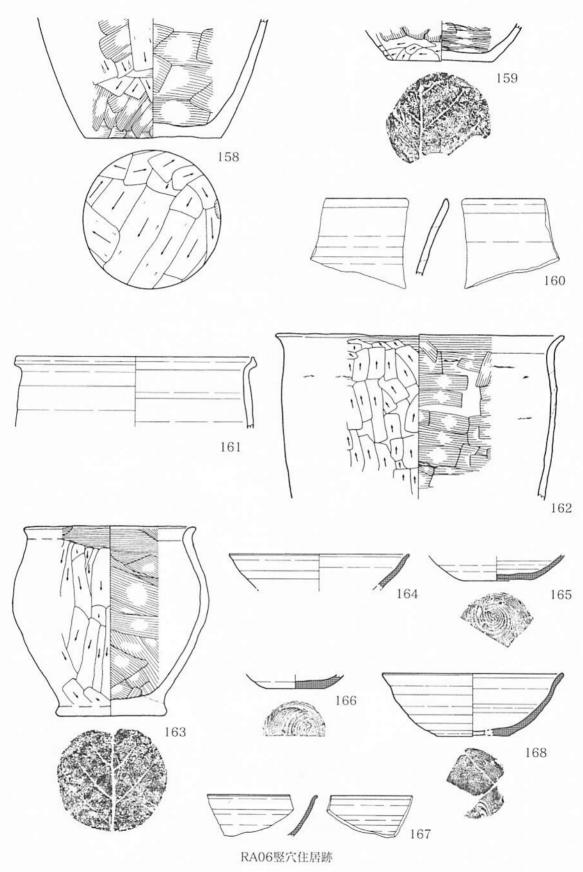




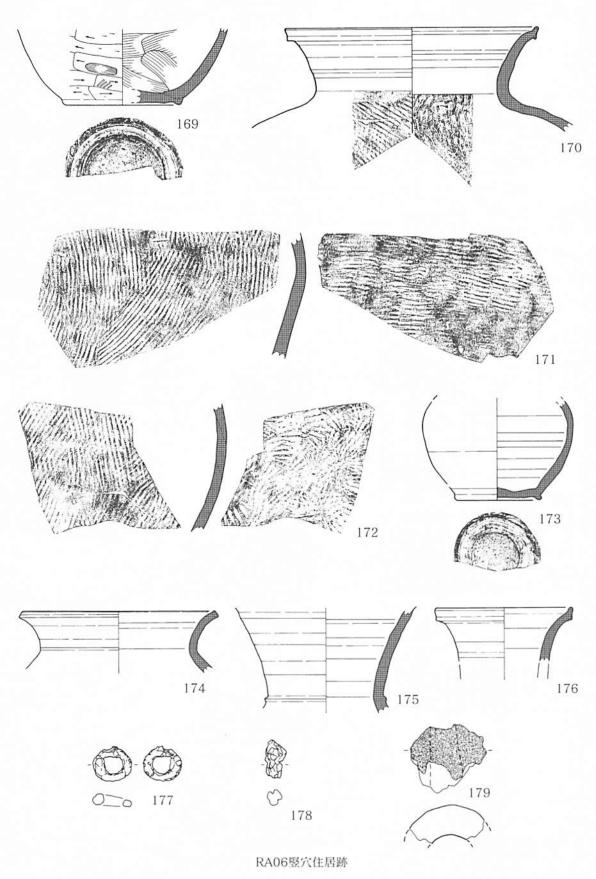
第46図 遺構内出土遺物 (16)



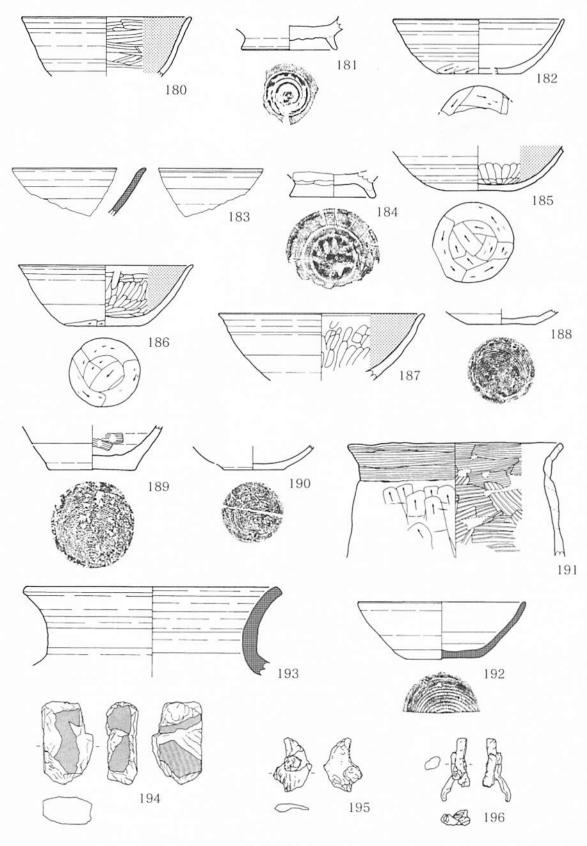
第47図 遺構内出土遺物 (17)



第48図 遺構内出土遺物 (18)

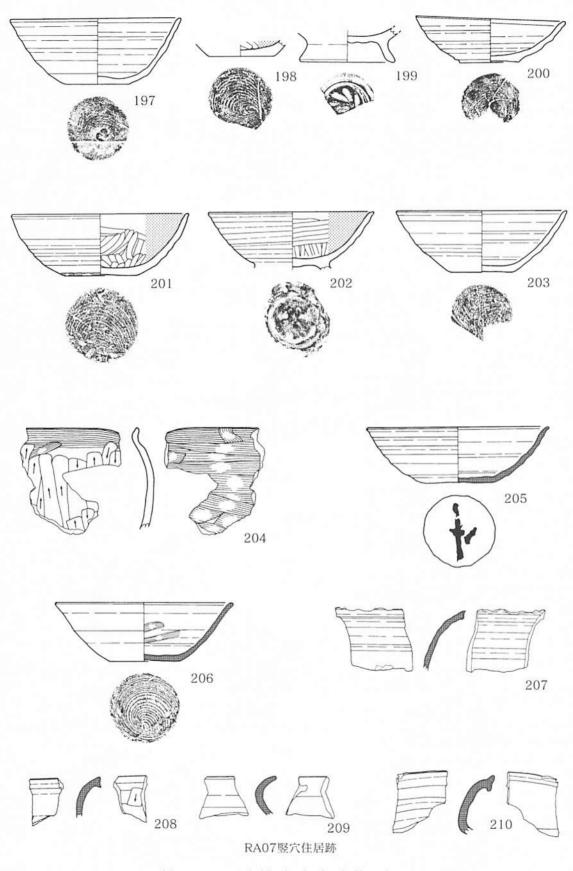


第49図 遺構内出土遺物 (19)

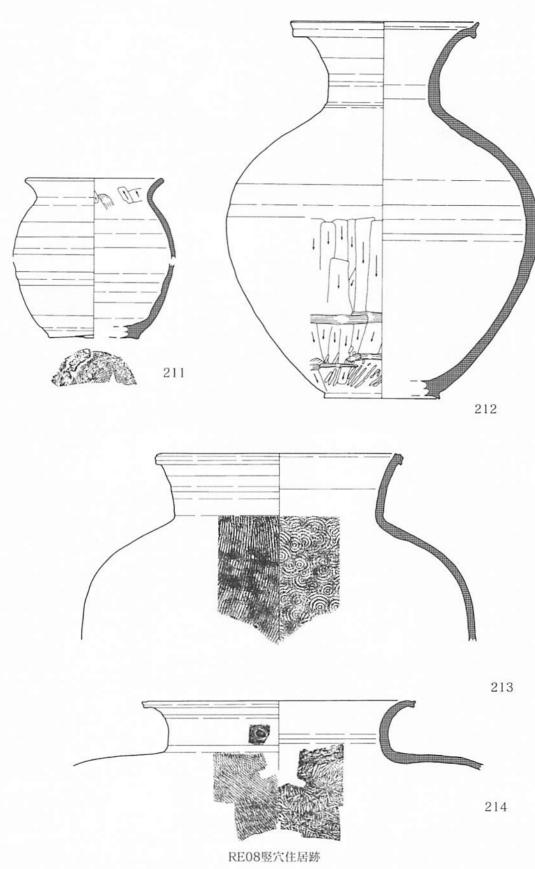


RA07竪穴住居跡

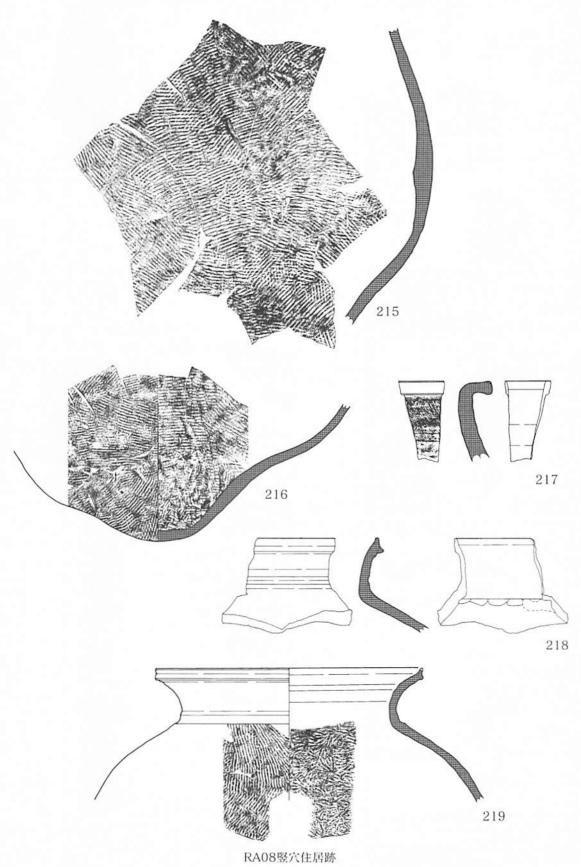
第50図 遺構内出土遺物 (20)



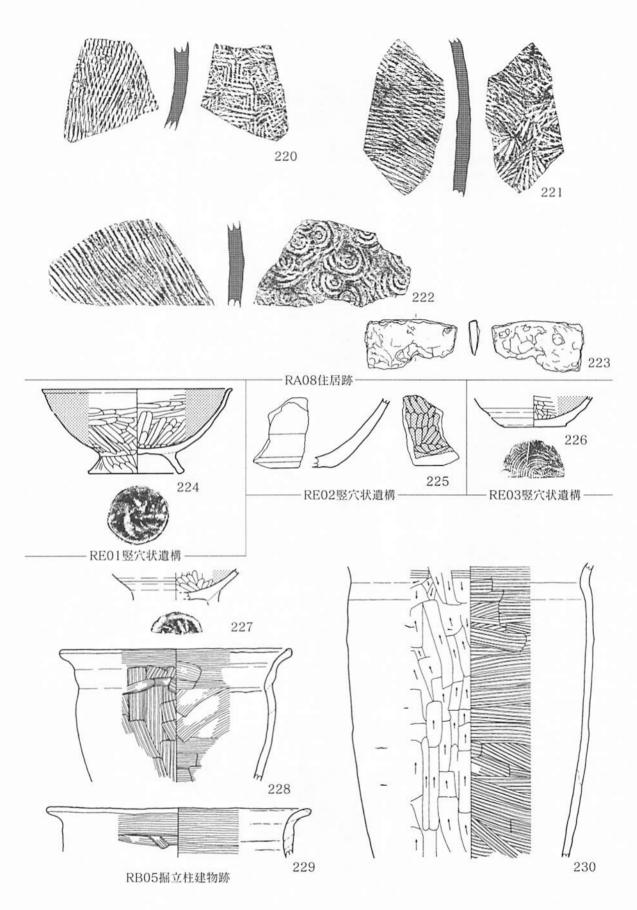
第51図 遺構内出土遺物 (21)



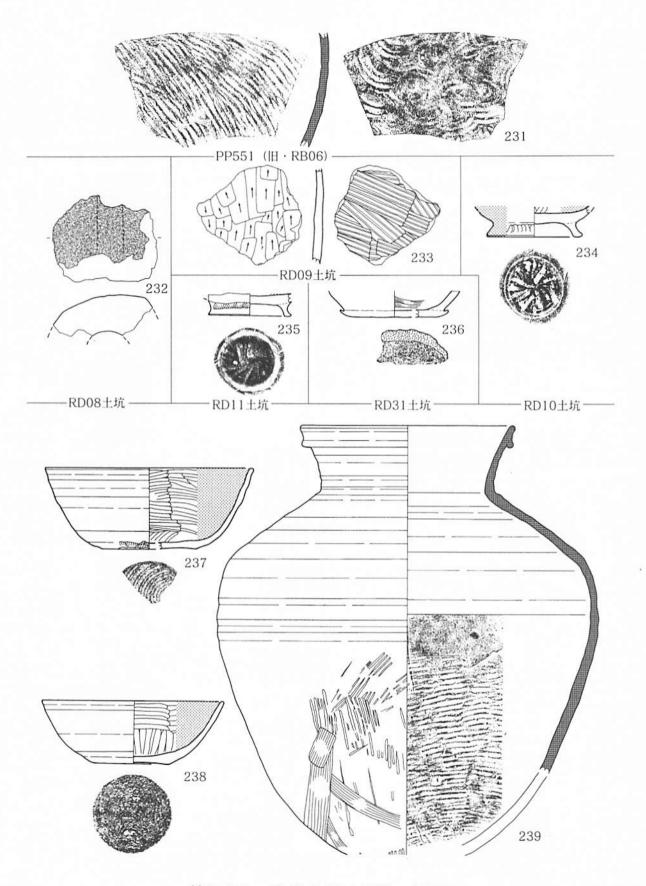
第52図 遺構内出土遺物 (22)



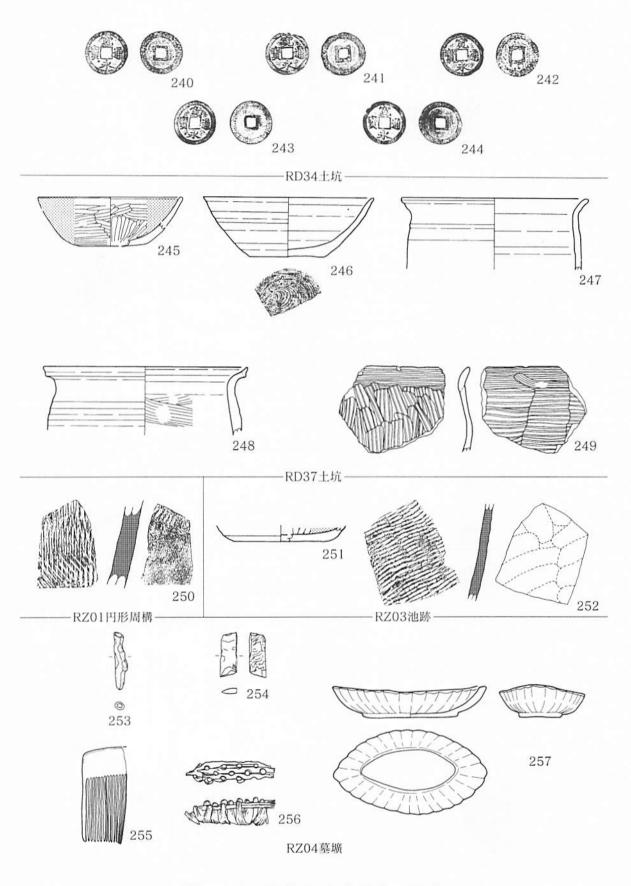
第53図 遺構内出土遺物 (23)



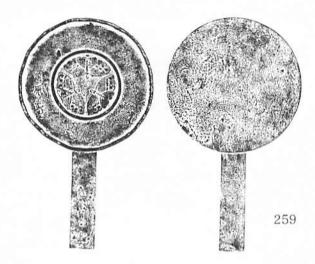
第54図 遺構内出土遺物 (24)

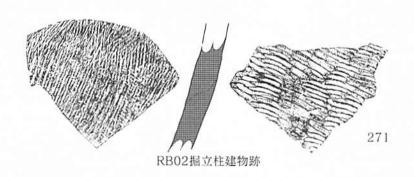


第55図 遺構内出土遺物 (25)

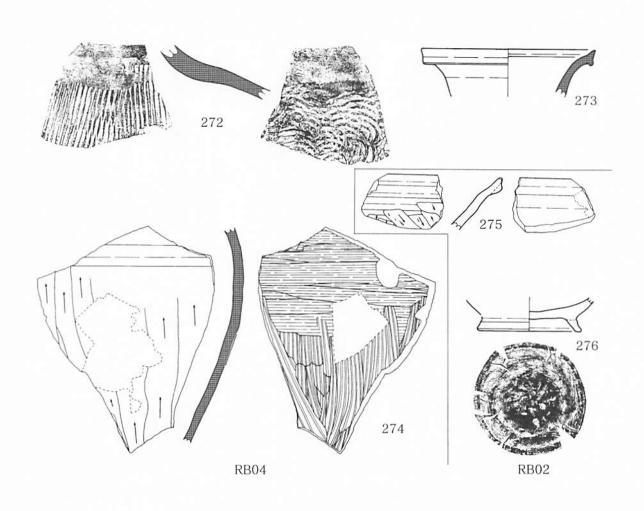


第56図 遺構内出土遺物 (26)

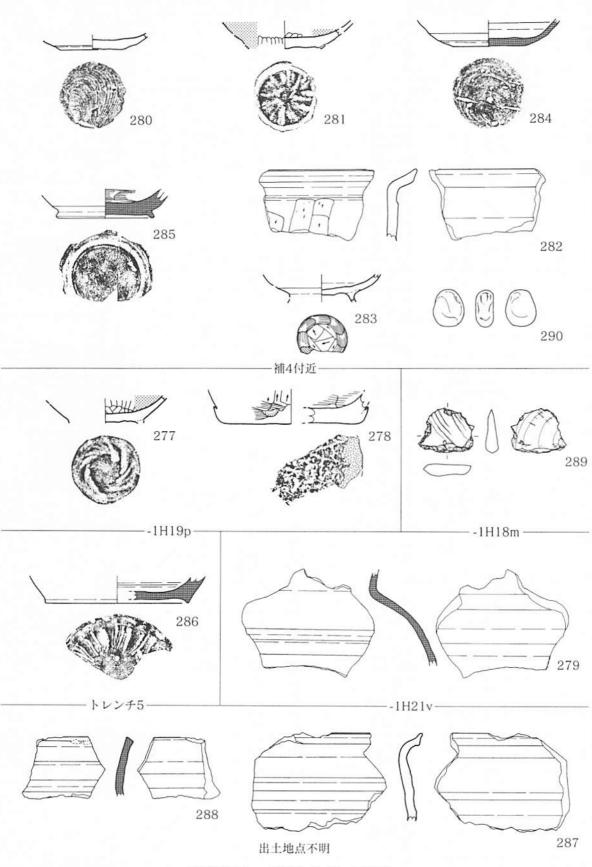




第57図 遺構内出土遺物 (27)



第58図 遺構内出土遺物 (28)



第59図 遺構外出土遺物

第2表 - 柱穴状土坑計湖表	\$27	i (性穴	:状	t:Jiji.il	上湖表	
----------------	-------------	-----	----	----	-----------	-----	--

第2表									
No.	口阴部径cm	深きcm	形状	備 号	No.	閉口部径cm	深きcm	形状	備考
	30×28	12	ほぼ門形		92	32×35	27	格円形	第4次副教区
2	31×29	18	はほ門形		93	26×27	27	門形	第4次調查区
3	25×32	10	植円形	柱痕跡有り	94	40×53	23	倍円形	21
4	29×36	16	精円形 精円形		95	29×33	21 35	横回路	<u> </u>
5	32×69	19	格巴形	性痕跡有り	96	55×63	35	格中形 格中形	
6									
7									
8									
9	32×27	24	楕円形		100	48×50	17	ほぼ円形	
10	33×36	25	ほぼ円形	柱痕跡有り	101	33×34	21	円形	
11	30×29	24	(212年)		102	25×27	26	はは日形	
12	27×26	25	ほぼ円形		103	24×26	14	ほぼ門形	
13	23×26	23	建建門形		104	45×48	12	ほぼ門形	
14	27×32	31			105	39×40	16	ほぼ門形	
15	40×42	31	ほぼ門形		106				
16	32×37	37	福中形		107	67×76	32	格円形	RB04据立柱建物、須恵料破片出土
17	25×28	17	(4)1/18		108	51×58	22	侑門形	
18	30×28	32	格円形		109	40×44	23	梅山形	
19	45×48	41	ほぼ円形		110	56×63	15		
20	27×30	17	ほぼ円形		1111	35×40	16	横門形 ほぼ門形	
21	29×30	22	(まは17)形		112	61×63	34	ほぼ円形	IRBO4對立柱建物,上解將破片出上
22	17×33	47	楕円形		113	26×27	10	PJ_B\$	
23	28×30	51	ほぼ円形		114	37×44	36	僧門形	RB04超立柱建物、
24	27×30	17	ほぼ円形		115	43×45	27	ほぼ円形	RB03組立柱建物、
25	29×32	24	楕円形		116	42×46	32	有円形	
26	32×38	49	梅円形		117	37×39	26	ほぼ円形	
27	24×25	23	ほぼ門形		118	57×60	28	ほぼ円形	RB03個立柱鎮物
28	27×30	24	(2)2(4)形		119	31×35	22	特円形 特円形	
29	24×30	18	精円形		120	72×80	36	<u> </u>	
30	28×30	18	ほぼり形		121	23×29	18	<u> </u>	
31	31×32	16	1988		122	56×57	26		RB04据文柱独物、
32	25×27	23	ほぼ川形		123	34×39	36	柳門形	
33	28×30	18	ほぼ川形		124	30×31	37	<u> </u>	A24 4 VID-400 - 4 - 5 - 5
34	27×31	11	竹円形 桁円形		125	34×34	27	門形	第4次調查区
35	38×41	15			126	34×36	24	(建建門形	第4次調查区
36	39×44 28×38	17	加州		127	10×11 10×21	8 35	(まぱり形 楕円形	第4次調査区
37	24×25	15 19	権円形 ほぼ円形		129	12×15	10	- 福川影	第4次調查区 第4次調查区
39	30×37	10	MIPE		130	24×26	34	1915/11/12	NATIONALLIA.
40	32×33	14	建建門形		131	30×35	33	(まぼ門形 竹門形	第4次調查区
41	60×65	10	福山形		132	28×34	36	一格川形	A TOWNER
42	38×39	29	(五(五)) [1]		133	22×23	25	建建門路	
43	43×47	37	福田路		134	28×29	36	ほぼ円形	第4次調查区
44	42×47	36	福山路		135	24×25	10	(注注)1月18	第4次調查区 第4次調查区
45	31×38	23	特円形 特円形 特円形		136	30×30	11	円形	】 第4次副疫区]
46	36×38	33	(主(2円形		137	19×20	27	ほぼ川服	第4次副查区
47	37×38	30	1118		138	21×21	10	円形	第4次副疫区
48	33×34	42	ほぼり形		139	22×22	27	円形	第4次到森区
49	30×32	30	円形		140	34×40	28	楕円形	第4次調查区
50	36×36	20	門形		141				
51	36×38	27	ほぼ円形		142	20×22	26	ほぼ円形	第4次調査区
52	32×35	25	ほぼ門形		143	47×55	36	柏川形	
53	31×35	31	梅巴形		144	52×55	22	ほぼ円形	ļ
54	22×24	28	121211115		145	57×57	19	i jii	ļ
55	39×42	40	惰門形		146	39×47	46	僧門形	
56	32×33	30	(まは)		148		 		
57	21×22	25	121211115		149		 		
58	32×41	33	格円形		150				
59	43×44	16 37	円形はは円形		151	29×31	27	ほぼ円形	i
60	42×45 38×43	27	桥凹形		152	52×55	27	1312円形	†
	42×45	37	粉幣		153	28×29	33	ほぼ川形	
62 63	40×41	37			154	30×32	19	12121111	
64	28×29	27	11118		155	27×28	27	はは川形	
65	35×36	39	一一一		156	24×26	26	はは川形	
66	28×30	28	ほぼ円形		157	29×31	19	ほぼ門形	
67	42×46	38	楕円形		158	32×35	29	ほぼ円形	
68	25×31	31	梅円形		159	34×35	26	ほぼ門形	
69	32×33	21	円形		160	23×27	24	荷円形	
70	30×33	26	ほぼ川形		161	28×29	23	13(2)11	<u> </u>
71	38×41	30	ほぼ門形		162	34×37	26	便用形	ļ
72	32×33	33	円形		163	59×65	37	衙門形	
73	25×31	33	梅里形		164	24×25	15	ほぼ門形	
74	44×45	37	1113		165	25×25.	19	門形	
75	44×49	37	相中形		166	31×34 31×33	21 26	楕円形 ほぼ円形	
76	34×38	21	特凹形		167 168	21×33	24	将円形	
77	23×30	22 28	梅円形 円形		169	30×31	23	(まぼり形	
78 79	35×36 34×43	35_	精円形		170	24×25	14	1313中形	
80	29×34	18	RUB		171	29×34	27	福中形	<u> </u>
81	28×36	26	器回影		172	24×26	19	(11211)	
82	<u> </u>		- WILLIE		173	30×31	19	连连中游	
83	55×59	53	州山形	RB02据立柱建物、上颌圆破片出上	174	34×47	27	格円形	
84	55×59	50	福戸形	RB02超立柱建物、	175	25×27	18	ほぼ門形	
85	27×28	18	円形		176	26×30	15	梅円形	
86	28×30	15_	ほぼ門形	焼上混入	177	41×49	25	梅円形	
87	49×51	35	ほぼ川形	焼土混人	178	25×25	36	1 P1/P3	
88	42×51	23	横凹形		179	33×34	27	(\$12)116	ļ
89	42×62	25	州田形		180	23×25	24	(212円形	<u> </u>
90	54×66	26	福山府		181	38×40	28 22	(まほり形)	
91	28×30	26	ほぼ円形	第4次調查区	182	26×28		ほぼ円形	

No.					
184 31×32 21 はば円形 185 18×28 34 4 4 4 4 4 4 4 4	No.	口阴部径cm	深さcm	形状	幼
185	183	19×20		ほぼ門形	
185	184	31×32	21	ほぼ円形	
187 24×25 15 はば円形	185	18×28	34	楕円形	
187 24×25 15 はば円形					
188 21×23 21 はば円形 189 32×35 16 16は円形 190 32×33 29 16は円形 191 30×33 34 16は円形 192 16×25 15 所作形 193 29×30 31 16は円形 193 29×30 31 16は円形 194 36×33 35 円形 195 39×47 37 初川形 196 45×47 31 16は円形 196 45×47 31 16は円形 197 24×27 19 16は円形 198 50×50 10 円形 198 50×50 10 円形 198 50×50 10 円形 199 62×73 34 所刊形 RBO3M文柱磁物 199 62×73 15 所刊形 10 10 10 10 10 10 10 1					
1899 32×35 16 はば円形 190 32×33 29 はば円形 191 30×33 34 はば円形 192 16×25 15 病門形 192 16×25 15 病門形 194 36×33 35 円形 194 36×33 35 円形 196 45×47 31 はば円形 197 24×27 19 はば円形 198 50×50 10 円形 199 62×73 34 析円形 RDO3財立住政物 2001 24×26 14 はぼ円形 2001 24×26 14 はぼ円形 2002 24×26 14 はぼ円形 2004 22×27 11 析円形 11 11 11 12 12 12 12 1					
190 32×33 29 はぼ円形 191 30×33 34 はぼ円形 192 16×25 15					
192 16×25 15 病甲形				(主)(平山)(
1922 16×25 15					
194 36×33 35 円形					
194 36×33 35		10 × 40			
195 39×47 37 州川勝 196 45×47 31 はば川勝 197 24×27 19 46ば川勝 198 50×50 10 118 198 50×50 10 118 199 62×73 34 州川勝 RBO3単立注載物 199 62×73 34 州川勝 RBO3単立注重物 190 24×26 14 ほぼ円勝 120 200 24×26 14 ほぼ円勝 120 20 20 30×39 40 44ば円勝 203 31×32 16 44ば円勝 203 31×32 16 44ば円勝 203 22×27 11 州門勝 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式報期 15位間上式程期 15位間上式程度 150					
196			35		
197 24×27 19 ほぼ円形 198 50×50 10 11形 198 50×50 10 11形 199 62×73 34 新田郎 RBO3単立注載物。 200 24×26 14 ほぼ円形 201 31×32 29 ほぼ円形 202 36×39 40 ほぼ円形 203 31×32 16 ほぼ円形 204 22×27 11 新田郎 日本田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		39×47			
198	196	45×47	31	ほほり形	
198	197	24×27	19	ほぼ円形	
199 62×73 34 新川形 RB03掛立柱建物。 200 24×26 14 ほぼ円形 201 31×32 29 ほぼ円形 202 36×39 40 ほぼ円形 203 31×32 16 ほぼ円形 204 22×27 11 新円形 日本版の上次状理構) 15 16 17 17 18 18 19 19 19 19 19 19	198	50×50	10	円形	
201 31×32 29 12FT B 202 36×39 40 12FT B 203 31×32 16 12FT B 204 22×27 11				梅円形	RB03風立柱建物、
201 31×32 29 ほぼ甲形 202 38×39 40 40 40 40 40 40 40 4		24×26			
202 36×39 40 44区円形 203 31×32 16 44区円形 204 22×27 11 前円形 205 205 205 206 16×20 27 柄円形 4元(南上穴状草柄) 207 18×23 15 柄円形 208 24×25 28 44区円形 209 21×27 29 桶円形 209 21×27 29 桶円形 210 20×21 10 44区円形 44区円形 44区円形 44区円形 44区円形 44区円形 44区円形 44区円形 44区内代 44区円形 44区内代 44区円形 44区内代 44区					
2034 22×27					1 1
204 22×27					
205				14111111	
206		24×41		1911/1/2	1. C - 700 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
208 24×25 28 1813円形 209 21×27 29 前川形 210 20×21 10 1817円形 144×四代 211 28×29 30 1817円形 144×四代 212 34×38 28 前川形 144×四代 213 48×54 14 前川形 144×四代 214 32×34 20 4817円形 144×四代 214 32×34 20 4817円形 144×四代 215 33×33 18 円形 144×四代 216 43×44 21 1817円形 184×四代 1817円形 184×四代 1817円形 1818円形 1818円 1818円形 1818円形 1818円 1818円 1818円				1000000	上がは倒し八水気候)
208				1 11118	<u> </u>
209 21×27 29 新円形				桁円形	<u></u>
209 21×27 29 新円形	208		28	ほぼ円形	1
20					
211					
212 34×38 28	211				第4次部件
213	212				5147784
214 32×34 20	15151				報源電影
215 33×33					- 安陽公院 -
216				LIES LIES	
218					
218					
229					940人前代、
220					上、脱粉・乳基粉片出土
221		<u>57×58</u>	36	ほぼ円形	1 上脚器·須思器片出土
223	220		1		
223	221		1		
224	222		1		
224	223		1	i	
225		54×56	34	ほぼ四形	RR0246立柱球物
226 55×57 25 ほぼ円形 RBO2型が建物 RBO2型が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が RBO2D2が				(1)(2)(1)(1)	110000000000000000000000000000000000000
227 50×61 36					DD0382444946
228					DD02M & b test
239			- 38		CDU230 VILIEN
230 53×55 35 はば川形 RB02層が性動物 231 55×57 3 はば川形 RB02層が性動物 232 37×41 13 はば川形 RB02層が性動物 233 35×35 14 円形 性成終行り 234 40×40 18 円形 性成終行り 235 22×25 19 はば川形 RB03層が性動物 237 42×46 56 ほぼ川形 RB03層が性動物 237 42×46 56 ほぼ川形 RB03層が性動物 238 41×43 22 ほぼ川形 RB04層が性動物 239 32×33 15 ほぼ川形 RB04層が性動物 240 33×43 16 横川形 RB04層が推動物 241 43×47 18 横川形 RB04層が推動物 242 47×49 17 ほぼ円形 RB03層が推動物 243 36×37 18 ほぼ円形 RB04層が推動物 244 35×40 27 横川形 RB03層が推動物 244 35×40 27 横川形 RB03層が推動物 246 30×34 24 横川形 RB03層が推動物 247 37×39 26 横川形 RB03層が推動物 248 27×27 円形 249 34×36 22 ほぼ円形 248 27×27 円形 250 32×34 22 ほぼ円形 250 32×34 22 ほぼ円形 251 23×25 20 ほぼ円形 34水湖南 255 25×28 20 円形 34水湖南 255 25×28 20 円形 34水湖南 255 26×27 21 ほぼ円形 34水湖南 255 25×25 12 円形 255 25×25 12 円形 255 25×25 12 円形 260 8×30 12 ほぼ円形 261 31×34 24 ほぼ円形 262 25×28 21 ほぼ円形 263 23×23 23 23 23 23 23 23				1.175	
231 55×57 3 はば円形 232 37×41 13 13 13 13 13 13 13					
231 55×57 3 183 183 184 185 1802 184 185 185 184 185 18					RB02層立住建物
233 35×35	231	<u>55×57</u>		ほぼ円形	RB02屬立柱藝物
233 35×35	232	37×41	13	ほぼ円形	
234 40×40	233	35×35	14	円形	柱放路有り
235					11/18/1/10
236					1-37-4112
237			22	121211113	DDA284 CAEARS
238			 		DDO211 Charles
239 32×33 15 141円形					
240 33×43 16				1212 170	KDV434 17. FE 4049
241 43×47 18					DDA WILLIAM
243					KBU4開火長延初
243					KBU4開立任經初
244					RB03額立柱建物
244				ほぼ円形	RB03樹立柱建物
245 30×34 24 前門形				一格円形	
246		30×34	24		
247 37×39 26 前円形					
248 27×27		37×39	26	楕円形	
249			1		
250 32×34 22 ほぼ円形 23×25 20 ほぼ円形 2552 27×28 20 円形 253 26×27 21 ほぼ円形 34次調査 254 20×24 20 預円形 34次調査 255 18×22 16 預円形 34次調査 256 20×21 13 ほぼ円形 34次調査 256 20×21 13 ほぼ円形 258 25×25 12 円形 258 25×25 12 円形 259 31×31 14 円形 260 8×30 12 ほぼ円形 260 8×30 12 ほぼ円形 261 31×34 24 ほぼ円形 262 25×28 21 ほぼ円形 263 23×23 23 11形 264 24×25 15 円形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 ほぼ円形 267 26×27 27 ほぼ円形 268 43×49 21 預円形 268 43×49 21 預円形 269 32×38 18 預円形 270 50×54 19 荷円形 271 23×24 22 円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 ほぼ円形 273 30×40 16 荷円形 273 30×40 16 荷円形 273 30×40 16 荷円形 273 273 273 30×40 16 荷円形 273 273 273 30×40 16 荷円形 273 273 273 273 30×40 16 荷円形 273 273 273 273 273 273 273 275			22	1212111112	
251 23×25 20 ほぼ円形 252 27×28 20 円形 253 26×27 21 ほぼ円形 類4次調査 254 20×24 20 福円形 類4次調査 255 18×22 16 福円形 類4次調査 256 20×21 13 ほぼ円形 数4次調査 257 26×27 15 ほぼ円形 258 25×25 12 円形 259 31×31 14 円形 260 8×30 12 ほぼ円形 260 8×30 12 ほぼ円形 262 25×28 21 ほぼ円形 262 25×28 21 ほぼ円形 263 23×23 23 11形 264 24×25 15 円形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 ほぼ円形 266 30×32 19 ほぼ円形 268 43×49 21 福円形 268 43×49 21 福円形 269 32×38 18 福円形 269 32×38 18 福円形 270 50×54 19 福円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 27 ほぼ円形 273 30×40 16 福円形 273 273 30×40 16 福円形 273 30×40 16 福円形 273 273 273 30×40 16 福円形 273 273 30×40 16 福円形 273 273 273 30×40 16 福円形 273 273 273 273 273 273 273 273 273 273 274 275					
252 27×28 20					
253 26×27 21 1212円形 54次河介 254 20×24 20 6円形 54次河介 255 18×22 16 6円形 54次河介 256 20×21 13 1212円形 257 26×27 15 1212円形 258 25×25 12 円形 259 31×31 14 円形 260 8×30 12 1312円形 260 8×30 12 1312円形 261 31×34 24 1312円形 262 25×28 21 1212円形 263 23×23 23 11形 264 24×25 15 円形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 1312円形 267 26×27 27 1312円形 268 43×49 21 61円形 269 32×38 18 61円形 270 50×54 19 61円形 271 23×24 22 円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 1312円形 273 30×40 16 61円形 273 30×40 16 61円形 273 30×40 16 61円形 273 30×40 16 61円形 273 273 30×40 16 61171 20×27 273 273 30×40 16 61171 20×27 273 273 273 273 273 274 275					
254 20×24 20 衛円形 現4次副作 255 18×22 16 衛円形 現4次副作 256 20×21 13 ほぼ円形 257 26×27 15 ほぼ円形 258 25×25 12 円形 259 31×31 14 円形 260 8×30 12 ほぼ円形 260 8×30 12 ほぼ円形 261 31×34 24 ほぼ円形 262 25×28 21 ほぼ円形 263 23×23 23 円形 264 24×25 15 円形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 ほぼ円形 267 26×27 27 ほぼ円形 268 43×49 21 衛円形 269 32×38 18 衛円形 270 50×54 19 衛円形 271 23×24 22 円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 27 ほぼ円形 273 30×40 16 衛円形 273 30×40 16 衛円形 273 273 273 30×40 16 衛円形 273 273 273 273 30×40 16 衛円形 273 275 275 275 273 275 2	325	26 7 27			95 A N 198 A
18×22 16					414 (X 64 fX
18×22 16				HERS.	41400415
256 20×21 13 14 14 15 257 26×27 15 14 14 15 258 25×25 12 14 16 259 31×31 14 14 16 260 8×30 12 34 34 34 24 34 34 34 3					第4次調查
258 25×25 12 円形				ほほ円形	
258					
259 31×31 14 円形 1260 8×30 12 33 第 円形 261 31×34 24 33 第 円形 262 25×28 21 33 第 H 263 23×23 23 11形 264 24×25 15 11形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 13 第 円形 266 30×32 19 13 第 円形 267 26×27 27 33 第 H 37 37 37 37 37 37 37	258		12		
260	259			州形	
261 31×34 24 球甲形 262 25×28 21 球甲形 263 23×23 23 門形 264 24×25 15 円形 265 28×29 28 円形 266 30×32 19 球球円形 267 26×27 27 球球円形 268 43×49 21 預円形 269 32×38 18 荷円形 270 50×54 19 荷円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 球球円形 273 30×40 16 荷円形	260			MHEE!	
262 25×28 21 121(1)形 263 23×23 23 11形 264 24×25 15 11形 265 28×29 28 11形 266 30×32 19 121(1)形 267 26×27 27 121(1)形 268 43×49 21 折円形 269 32×38 18 折円形 270 50×54 19 折円形 271 23×24 22 11形 272 22×24 17 121(1)形 273 30×40 16 折円形 273 30×40 16 折円形 273 30×40 16 折円形 273 30×40 16 折円形 273 273 30×40 16 折円形 274 275 2	261			आमधार	
263					
264 24×25 15 円形			34	111 #3	
265 28×29 28 円形 266 30×32 19 銀尾円形 267 26×27 27 銀尾円形 268 43×49 21 衛円形 269 32×38 18 衛円形 270 50×54 19 衛円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 銀尾円形 273 30×40 16 衛円形				1172	
266 30×32 19 1317円形 267 26×27 27 1317円形 268 43×49 21 前円形 269 32×38 18 前円形 270 50×54 19 前円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 1317円形 273 30×40 16 前円形 273 30×40 16 前円形 273 30×40 16 前円形 274 275					
267 26×27 27 1312円形 268 43×49 21 福円形 269 32×38 18 福円形 270 50×54 19 福円形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 1312円形 273 30×40 16 福円形 273 30×40 16 福円形 275 27				1,11%	
268 43×49 21 衛門形 269 32×38 18 衛門形 270 50×54 19 衛門形 271 23×24 22 門形 272 22×24 17 銀尾門形 273 30×40 16 衛門形					
270 50×54 19 福刊形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 ほぼ円形 273 30×40 16 福刊形				ほぼ円形	
270 50×54 19 福刊形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 ほぼ円形 273 30×40 16 福刊形		43×49	21	備円形	
270 50×54 19 福刊形 271 23×24 22 円形 272 22×24 17 ほぼ円形 273 30×40 16 福刊形	269	32×38		楕円形	
271 23×24 22 門形 272 22×24 17 ほぼ門形 273 30×40 16 楕円形				梅田形	
272 22×24 17 ほぼ門形 273 30×40 16 情門形					
273 30×40 16 情円形	272		77	(ZIPITIK)	
	1 273 			福山城	
	بلتعت			1.8717	

No.	開口部後cm	深さem	形状	伯。
275	28×30	31	ほぼ門形	
276 277	28×30 32×35	34 28	はは円形	
278	25×27	22	(121211) } 121211	
279	22×24	18	1412円形	
280 281	27×28 19×21	21 16	福川形	
282	19741	16	M1.1/2	
283	31×33	20	ほぼ円形	
284	25×28	17	梅円形	
285 286	33×34 21×22	19	(まぼ門形 (まぼ門形	
287	30×34	25	福中形	
288	19×20	21	はは同形	
289		 		
290 291				
292				
293				
294 295		 		
296				
297				
298				
299 300	41×45	33	楕円形	RB05組立柱建物、柱頂跡有り
301	37×42	35	樹可能	土師器片出上
302	27×28_	22	ほぼ円形	
303 304	25×36 31×33	35 26	横円形はは円形	
305	26×28	14	(まは円形	
306	37×41	32 17	梅丹形	住痕跡有り
307	25×29		情刊形	
308 309	38×40 30×33	30 32	ほぼ円形	上鮮器片出土
310	50×52	38	建建川形	上解器片出上
311	29×30	32	(12)11/63	
312 313	23×27 22×26	22 28	格中形 新中形	
314	28×28	10	門形	
315	32×36	29	格凹形	
316	20×20	16	門形	
317 318	16×18 20×20	24 11	13ほ円形 円形	
319	29×29	12	PB	
320	23×24	11		
321	23×24 19×20	12 20	中形	
322 323	25×26	16	一個	
324	26×27	16	1118	
325	26×29	14	格凹形	
326 327	30×31 31×34	21	円形 楕円形	
328	29×31	28	建建門形	
329	28×28	14	四形	
330 331	23×26 24×24	19 15	- 樹門形 門形	
332	31×32	26	一部	
333	27×28	16	門形	
334	34×37	26	梅門形	
335 336	27×27 20×21	19	148	
337	31×36	21	- 1718 - 梅円形	
338	48×50	10	ほぼ円形	
339 340	37×38	13		
341	23×24 24×27	13	刊度 梅円形	
342	28×35	21	楕円形	
343	29×30	2	円形	
344 345	22×30 24×27	27 14	特円形 特円形	
346	27×35	27	南門形	
347	28×29	22		
348	37×38 27×31	28 23	円形 梅円形	
349 350 351	27×31	30	精門形	
351	34×35	25	円形	
352	31×32 25×28	2 28	1 111163 1	
353 354	25×28 24×29	28	格 PR	
355	21×23	22	111111111111111111111111111111111111111	
356	31×44	17		
357 358	22×24 24×25	18 15	注:[1]形 注:[1]形	
359	28×31	20		-
360	23×28	15	梅門形	
361 362	31×45 45×46	19 39	M11/1/33	
363	21×21	19	一	
363 364	25×27	15	斯 拉那	
365	35×39	21		
366	25×31	23	格円形	

		1		
No.	口開都铁em	深さcm	形状	
367 368	27×32	39	- 梅円形	
369	29×30 28×41	27 15	ほぼ門形	
370	21×28	15	特円形	
371	21×23	23		
372	28×32	25		
373	30×31	45	建建門形	
374	28×31	46	福円形	
375	24×28	24	楕円形	
376	31×50	22	福円形	
377	27×29	26	1414年1118	
378	28×28	12	はは円形	
379	21×25	22	梅门形	
380	21×39	29	. 精中形	
381	20×22	10	ほぼ円形	
382	25×28	19	格円形	
383	18×23	32	格円形	
384	18×21	11	格円形	
385	23×23	17	門形	
386	32×33	24	円形	
387	<u> 19×21</u>	28	はば門形 円形	
388	24×24	12	11/2	
389	16×17	11	円形	
390	30×31	12	円形	
391	28×35	30	楕円形	
392	26×28	9	<u></u>	
393	33×40	25	短門形 -	
394 395	38×46	25	楕円形	
	31×34 31×34	24	樹門形	
396 397	25×26	24 20	横門形 ほぼ門形	
398	20×43	20	格円形	
399	39×46	23	格円形	
400	34×36	15	ほぼ円形	
401	33×34	10	府円形	
402	35×46	19	格巴形	
403	27×27	11	円形	
404	30×39	14	福円形	
405	30×36	22	精門形 梅門形	
406	27×27	20	円形	
407	32×33	20	ほぼ円形	
408	32×35	10	梅円形	
409	22×27	18	楕円形	
410	24×29	17	宿円形	
411	21×24	16	楕円形	
412	26×29	12	有円形	
413	39×41	24	ほぼ門形	
414	31×32	17	ほぼり形	
415	39×42	26	1312 4118	
416	23×24	22	ほぼ円形	
417	26×27	14	はは円形	
418	25×39	21	<u>慣円形</u>	
419	29×40	20	梅門形	
420	23×25	19	建设門形	
421	25×26	19 19	建设門形	
422	27×30 34×35	19	1312円形	
423	27×29	7	ほぼ円形	
425	17×22	10	松田縣	
426	24×32	16	梅円形 梅円形	
427	21×27	18	1 253 1-4 654	
428	35×36	22	(ままり形	
429	28×42	21	荷円形	
430	27×28	19	はは川形	
431	29×31	20	ほぼ円形	
432	28×30	24	ほぼ門形	
433	16×21	10	梅川形	
434	28×36	13	楕円形	
435	35×38	22	梅田形	
436	29×37	17	梅門形	<u> </u>
437	30×32	15	[[[]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]]	
438	33×41	32	間間	
439	23×35	13	格円形 格円形	
440	31×41 27×41	24 25	楕円形	
441		24	梅門形	
442	33×41 26×29	23	梅円形	
443	42×45	25	ほぼ円形	
445	31×41	22	构门形	
446	34×42	17	福門形	
447	37×39	20	建黑門形	
448	16×27	27	福中形	
449	26×27	26	建建門形	
450	35×36_	17	ほぼ川形	
451	47×48	33	ほぼ円形	
452	29×30	16	ほぼ円形	
453	36×45	28	楕円形	
454	38×39	16	ほぼ川形	
455	31×32	28	13121118	
456	23×24	44	ほぼ門形	
457	35×38	33	梅門形	
458	23×23	21	円形	<u>. </u>

No.	開口部径cm	深さcm	形状	備身
459 460	22×28 40×41	19 34	格円形 ほぼり形	
461	41×45	27	新 的形	
462	30×38	21	构円形	
463 464	58×59 43×68	28	(ま)(ま円形 荷円形	
465	41×42		1212[4]	
466	40×43	31	格円形 特円形	
467 468	30×42 32×39	27 27	一類円形	
469	32 4 35	. 41	格円形	
470				
471 472	24×28 22×37	20	相凹形 相凹形	
473	29×60	28 20	開開	
474	30×58	16	侑川形	
475 476	30×33	10	はほ門形	
477	30×31 25×41	10 20	はは円形	
478	26×29	14	伯円形	
479	23×25	15	(ままり形	
480	22×45 35×38	16 19	精円形 ほぼ円形	
482	31×31	23	11118	
483	28×35	25	円形 楕円形	
484 485	25×32 30×42	22 26	格円形 格円形	
486	34×35	11	はは円形	
487	26×43	10	備円形	
488	34×35	16	(まは円形	
489 490	22×27 23×25	17	情円形 ほぼ円形	
491				
492				
493 494				
495				
496				
497 498			-	
499				
500				
501 502	20×21	16	ほぼ円形	
503	40×56	24	楕円形	
504	30×45	16	植門形	
505 506	32×43 30×32	18 13	精団形 ほぼ門形	
507	53×60	20	精中形 精中形	
508	46×56	20	相凹形	
509 510	25×28 50×58	18 29	梅凹形 梅凹形	
511	30×31	29	ほぼ円形	
512	40×47	4	預門形	
513 514	45×56 45×55	20	精円形 特円形	
515	40×45	26	情円形	
516	59×67	22	楕円形	
517	40×43 32×38		はほり形	
518 519	32×38 32×32	22	円形 相呼形	
520	50×56	_28	相当形	
521	45×50	22	精門形 相門形	
522 523	40×50 40×43	28	1212円形	
524	33×42	12_	植凹形	
525	42×44	17	(ま(ま(*)形) 	
526 527	28×37 19×22		特円形 特円形	
528	35×40	26	精刊能	
529	45×47	24	情円形 はは円形	
530 531	35×55 35×50	23	新州	
532	40×43	24 31	福門形	
533	40×65	15	1 横凹形	
534	45×45	18	円形 楕円形	
535 536	50×57 32×45	24 25	梅門形	
537	35×35	21	門形	
538	32×36	26	自門形	
539 540	35×43	13	梅四形	
541			İ	
542	65×76		相凹形	
543		 	ļ	
544	· · · · ·	1	<u> </u>	<u> </u>

<土師器・須恵器> ○:内外面 ○:内面のみ △:一部または痕跡のみ 黑色処理凡例 ×:不処理(杯·商台付坏) 計劃值:cm 外面調整 内面凋熟 胎士 **掲載 登録 写真** 協・考 出土地点・層位 器位 黑色 色調 番号 番号 凶胺 口経・領部 口縁部 庭 部 田径 庭経 鬼窩 (含有物、色調等) 体 您 底 部 体 部 処理 反転実期 1 20 27 RAO1・2号カマド南半部配上 金型母多 土牌器・坏 2.5YR2/1赤思 ロクロナデ ロクロナデ ヘラミガキ 0 (12.2) [3.7] ロクロナデ _ 金虫母多 2 3 27 RA01 · a-7, 9, 11, 12, 37 土師器・坏 10YR7/3鈍い黄橙 ヘラミガキ ロクロナデ ロクロナデ「同転糸切り痕」 ロクロナデ ロクロナデ Δ 13.7 5.5 5.6 3 21 27 RA01 · a-9 土貸器・坏 10YR7/4段い負債 全组织多 ロクロナデ 阿佐糸切り痕 ロクロナデ? ロクロナデ? × [2.1] _ _ 6.0 4 24 27 RA01 · a-49 十筒器・坏 7.5YR7/4鈍い橙 ロクロナデ | 回転糸切り痕 O (5.0) 12.21 金型母を含む ヘラミガキ ヘラミガキ 5 11 27 RA01 · a-52 土原料・坏 5YR7/3與い权 ロクロナデ 砂粒合む(1mm) ロクロナデ ロクロナア | 村転来切り痕 ロクロナデ ロクロナデ × 10.9 4.7 4.3 金织科多 一郎反転実践 6 7 27 RA01 · a-33 7 8 27 RA01 · a-35 上贷器·坏 5YR6/4買い位 ロクロナデ 同転糸切り痕 ヘラミガキ ヘラナデ? 0 13.2 4.5 ロクロナデ ロクロナデ 4.8 口縁部内外面に爆状の付着物 5YR7/3英い橙 全型科少 土贷器·坏 4.5 ロクロナデ ロクロナデ、「日転糸切り痕」 ロクロナデ ヘラミガキ ヘラミガキ 0 12.8 5.2 ヘラナデ 8 1 27 RA01·前東級a·3·4·6 上5522· 片 10YR6/6根 ロクロナデ | 回転糸切り痕 | ロクロナデ | ロクロナデ | × 12.7 5.7 4.3 ロクロナデ ロクロナデ | 回転糸切り痕 金雪母母鼠 軽面に刻印「×」 9 5 27 RA01·前東部a-19 土婦器・坏 10YR2/193 5.1 ヘラミガキ ヘラミガキ 〇 5.0 金雪的少 反転実調 10 2 27 RA01·南東部a-7 上算器・坏 10YR7/6权 ロクロナデ | 回転糸切り煎 | ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ × 12.7 3.5 ロクロナデ 6.4 11 4 27 RA01 · a-13 金宝母多 外面に線刻(逆「人」字状) 上餅留・坏 5YR6/4買い根 0 ロクロナデ ロクロナデ | 回転糸切り痕 | ロクロナデ | ヘラミガキ ヘラミガキ 13.8 5.4 4.9 12 6 27 RA01 · a-44 7.5YR8/4线负极 砂粒含む(1mm) 上節器・坏 ロクロナデ ロクロナデ 回転糸切り痕 ロクロナデ ロクロナデ × 15.0 4.7 4.8 ロクロナデ 13 9 27 RAOI・南半ベルト、北内 上贷器·坏 × 11.9 3.6 3.8 砂粒少 ロクロナデ 回転糸切り鎖 ロクロナデ ヘラナデ? ロクロナデ ヘラナテ 14 19 27 RA01 · 南半部額 t: 反転実測 上段器・坏 2.5YR2/1思 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ヘラミガキ 0 (14.4) [3.9] _ 15 12 27 RA01 · ILM 砂粒着しく多 反転実際。「砂底」? 土鮮器・坏 10YR7/6億 不明 5.0 [4.1] ロクロナデー回転系切り? 不明 × 16 10 27 RA01 · a-47 外面に線剣(上下2段の「八」) 土節器·商台坪 7.5YR7/6极 14.3 金型科少 ロクロナデ ロクロナデ 貸による再調整 ロクロナデ ロクロナデ ヘラミガキ 0 9.0 6.3 17 25 27 RAOI·南東輝龍士 × 上贷器·高台环 7.5YR7/6位 (7.8) (3.0) ロクロナデ ロクロナデ _ 18 14 27 RA01 · a-7. 9 土貸恕・豊 5YR6/6禄 ロクロナデ ロクロナテ ロクロナデ 110.21 砂粒盘点 ロクロナテ _ 内面に爆少量付着 份权少 19 13 28 RA01 · a-45. 47 土算器・獎 7.5YR7/3段い位 ロクロナデ ロクロナテ ロクロナデ ロクロナテ (21.2) _ [14.1] 砂粒背しく多 20 22 28 RA01 · a-11 上筒型・費 7.5YR6/4貸い税 ヘラケズリ 可為亞 ヘラナデ ヘラナデ (8.0) [6.7] 688€ 21 17 28 RA01 · a-40 上贷器·费 5YR5/8列赤褐 ヘラナデ ヘラケズリ ヘラナア ヘラナア _ -_ [10.1] 22 23 28 RA01 · a-38 23 18 28 RA01 · a-45 砂段多く含む(2mm) t.贷图·麦 2.5YR5/8 -木原组 -_ (7.4) [1.2] _ _ _ 上節器·壺 5YR7/640 ロクロナデ ロクロナテ ヘラケズリ 113.21 砂粒谷しく多 ヘラケズリ _ _ 砂粒多、金雲母少 25と同一個体か? 24 16 28 RA01·前來a-22 上贸器·鲜 5YR6/6根 ロクロナデ ヘラケズリ _ ロクロナデ ヘラケズリ [8.2] 砂粒多。金雪母少 24と同一保体か?場? 25 15 28 RA01 · a-15 土師器·錦 5YR6/682 ロクロナデ ロクロナデ _ [8.8] ヘラケズリ ヘラケズリ 26 37 28 RAOI・a-7、北西ソデ付近 須恵器・坏 (5.2) 赤巴 10Y5/1灰 [1.8] ロクロナデ 対転糸切りも ロクロナデ ロクロナデ X 27 33 28 RA01 · 北東部設士 [3.6] 灰 須忠器・坏 10Y4/1灰 × _ ロクロナデ -ロクロナデ _ _ _ 反転実測。外面に線剣あり? 28 29 28 RA01·北東部位上 須恵器・安 5YR2/19HA (13.2)_ 17.71 赤桕 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 31・32と同一保体か? 29 30 28 RA01 · 北東部設士 明赤和色 須恵器・必 7.5YR3/1思档 ロクロナテ ロクロナデ [7.8] 30・31と同一切体か? 明赤和色 30 32 28 RA01 · 北東邱超土 須恵器・壹 2.5YR2/1赤思 [7.6] ロクロナデ ロクロナデ 30・32と同・44体か? 明赤和色 31 31 28 RA01 · 北東部設士 須恵器・麦 10YR3/2知构 ロクロナデ __ ロクロナデ _ _ [6.2] 32 35 28 RA01・カマド2煙道底面、a-28 灰 当て具模は連貫文 須也器·費 7.5Y2/13 __ タタキメ _ . 当て目初 _ -_ [6.4] 外面一部にナデ 918 33 | 36 | 28 | RA01 · a-28 須忠器・費 2.5Y5/1貸灰 9941 [13.8] -当て具の _ 34 34 29 RA01 · a-2 須忠恕·慶 7.5Y2/1黑 93 タタキメ _ ユビナデ [18.0] 砂段含む(2mm大) |39と接合 41 38 29 RA02 - NO.8 土が割・費 7.5YR6/4貸い役 ヨコナテ ヘラケズリ ヘラケズリ ヨコナテ ハケメ ヘラケズリ (20.2)11.9 31.4 42 41 29 RA02 · NO.7 631 -60 - 部反転実樹 須恵器・坏 2.5Y6/3純い前 ロクロナデ ロクロナデ、 対転糸切り、 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ × (15.4)6.3 5.4 ヘラナテ 再翼型 43 42 30 RA02 · NO.5 ※・認恵能 N5/IK ロクロナデ ロクロナデ 11.4 117.11 ロクロナデ、 ヘラケズリ ヘラナデ 金岩母合む 上が器・坏 10YR5/4段い黄褐 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ヘラミガキ 0 (14.1) [4.5] 45 49 30 RAO3・カマド右線pit底面付近 土師器・坏 7.5YR6/6K ロクロナデ ロクロナデ 回転糸切り根 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ × 15.7 5.6 4.5 一部用鄰整 あり 口经部就片 46 59 30 RAO3・カマド陸pit配 i: 上的器・坏 10YR7/4Дい資役 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ヘラミガキ O (12.0) [4.6] 金型付合む 金雪科少 反転実額 47 47 30 RA03·床齿NO.11 上の路・水 7.5787/3段い校 ロクロナデ ロクロナデ 国転糸切り頂 ロクロナデ ヘラミガキ ヘラミガキ 0 (14.4) 6.4 5. I 金岩母を多く含む 口録部~底部にかけて残け 48 73 30 RA03 · 以上?(株土中) 土は路・环 7.5YR8/3浅负极 ロクロナデ ロクロナデ 回転糸切り値 ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ O (15.2) (8.0)4.8 49 54 30 RA03 · RU: 土貸器・坏 7.5YR7/4員い役 ロクロナデ ロクロナデ × [3.5] 50 | 56 | 30 | RA03 - 設土上位 はないくなり 土岡四·坪 7.5YR7/6段 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ × (15.0) _ 4.8 51 53 30 RA03 · BI ± ± £Q [3.1] 上紙思・环 7.5YR7/4鈍い機 ロクロナデ ロクロナデ × 金岩科少 52 43 30 RA03・プロック(D) 上録器・环 7.5YR6/4段い機 ロクロナデ ロクロナデ 再淵黎 ロクロナデ ヘラミガキ ヘラミガキ Ö (15.0) (6.0)4.4 全国科技员 53 44 30 RA03 · 数十.上位北東 土師器・坏 7.5YR6/4鈍い位 ロクロナデ ロクロナデ 丹潤整 ロクロナデ ヘラミガキ ヘラミガキ 〇 (15.0) 6.2 4.7 北鈴器·坪 金雲科少量含む 54 46 30 RA03 · 程士上位北京 7.5YR6/4純い機 ロクロナデ ロクロナデ 回転ヘラケ ロクロナデ ヘラミガキ ヘラミガキ 0 15.0 6.2 4.7 ズリ再調緊 砂粒合む(2mm人) 55 45 30 RA03 · 极土上位北西 上炉器・坏 7.5YR6/6K2 ロクロナデ | 回転糸切り根 14.3 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ 6.0 4.6 × 砂粒含む(2mm大) 高台付 56 48 30 RA03·床面NO.3 上贷器·减台环 7.5YR7/6股 ロクロナデ ロクロナデ 同転糸切り得 ロクロナデ ロクロナデ ロクロナデ × (15.0) 8.6 6.8 高台部破片1/2残存 砂粒含む 57 72 30 RA03・カマド監役基部 土鮮器・坏 [1.7] 5YR7/4続い橙 ロクロナデ ロクロナデ __ (8.0)58 61 30 RA03・カマド付近担乱部分 土師器·坏 7.5YR8/4浅質機 砂粒含む(2mm大) × [3.4] ロクロナデ ロクロナデ ロクロナテ ロクロナデ __ 口縁部は短く外反、体部上半 砂粒含む(3mm) 50 31 RAO3·東東原復士中~ F位NO.9 上贷款・意 5YR4/8赤褐 木草旗 ヘラナデ 13.0 8.6 (5.0) ヨコナデ ヘラナア ヨコナデ ヘラナデ _

~肩部付近が超大闘性

	Ι		<u> </u>				外面調整			内面趴!	Ď.				n		<u> </u>
	登録 番号		出土地点・層位	器積	6 A	日報・銀部	体 部	底 部	门转器	体 部	既 部	黒色 処理	口径	prif	魯育	胎土 (含有物、色調等)	图号
60	51		RAO3・貼り床偶聚土房	上節器・鹿	7.5YR5/3段い掲		ヘラケズリ	ヘラケズリ		ハケメ	ハケメ	Ξ	_	9.0	[4.7]	砂粒含む(3mm)	
61	55		RAO3· 版上比位	土餅器・費	7.5YR6/4純い位	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ヘラナデ		_	(10.1)	<u> </u>	[4.3]	FA CD (I)	ロクロ成形
62	57	31	RAO3·RL上位	土鉄器・蹇	7.5YR7/6橙	ヨコナデ	ヘラナデ	-	ヨコナデ、 ヘラナデ	ヨコナデ、 ヘラナデ	-	-	(18.4)	-	[6.5]	砂粒少。	i
63	60	31	RA03・カマド脇pit程士	上級器・夏	10YR8/4浅黄橙	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナテ	ハケメ			_	_	[7.2]	砂粒含む(2mm大)	口縁部破片、口縁部は短く外反
64	64		RAO3· 北京部以上上位	上野器·獎	7.5YR6/6橙	ロクロナデ	ロクロナテ		ロクロナテ	ロクロナデ		-			17.71	金雲母、砂粒合む	日韓部取片、ロクロ成形
	<u> </u>	<u> </u>						<u></u>							45	(2mm小)	
65	63		RAO3·W上校出西	上鮮器·夏 上鮮器·夏	7.5YR6/6位 5YR6/6位	ロクロナデ	ロクロナデ、	- -	ロクロナデ	ロクロナデ		_	(17.3)	-		砂粒合む(1mm大) 砂粒少量含む	口は部破片、ロクロ成形
66	65	31	RAO3・カマド付近収益部	Tensore	21402018	L/L/7	ヘラナデ		U) U) 7	uyuyy			(17.3)	_	[10.5]	BK2M36	日韓部一体部上半にかけて1 /6残存
67	66		RAO3・カマド付近収基局	上師器・虚	7.5YR7/4鋭い根	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ	ヘラケズリ	ロクロナテ	ロクロナデ	ヘラナデ	-	(18.1)	(10.1)	16.2	砂粒含む(1mm大)	口縁部〜底部にかけて残存
68	52		RA03・カマド付近担乱部分	土時間・既	5YR8/4淡橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		14.7	7.5	15.0	椒砂粒少。	ロクロ成形
69	62		RA03・カマド付近仮乱部分	上於器・蛇	7.5YR6/4純い根 10YR5/1灰	ヨコナデ	ヘラケズリ	 	ヨコナテ	ヘラナデ			_			砂粒含む(3mm)	口疑部破片、口疑部は短く外反
70	76		RA03・床直NO.2 RA03・カマド煙出部	須忠器・費 須恵器・雙	5P3/1扇紫灰		タタキメ タタキメ	- -		ユビナデ	-	-	=		- -	灰 暗紫灰	頭部~肩部にかけての破片
71	79 78		RAO3・カマド語pit優上	須息器・製	2.5YR4/1黄灰		タタキメ		- -	ユピナテ						並灰	体部破片 体部破片
73			RA03・数上上位(TO-aがより上位)	須恵器・豊	5Y5/18K		3341	-		当て以収		_	_			灰	体部设计
76	85		RAO4·N上上位	北鎮器·坏	7.5YR7/4鈍い位	ロクロナデ	ロクロナア	i -	ロクロナデ	ロクロナテ	-	×	(11.9)		14.51	छधक्र	日韓~体部にかけての設片
77	87		RA04·贴床模築土、覆上中-下位	須恵器・費	N4/0#	-	ロクロナテ	-	-	ロクロナデ		-	_	-	(3.8)	块	用瓜酸片
78	86	32	RA04·贴床俱築土、覆上中-下位	須恵器・春	7.5YR2/1M	ロクロナテ			ロクロナデ	_	-		(17.8)		[4.0]		门静部胶片
79	88		RA04・限上(上層ペルト内)	須恵器・提	5Y3/ l オリープ思	-	タタキメ		_	ユビナテ	-	-			-	オリーブ黒	
80			RA05・カマド1左ソデタ第上	上原型・坏	7.5YR7/6RI	ロクロナデ		回転糸切り積		ロクロナデ	ロクロナデ	×	(15.2)	(5.4)	[5.7]		四部
81			RAO5・カマド南脇床歯	上的型・坏	5YR7/4鋭い板 10YR8/4没貨板	ロクロナデ		回転糸切り痕		ヘラミガキ	ヘラミガキ	00	(14.0)	6.8	4.6		既邸付近を中心に爪痕が残る
82	99		RA05・カマド1左ソデ朝築上下位 RA05・カマド2煙出部配土上位	土質器・坏土質器・坏	5YR5/8明赤梅	ロクロナデ		回転糸切り旗 回転糸切り旗		ヘラミガキ	ヘラミガキ	8	14.1	6. I 5.8	5.3 5.2	砂粒を含む 金型形を含む	1/2現存
84	103		RAO5・水面、カマド1粒上	上6528 - 坏	5YR6/6R2	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		4	(13.6)	(6.2)	4.1		1/5現存、厚質が著しい
04	103	36	IOOS MAL WITHER	1.57 05 -1	011107 012	"/"//		ズリ再調整	,,,,,,	"""			(10.0)	(0.2)	4.1	#### 51(1C	17 3% F. WALL H.C.
85	100	32	RA05・カマド2煙出品和 t.	土質器・坏	10YR7/6楼	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケ ズリ再調整	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0		6.2	[4.7]	金型用を含む	
86	101		RA05・カマド3煙出品収上	土飾器・坏	5YR6/6檢	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り値	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	×	(12.0)	(6.0)	5.2	砂粒を含む	所謂「あかやき」
87	104		RA05·P4版土、柴土直上	土節器·坏	5YR7/6M2	ロクロナデ		回転糸切り、 再調覧	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	٥	(14.0)	6.0	4.6		外面に墨書(「大」「十」)。
88	91		RAO5·床面	土鮮器・坏	7.5YR7/6億	ロクロナデ	l	回転糸切りの 検再調整	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Δ	14.3	6.8	4.9		体部外面中程に爪痕あり
89	163		RA05・P2,床面 RA05・プロック③、 版 上上位、床面	上贷器・坏 上贷器・高台坏	5YR7/3続い税 IOYR6/4発い税	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り痕 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、	ロクロナデ	×	20.9	5.8 12.1		砂粒を含む 砂粒含む(3mm)	民都政片
90	108			土飲器・好	10YR8/25	ロクロナデ		回転糸切り放		ヘラミガキロクロナデ	ロクロナテ	×	14.0	6.5			一部RAO 3埋土出土破片と接合
91	90 105		RA05・床面直上(境土材面) RA05・P16置土、床面直上	上的器・坏	101R8/6负权	ロクロナデ	ロクロナデ	科調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ	-	ô	(14.0)	(6.1)		砂粒合む 全型料を含む	内外面とも摩波が著しい
93	140		RAOS·林崎直上	北野園·坏	5YR7/662	ロクロナデ	ロクロナデ	-	ロクロナデ	ロクロナデ		×	(14.0)	(0.1)		BR43U	HAME SHEED &CL.
94	166		RA05・カマド2 煙焼尿上位,貼床	土節四・圻	5YR7/612			同転糸切り点	-	ロクロナデ	ロクロナデ	×		6.2		砂粒を含む	民多般片
95	92		RAO5·贴床俱聚土	土政器·环	10YR8/6質根	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り低	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Δ	14.4	6.0		金雲母を多く合む	全体的に摩波が著しい
96	93		RA05・プロック①Ø、程上下位	土炉器・坏	7.5YR7/6f2	ロクロナデ		回転糸切り痕		ロクロナデ	ロクロナテ	x	15.3	6.0		砂粒を含む	
97	89	<u> </u>	RA05・プロック①④、 取 七中 - ド位	土原器・坏	7.5YR7/2明裕庆	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケ ズリ再調繁	ロクロナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	13.9	6.5		<u>1988</u>	
98	155		RAO5・プロック④、粒上中-下位	土師器・高台坪 須息器・坏	10YR3/1無料 5Y7/2灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、	菊花状	- ヘラナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	-		(7.6)		金雲母を含む	底部破片
99	114		RAO5·阿土下位			-	ヘラナデ		-					-	•		门种部设计
100	146	33	RA05・ブロック③、程上上位(火山灰層より 上位)	土の路・水	7.5YR8/4浅黄橙	l	ロクロナデ			ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	-	5.8			序域が著しい
101	154		RA05・プロック③、数上上位(火山灰層 より上位)	上的器・环	5YR6/610	-	ロクロナデ、 ヘラナデ	対転糸切り斑	-	ロクロナデ	ロクロナデ	×		5.7		合む	民學政治
102	150		RA05・配上1屋(火山灰屋より上位)	t.贷忍·坏	7.5YR5/4鈍い掲	_	ヘラナデ	回転糸切り痕	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	-	5.0			底部破片
103			RA05 · 北里際	上質器・坏	10YR8/6貨程 7.5YR8/4浅質程	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り低	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ŏ	14.1	5.8			全体的に摩銭が著しい
104			RA05・ブロック(I)	土原窓・坏	7.5YR6/4段以位	- U/UTT	ロクロナテ	手持ちヘラケ	~7;n* -	ヘラミガキ	ヘラミガキ	윙	14.0	6.8	4.4		1/2現存 概部収片
105	13/	l	RA05・ブロック®					ズリ再調整								金岩母を含む	->
106			RA05·西里際上部	上餅器・高台坏	5Y2/2オリーブ以		ヘラミガキ	菊花状	-		ヘラミガキ	Ŏ	_=_	8.9	[2.3]		
	159			土師器・高台圻	7.5YR2/2照档	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガキロクロナデ	ヘラミガキ	ê	(10.4)	(7.0)			底部破片
108			RA05・ブロック(0) RA05・ブロック(0)、P4配上	上師器・坏	7.5YR7/6橙 7.5YR7/4段い橙	ロクロナデ	ロクロナデ	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	-	ŏ	(16.4)	(6.2)		砂粒を含む 金雲母を含む	门种多胺片
109			RA05 · 70 · 900 P4M F.	土質器・坏	5YR5/6明赤褐	-		国転糸切り似	~ ~ ~	- -	ヘラミガキ	8		4.8			以都够成厅 以都够片
110	100	1 34	1.4.4.4		1 2 27,27,4	·	,	1						I	10.11	~ 44114	

						I	外面副整			内面調整	7		ã	计规值:ci	m	I	
相极 登 奇			出土地点・層位	器 桁	e 31	口軽・類部	体器	底 部	口経部	体部	底 部	川色 処理	口往	底径	2845	胎土 (含有物、色調等)	伯 考
111 12	25	34	RA05・カマド1収上	t.鲜思·麦	5YR6/8@	ロクロナア	ロクロナデ、	-	ロクロナデ	ヘラナテ	-	-	(17.2)		[21.4]	DREAU	ロクロ成形
112 13	37	34	RA05・カマドl pit3	上於器・夏	5YR5/6可赤褐	ヨコナア	ヘラケズリ	-	ヨコナテ	ハケメ		- 1	(18.5)	-		砂粒合む(2mm大)	
113 11	10	34	RA05・カマドINO.3、pit4型 l:	上節器・麦	7.5YR7/6概	ヨコナア	ヘラケズリ	-	ヨコナデ	ハケメ	-	-	22.7	-		砂粒合む(2mm大)	放大関係の体体上半から射体 にかけて内擠し、口軽部は短 く外反する
			RA05・カマド2煙道厚型 t:	上げ器・変	5YR5/6可亦褐	ヨコナア	ヘラナデ	_	ヨコナデ	ヘラナデ	_		-			砂粒を含む	A STATE OF THE STA
			RAO5・PIO似土、珠菌爪上	支・塔領土	7.5YR6/4純い機	ヨコナデ	ヘラケズリ、 ヘラナデ	水袋煎	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	_	11.5	7.8	7.3	砂粒合む(2mm)	底部に水紫机、全体的に訳ん でいる
			RA05·P2版上、床面	上的多:费	2.5YR5/6引赤松		ヘラケズリ	木草町		ヘラナデ	ヘラナデ	- 1		10.8		砂粒合む(2mm大) 砂粒合む(2mm大)	反転実期、底部破片
			RA05・雇上上位、ド位、ブロック② RA05・雇士上位(火山灰灯より上位)	上師器・変 上師器・変	7.5YR5/6松 10YR7/4粒い面積	<u> </u>	ヘラケズリ	木幣低	-	ヘラナデ ロクロナデ	ヘラナデ	 -		10.4 8.0	13.4	砂松市む(2)	DCWG ACOD. BIGISHREFT
							ロクロナデ、	ヘラケズリ		ヘラミガキ				8.0	[6.2]	砂粒含む(2mm大)	
			RAO5・夏上上位(火山灰厨より上位) RAO5・ブロック®	土原器・養	5YR5/4鋭い赤褐 7.5YR6/6個	93ナデ -	ヘラケズリ	一 砂底、木腐魚	9コナデ -	ヘラナデ ヘラナデ	ヘラナデ	-	-	(15.2)	[2.4]	छस्टितर	DR12
121 96	6	35	RA05・カマド1版 E E位NO. I	知息图·坏	7.5YR8/2Kf1	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	村転条切り紙	ロクロナデ	ロクロナテ	ロクロナデ	×	14.1	(6.0)	5.3	全国科を含む	境成不良、底部1/3、日韓部 1/2欠損
			RA05・カマド2億出路設士上位	須恵器・坏	5Y8/1狀的	ロクロナデ	ロクロナデ	対転糸切り魚	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	=	(16.2)	6.4	4.9		
	58	35	RAO5・プロック②	須恵器・坏	10YR7/4鋭い貨根	_	ロクロナデ	同転糸切り頂	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-		6.2	[2.0]	金型用を含む	焼成不良、底部破片 外面の剥落が著しい
124 17			RA05·P3、床面直上	登· 區思联	5BG2/1 有黑	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ	菊花状	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラナデ	-	11.0	9.1	22.8	原則	
			RA05·程士下位	源の路・奄	2.5GY2/1,M	ロクロナデ	-	-	ロクロナデ	-	-	-	12.0		[6.6]	JA	口縁部破片、「組点4付近・表 土下」と接合
			RA05・ブロック②、複上中~下位	須恵器・壺	7.5Y5/1JK	ロクロナデ	-		ロクロナデ	-		-	(14.0)			灰	日経部設片
			額点4付近・「表土下」	須忠器・坏	2.5Y8/3换负	-	ロクロナデ	阿転糸切り頂		ロクロナデ	ロクロナデ		-	6.0		技貨	RA05かRA11に帰属か? TRB05pp12・数 l: l:仪1
128 39			RA05・プロック@⑦	利印数・章	10YR1.7/15K	ロクロナデ	-		ロクロナデ	_	-	_	(13.2)		[6.5]	AL .	と接合
			RA05・プロック(03)	領忠器・登	10YR2/134	ロクロナデ	ロクロナデ	菊花状	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	- 1		10.0	[18.4]		プロック(OD), P4, なよれし
130 16	59	36	RA05・ブロック①	類・器 医尿	5Y5/19K	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ、 ヘラナデ	ヘラナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	-	15.8	10.9	32.7	长	プログク(GO)、 P4.W E.N.C. 耐と接合
131 17	70	36	RA05・プロック②	須也器・老	2.5Y5/2哨灰负	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り、 再類数	ロクロナデ	ロクロナテ	ロクロナデ	-	-	6.2	[10.3]	灰负	
132 17	79	36	RA05・プロック②	領忠器・党	10YR6/1&	ロクロナデ	タタキメ	-	ロクロナテ	当て具顔	_	= 1	26.0		[38.8]		
133 17	72	36	RA05・ブロック③	河瓜器·老	10YR8/3浅與積	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ、 ヘラナデ	ロクロナデ	ロクロナア	ロクロナテ	ロクロナデ	-	_	10.2	[24.1]	经价值	プロック①、電上下位,電上 上位(火山灰層上)と接合
134 17	74	37	RA05・ブロック③	須忠器・老	2.5Y4/3オリーブ科	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラナデ、 タタキメ	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	-	14.2	11.2	29.1	オリーブ得	プロック①⑥と接合、外面体部 中程にロクロナデで消しされ なかったタタキメの痕跡あり
135 17	73	37	RA05・プロック④	領点器・発	7.5Y6/1灰	ロクロナデ	ロクロナデ、	回転糸切り 一部再調数	ロクロナデ	ロクロナテ	ロクロナデ	-	11.8	8.4	11.9	灰	プロック①、程上中~下位、 収上上位(火山灰屋上)と接合
136 17	75	37	RA05・プロック⑤	海の路・春	10YR1.7/133	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	ロクロナテ	ロクロナデ、	ハケメ	-	13.4	8.1	21.3	33.	プロック協切と扱介
137 17	76	37	RA05・プロック④⑦	沒也器·老	7.5Y6/19X	ロクロナデ	ロクロナア、	ヘラケズリ、 折印点	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	13.0	9.4	20.5	灰	型上中~下位と接合、内面の 製造が著しい
138 17	78	38	RA05・プロック⑦	河中田・春	7.5YR1.7/1,53	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	-	ロクロナデ	ロクロナデ、	-	-	19.8	-	34.0	J.	プロック①②④、配上中~ド 位と接合
139 18	30	38	RA05・プロック⑥	須忠昭・賈	N4/0K	ロクロナデ	タタキメ、ヘラナデ	-	ロクロナデ	当て具質、ヘラナデ	-	-	46.3	-	[38.0]	灰	球菌、プロック①②④⑤⑦⑩ ⑩、東朝投私、配上上位、配上 下位:RA06球菌⑩と投介、タ タキメ:平行B、当て月:角足
140 18	31	39	RA05・プロック②	須忠器・豊	N6/0K	ロクロナデ	タタキメ	-	ロクロナデ	当て以収	_	-	51.8	-	[76.8]	民	プロック② ②⑦①⑨ 、「楠点 4付近表土」と接介、タタキメ: 平行B
149 19	96	40	RA06·點床標築上	上贷器·坏	SYR6/4段い機	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケ ズリ再調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(14.4)	(5.9)	5.1	金型形を含む	経部に提書有(政片のため全 容は不明「七」?)
150 21			RA06·贴床俱築 f.	上贷器·坏	5YR7/4段小校		ロクロナテ	国転糸切り似		ヘラミガキ	ヘラミガキ	Δ		(5.2)	[3.2]	金雲母を含む	摩波が著しい
151 20)4	40	RA06 · P16 at I:	上鉄器・坏	7.5YR6/648	ロクロナデ		同転糸切り頂	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	×	(15.7)	(8.0)	[5.0]	砂粒介む(2mm)	1/4現存。
152 210			RAO6·配土下位	土餅器·坏	2.5YR7/6R	_	ロクロナデ	回転糸切りの 後一部再調整	-	ロクロナデ	ロクロナデ	×	_	5.2	[4.0]	砂松合化	底部破片
			RAO6·製土下位	上算器・坏	7.5YR7/4鈍い収	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラミガキ	-	0	(16.0)		[4.5]	金銀母を含む	口幹部-体部取片
	19!	an I	RAO6・カマド型上上位	上節器・坏	5YR5/4段い赤似		ロクロナデ	回転糸切り痕	i -	ロクロナデ	ロクロナア	l x	ı –	4.7	[3.7]	砂粒合む	底部破片

		T					外面調節		l_	2 医西科	<u> </u>			計翻 が ∶cr	n	T	
担故			出土地点、層位	28 16	色調	日報・御器	体部	战器	口軽器	体部	底部	黑色 処理	口種	战程	器高	胎士: (含有物、色調等)	伯 考
155	182	40	RA06・プロック!	干政器·社	5YR6/8#3	ロクロナデ	ロクロナデ、	回転糸切り痕	ロクロナテ	ロクロナデ	ロクロナデ	×	13.8	5.0	4.8	BUSUR	
156	183	40	RA08・プロック!	上説器・高台坏	7.5YR1.7/1;kl	ロクロナデ	ヘラナテ	菊花状	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(17.0)		15.01	金雲母を含む	
157			RA06・カマド P6一括	上於器・費	10YR7/6ft		ヘラケズリ	ヘラケズリ	_	ヘラナデ	ヘラナデ	-	-	14.2	[4.0]	砂粒合位(3~4mm	底部破片、木套机
		<u> </u>						木紫蕻		<u> </u>						大)	
158	185		RA06・カマド収土	土焼器・甕	5YR5/3鈍い赤褐	-	ヘラケズリ、 ヘラナデ			ヘラナデ	ヘラナデ	-	-	11.4	9.9		
159	217	1	RA08・カマド支援	土質器・豊	5YR3/IUW	-	ヘラケズリ、 ヘラナデ	木菜與 一	ヨコナデ ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	_	1	8.6	[3.0]	砂粒合む(2mm)	底部破片、木保貞
160	199		RA06 · 岸面NO.9	土質器・塩	5YR7/8R0	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナデ		×			[7.6]	砂粒合む(2mm)	口縁邸破片
161	194		RA06·P1 RA06·配上上位、P6	上的器・変	10YR7/2段い質校 7.5YR8/6段英権	ロクロナデ ヨコナデ	ロクロナデ ヘラケズリ	-	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラナデ		-	(20.1) (24.0)	-	[5.9]	金型母を多く含む	口标部破片
162	188	40	RAUS · N.I.L.W. Po		· ·				-				(24.0)		[13.7]	砂粒合む(2~3mm 大)	口棘部~体部破片
163			RA06 · P5框上	土餅器·夏	5YR5/4良い赤褐	ヨコナデ	ヘラケズリ	木葉根	ロクロナデ	ヘラナデ	ハケメ	_	(14.3)	9.0	15.7		
164			RA06 · P1	須恵器·坏	2.5Y4/1 前級	ロクロナデ	ロクロナデ		-	ロクロナデ	-		(15.0)	- (0.0)	[3.0]	質灰	口棘部破片
165	239	41	RA06·P1 RA06·崔士上位	類恵器・坏 須恵器・坏	2.5Y7/3浅筑 7.5Y8/2灰门	-	ロクロナデ	同転糸切り痕 回転糸切り痕	<u> </u>	ロクロナデ	ロクロナデ	=		(6.0)	[2.2]	浅黄 灰白	底部破片
166	186		RAO6·超土上位	須恵器・坏	7.518/2次日	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナテ	-	-		4.9		灰白色	底部設片(底部の約1/2残(f) 口練部設片
168	219		RA06 · P5数 ± P6-7、数 ± F位	須退器·坏	2.5GYI/7リオリーブ氏	ロクロナデ	ロクロナデ	同転糸切り	ロクロナア	ロクロナデ	ロクロナデ	-	(15.2)	(6.1)		明オリーブ灰	日韓部~底部設片
169	236		RA06·床面%、覆上下位	須忠器・臺	7.5YR2/1/M	-	ロクロナデ、	-	ロクロナデ	ロクロナテ、	ヘラナテ	-	- 1.5.57	(9.7)	[6.3]	28	爲台付
1.00		''		1		1	ヘラケズリ、	_	ロクロナデ	ヘラナデ				12.17	,=,		
							ヘラナデ		ロクロナデ								
			RA06·祝土上位、祝土中、下位	領心器・豊	7.5Y6/1灰	ロクロナデ	タタキメ	-	ヘラミガキ	"१८॥व	-	-	21.2	-	[8.7]		
			RA06・カマド PI	須忠器・豊	5BG2/1793	-	9941			<u> ५८ ॥ स</u>		<u> - </u>			[10.5]		
			RA06 · 床面	須息器・費	5Y6/13K	-	9941	<u> </u>		当て具質	-	-	-	-	[10.7]		
			RA06 · PI RA06 · PI	須息型・安 須息器・老	5Y4/1块 7.5YR3/1別報	ロクロナデ	ロクロナデ	-	ロクロナデ	ロクロナテ	ロクロナデ	<u> </u>	16.5	7.2	[8.2] [5.1]		百分付 口鞣部破片
175	220	41	RAOS FILF®	類色型·長類型	N3/0時狀	ロクロナデ	-		-	<u> </u>		ΗΞ-	16.5		[8.7]		以 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1 (1
176	222		RA06 · 程士中位	MCH - EME	7.5YR6/2K#3	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナテ	ロクロナデ	_		(11.5)		[5.9]		日線部破片
180	252		RA07・カマド煙出部産上	上節器・坏	7.5YR6/6M	ロクロナテ	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラミガキ	_	0	(14.2)	_	[5.0]		口林部破片
		41	RA07·焼止畑	土牌器·商台坏	7.5YR7/8貨權	_	ロクロナデ	回転糸切り痕	_	ロクロナデ	ロクロナデ	×	_	(8.0)	[2.8]		高台部のみ1/4現存
182	258		RA07·贴床模築土(集土混人層)	土飲器·坏	7.5YR7/3鋭い板	ロクロナデ	ロクロナデ	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	_	Δ	(14.2)	-	4.6		内外面とも摩波が着しい
183	248		RA07·贴床模築土(燒上混入層)	須忠器·坏	2.5Y8/2K(!	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナデ	-	П			[4.0]	灰白	
184	262	41	RAO7 · KI Ł	土節器・高台坪	7.5YR7/3疑い権	_	-	菊花状 - -	- - -	-	ロクロナデ	Δ	-	(7.2)	[2.1]	l	高台部現存、底部に菊花状の 風跡がある。全体的に摩拭が 著しい
185	265	1	RAO7·PI個土	土師器・坏	7.5YR7/4鈍い位	-	ロクロナデ	- 再调整 - 再算整	ロクロナア	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	-	6.2	[3.8]	金型用を含む	厳怠破片、内面摩裢している
186	240		RAO7·設土一括	上節器・坏	5YR8/3读橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ 再調整 再調整		ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	14.5	6.1	5.1		口録部の一部を除いてはぼ鬼 存、内黒は3/4がとんでいる。
			RA07·P8權士	土鮮器·坏	IOYR7/4鈍い黄橙	ロクロナデ	ロクロナテ	_	ヘラミガキ	ヘラミガキ		0	(17.2)				口疑部数片
188	267	1	RA07 · P8版上	t.贷器·坏	5YR7/8校	_	ロクロナデ	阿転糸切り顔 一	-	ロクロナデ	-	Δ		5.6			底部破片、内外面とも序域が 著しく黒色処理がとんでいる
			RA07·超士	上師器·克 上師器·坏	7.5YR8/8貨權 5YR7/4與い權		ロクロナデ		<u>-</u>	ロクロナア	ロクロナデ	-		7.2			ロクロ成形の豊の底部
190	259		RAO7·配土上位、配土下位				ロクロナデ			ロクロナデ	ロクロナデ	×		5.0			内外面とも単純が著しい、底 付近にカーボンの付着物有り
191	254 269	42	RA07·贴床俱聚土(阿卤NO.1) RA07·P2框土	上於盟·豐 須恵器·坏	5YR7/810 5Y8/25(1	3コナア ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	— 阿佐泰切り領	ヨコナデ ロクロナデ	ハケメ ロクロナデ	ロクロナデ	-	(18.0) (14.0)	(5.8)		灰白	協員み重が明瞭に残る 口録部から底部にかけて底部
1.00	0.00	+	DA07、カマン海県空町上	領点器・参	7.5YR6/1程狀	ロクロナデ	ロクロナア		ロクロナデ	ロクロナテ	_	┝┯┥	(20.7)		10.01		は1/2、日経部は1/6現件
			RA07・カマド煙出部包土 RA08・床面前両型際	親忠宏・女	2.5YR8/2KM	ロクロナデ		一一一	ロクロナア	ロクロナア	ロクロナデ	-	(20.7) 14.4	5.1		构灰 灰白	口線部破片
			RAO8·床面#	土師器·环	10YR7/4段い資格		ロクロナテ		-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	6	- 14.4	(5.5)		金銭号を含む	114812010271
			RA08 · 床面pit?	上於器·高台圻	5YR7/3/21-12	 	ロクロナデ	-			ロクロナデ	×		(8.0)			民邸破片
200	276	42	RA08·「盛土下」(較出両?)	上節器·坏	5YR6/4紀1-桁	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナテ	×	12.5	5.0	3.9	砂粒含む(1mm)	はの土間に比べて胎上が良質 「樹点4付近」と接合、所謂「あかや」土器。本題は出土の中では 質質は認か小型化人器高が低い。
			RA08·北西部挺上上位	土録器·环	10YR7/3焼い貨機			阿転糸切り根		ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	14.8	6.0		金雲母を含む	
			RAO8·南西部租土上位	土師器・坏	7.5YR7/4與い极	ロクロナデ	ロクロナデ	菊花状		ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(13.8)	_			内外面とも摩波している 高台部欠損、内外面とも摩越し ており、特に内面が顕著である
	277		RAO8·蔣東隔積基部分	土鉄器・坏	7.5YR8/4混风极	ロクロナデ	ロクロナデ	同転糸切り根	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナア	×	(14.3)	(5.2)			内外面とも摩弦が着しい
204	278	42	RAII·北西部位土中-下位	上於器・費	2.5YR6/6 10	ヨコナア	ヘラケズリ		ヨコナア	ヘラナデ				-	[8.9]		口録部が短く外反する小型費 の口録部~体部破片

					l		外面調整		内前四套			3	†翻倒∶en	n	9/.1		
招級 番号			出土地点・層位	28 核	色調	口輪・斑部	体部	R B	口韓部	体 部	底 35	思色 処理	印锉	践往	器高	胎上 (含有物、色調等)	66 考
205	286	42	RAO8·pit(7)、筑上四直上	瀬忠智・坏	10YR7/2戶い資稅	ロクロナテ	ロクロナデ	同転糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		(15.2)	5.8	4.6	数に数据	庭部に張書「十」?
206		42	RA08・プロック①、焼 t 唇直上	類息器·坏	10YR7/2鈍い質様	ロクロナデ	ロクロナテ	回転糸切り顔	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	-	(14.8)	5.8	4.9	記い改和	
207	295	42	RAO8·納東西海面	須恵器・登	10YR3/13XH4	ロクロナデ	-	-	ロクロナデ	_	-				[5.2]	部的	口縁部から頭部にかけて残け。 長頭壺か?
			tion to send the		7.505 (14)						<u> </u>				[3.9]	III	门种部数片
208	293	42	RAO8·北西阿床西 RAO8·站床構築土	対心器・巻	7.5Y5/I炭 5Y5/I炭	ロクロナデ		-	ロクロナデ		- -		-	- -		战	口种都破片
210		42	RA08·州東郡福士上位	親色器・姿	10YK1.7/19J	ロクロナテ	 		ロクロナデ					_	[5.2]	R	口緑部破片
			RA08・プロック①、pp83、程士中~ド	NGB - 4	583/1明育妖	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り旗	ロクロナア	ロクロナデ	ロクロナテ	-	(11.5)	(7.4)	[13.3]	明青灰	RA05・設土と扱合、図画上 で復元実践
212	288	43	RAO8・プロック①	知句器・章	10YR1.7/193	ロクロナテ	ロクロナデ、 ヘラケズリ、 ヘラナデ	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナア	-	(15.7)	(9.6)		93.	RA05プロック②①と扱行
213	304	43	RA08・プロック①	知の記・世	7.5Y2/12N	ロクロナデ	タタキメ	-	ロクロナデ	当て貝奴		1	(41.0)	_	[31.0]		「-1H2Ivグリッド・表土ド 川 褐色上」と接合
214	303		RAO8・プロック①	ncs · E	7.5YR3/1黑樹	-	タタキメ	-	-	当て以収	-	-	(45.6)	-		SKIN	RA06床面;pp107程 1;pp 112程土と接合
215	301	43	RAO8・プロック①	須息器・鍵	7.5Y4/1狀		タタキメ			4र प्रक		=			[22.9]	疑	
216	305	43	RAO8・プロック①	須屯器・提	7.5YR3/1黑褐		クタキメ			当て以政					[23.0]		口騒怒魔片、ロクロナデで消
217	292	44	RAO8・プロック②	組む器・豊	7.576/1块	ロクロナデ	_	-	ロクロナデ	-	-	-	-	_	(6.5)	灰	えきらなかったタタキメがあ る。
218	290	44	RA08・プロック②	和思想·卷	2.5Y6/1角炭	ロクロナテ	-		ロクロナデ、 ナデ	_		-	-	-	[7.9]	如灰	口种多破片
219	302	44	RA08・プロック①②	対の器・器	583/1明育灰	_	9941	-	-	当て具顔	-	-	(44.4)		,	明君妖	RA05プロック②,カマド;RA 06①;RD09費上;RD16費上;・ IH18i-II屋と接合
220	299	44	RA08・プロック②	須忠器・理	N7/0灰白		タタキメ		_	当て以前		-	-			灰白	
			RA08・プロック②	型・協助派	7.5Y8/19X1	-	タタキメ	_	-	当て以前						送 自	
222		44	RA08・ブロック②	費・松心族	N3/0軒灰	-	タタキメ			"द्राध	<u> </u>	<u> </u>			[9.1]	間灰 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	両面黒色処理。内外面とも一
	273		RE01 · 西原際床面直上	上的器・高台环	10YR2/19A	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラナデ、 労花状	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(15.8)	7.8	7.0	金型内を少量させ	部利落している
			REO2・程士	1:05部・麦	7.5YR7/4段い程		ロクロナデ		-	ヘラミガキ		0			[5.7] [2.5]	TENTAGE	内黒がとんでいる。胎上は比
226			RE03・程士	上降器・环	7.5YR6/3無い料	_	ロクロナデ	同転糸切り痕	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Δ		5.2		金型用を含む	較的良質 底部破片、高台部欠損
			RB05 · pp6 反 土中~下位	上時器·商台环	7.5YR7/4與い位		ロクロナア	旬花状		ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(19.5)		[2.2]	砂松介む(2mm)	口经第一体层设片。口经是は
228	ļ		RBOS·pp7配上中~下位	比較器・異	2.5YR5/6可赤和	ヨコナテ	ハケメ、ヘラナデ	-	ヨコナデ	ヘラナデ			(22.0)		[4.1]	砂粒合在(2mm)	短く外反している 口縁部破片、口縁部は短く外
			RB05·pp7数上中~下位	比的数:麦	7.5YR7/3紀い板 5YR6/6板	ヨコナテ	ヘラナデ		ヨコナテ	ハケメ			(22.0)	<u> </u>	124.31		反している 日練部・底部欠損、体部約
230	308		RB05・pp7配土中~下位	比的影·曼		ヨコナデ	ヘラケズリ		3277			_	<u> </u>		[9.5]	₩	1/2线存
231	314	45	pp551(RB06 · pp1) 配生 RD09 · 由半部配土	(現・器・数	10Y5/1灰 2.5YR2/3極時赤褐		タタキメ			当て以前	 		=	 	17 9	砂粒合む(2mm)	
233			KD10·H卡数数十:	上時間・高台坪	5Y2/1県	=	ヘラミガキ	粉花状、		- 192	ヘラミガキ	ō	-	(8.0)	[2.6]	金型母を含む	底部一高台部破片、高台部は
	319		RDII·北半部限上上位	L的器·高台坏	7.5YR6/3解(利	_	ロクロナデ、	サデ	-		ヘラミガキ	0		6.8	[1.9]	金型母を含む	1/2現存 民部~長台部破片
						l	ヘラナデ	ナデ		<u> </u>	<u> </u>	$oldsymbol{ol}oldsymbol{ol}oldsymbol{ol}}}}}}}}}}}}}}}}}}$			 	A 40 614 4 4	I SANY LOS
			RD31·程士	比較恕・獎	5YR5/6列赤和			FF FF		ハケメ	ハケメ	-	(17.5)	(9.0)		金製用を含む	砂底土器 内黒処理がとんでいる。
	330		RD33·東半部校上	上的器·环	7.5YR7/6 102	ロクロナデ	ロクロナデ、 ナテ	同転糸切り真	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		(17.5)	(8.0)		金雲剛を含む	民面は切り難しの根跡が消さ
238	329	45	RD33 · 「周朝表上無褐色土」?	上的器・水	5YR7/4與い概	ロクロナデ	ロクロナデ	四四章?	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	15.1	6.3	5.1	K	れているものの意識が著しく、 どのような再調数が行われた
239	328	45	RD33·「南個表土黒褐色土」?	須忠器・提	5Y6/11/k	ロクロナデ	ロクロナデ、	-	ロクロナデ	ロクロナデ、 当て貝頭	_	_	(18.0)	_	[35.7]		かは不明
245	331	46	RD37·姚贞	上障器·坏	2.5GY2/13A	ヘラミガキ	ヘラミガキ	手持ちヘラケ ズリ再調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	(12.0)	6.0	4.0	砂粒合む(1mm)	州西 烈色处理
			RD37 · 峰面	t:05型·坏	5YR6/8R1	ロクロナデ		回転糸切り旗		ロクロナデ	ロクロナデ	×	(14.2)	(6.0)	4.9	砂粒合む(2mm)	门静部破片、门静部は短く外反
247			RD37·底面	f.鲜型·曼	7.5YR8/4没负权	ロクロナデ	ロクロナデ	_	ロクロナデ	ロクロナデ	-	<u> </u>	(15.6)	<u> </u>	[5.9]	5687 4 t - (1)	日韓都破片、日韓郡は短く外及
			RD37·底面	t.舒忍·斐	7.5YR7/4鈴い根	ロクロナデ	ロクロナデ		ロクロナデ	ロクロナデ	<u> </u>	<u> -</u>	(17.0)	 	[5.7]	砂粒合む(1mm) 砂粒合む(2mm)	口经总数片, 口经总は到く外及
			RD37·底面	1:6523・夏	5YR4/8赤和	ヨコナデ	ハケメ	ļ -	ヨコナデ	ハケメ	-	┝═	 	 - -	[7.3]	9670(2mm)	1-1 00 10/80/1 \ 1-1 00 10/80/90 \ 1/7/10.
	339		RZ01・前東部観土 RZ03・電土(上層ペルト内)	須恵器・夏 上師器・坏	7.5YR2/1州 5YR7/4段い税	- -	タタキメ		-	4て貝奴 ヘラミガキ	 - -	<u>-</u>	 -	(7.8)	[1.4]		庭部破片。内外面とも厚減が
231	340	40	INDOO . DETITIBLE AN I. M.I.	1.640) - 17	31677 4961 10	<u> </u>	22277		<u> </u>		_	<u> </u>	<u> </u>				着しい

							外面調整		内面調整]	計翻值:ci	m	T		
	登録 番号		出土地点・層位	器料	(e 24	日経・類部	体部	底部	日韓部	体部	de 188	黑色 処理	口径	政任	22.63	胎士 (含有物、色調等)	億 考
252	342	46	RZ04・南西國覆土?	須思恩·養	N3/0翰氏	-	タタキメ	-	- "	ナデ	-	-		-	8.2	耐灰	
268	400	47	RG12·煌上	領点器・森	N2/0:11	-	タタキメ	-		ナデ	-	-	_	-	[11.6]	JA,	月部破片、内面の当て具旗が ナデによって消されている
269	345	47	pp17·梃士	須忠器·坏	5Y6/2灰オリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ	_	ロクロナデ	ロクロナデ		_	- "		[3.4]	 	门轮级铁
			ppl7·程士	上算器・坏	10YR5/6貨料	-	ヘラケズリ、 ヘラナデ	手持ちヘラケ ズリ再割数	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	-	(6.0)	[2.4]	金雲母を少し合む	底部破片。
271	347	47	RB02	須思器·費	5Y5/1灰	_	タタキメ		-	当て具旗		-		-	(10.7)	妖	
272	350	47	RB04	領色器・異	10G3/1增益灰		タタキメ			当て具旗	<u> </u>	<u> </u>	-		[4.3]		
273	351	47	RB04	領息器・壺	7.5Y2/1以	ロクロナデ	-		ロクロナデ		_		(14.6)	-	[4.0]	23	長頭壺の口縁部設片
274	1		RB04	須息器 · 截	10Y2/198	-	ロクロナデ、 ヘラケズリ	_	-	カキメ、	-		_	-	[18.7]	я.	
275	356	47	RB02	上OSS: 基	7.5YR7/6橙	ロクロナデ	ヘラケズリ		ロクロナデ	ロクロナア			4.8	i	[5.6]	砂粒含む(2mm)	£3.5·?
			RB02	上的器·商台环	10YR7/4鈴い黄橙		ロクロナデ	菊花状、ナデ	-	-	-	Δ?	_	8.6	[2.9]		内外面とも摩瓿が昇しい
277	***		-1H19pグリッド	上時器·高台环	5YR8/4续校	-	ロクロナデ	ナデ	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	0	-	-	[2.3]	金虫母を少量さむ	战邸破片、高台部欠相、「舱 点4付近·表土下」と接合
			-1H19pグリッド	上鮮器·豐	5YR5/4鈍い赤褐			木祭鎮、砂底		_	ヘラナデ		_		[2.8]	砂粒含む(3mm大)	底部:木菜魚、砂缸
279			-1H21vグリッド	須思器·臺	2.5Y6/1贷択	-	ロクロナデ		-	ロクロナデ		_	-	_	[8.1]		RA05カマド3校出面か?
			額点4付近・「表上下」	上的四、环	7.5YR7/4臭い役	-		国転糸切り点	•	-	ロクロナデ	×	-	5.2	[1.3]	金数母を含む	摩伽が著しく残存状況は不良。 RAO5かRA11に傾倒か?
	378		橋点4付近・「麦土下」	北鎮器·貫台环	10YR1.7/15	_	ヘラミガキ	菊花状	ı		ヘラミガキ	0	-	_	[2.3]		RA05かRAIIに提出か?
			物点4付近・「表上下」	上的空・鬼	7.5YR5/3與中間	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ	_	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	-	[5.9]	砂粒合む(2mm)	ロクロ成形上鋭器表、11種部 銀片RA05かRA11に傾属か?
283			副会区東側・「表土下 褐色土」	土節器·高台环	7.5YR8/4浅黄橙	-	ロクロナデ	ナデ	•	ロクロナデ	ロクロナデ	×	_	-	[2.3]	砂粒含む(2mm小)	高台部の造りが本道助出上遺 物の中では異質である。
	390	48	表上下袖4付近	須恵器・坏	2.5YR8/3淡贫	-		国転糸切り顔	-	ロクロナデ	ロクロナデ		_	6.0	[2.2]	换货	
285			加点4付近・「表土下」	須息器·截	10YR5/1灰		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	_	-	8.3		灰	RA05かRA11に短回か?
286	361		試信トレンチT-5・黒褐色上(川崎?)	海色型·桑	5Y5/1灰		ロクロナデ	菊花状			ロクロナデ	_	_	(12.0)		灰	
287			地点不明·《表上下思构色上》	于政器・章	7.5YR7/4鈍い位	ロクロナデ	ロクロナデ	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	_]	-	-	[4.9]		ロクロ成形土質器費、口軽部 破片
288	372	48	地点不明・排土	須息器・表	7.5Y4/1妖	ロクロナデ			ロクロナデ		_	_	-	_	[7.3]	灰	口粹學破片

<陶磁器>

						計翻例: en	1		
	登録 番号			器板	口径	政 往	24 A	胎上	備号
257	401	46_	RZ04・埋土 (鏡の下)	₩ [[III]	6.4	2.9	1.3	n	

<石器類>

[登録 25頁					計捌值:cm	1			
4	登録 番号		1 111 1-10: 25 . 1447.5	23 10	民き	¢as	灰き	俄禄∶g	石材 (産地)	伯 考
35	1001	29	RAOI · No b-3	MG	12.5	6.5	5.3	392.8	砂岩 (北上山地)	
194	1003	42	RAO7·珠面	EL(i	4.6	2.8	1.5	25.19	数灰岩 (奥羽山島)	者しく教育で取り。
289	1007	48_	- IHm18グリッド1b間	Mai	2.4	3.0	0.7	4.78	真智 (北上山地)	
290	1006	48	稻4付近表土下	增有?	2.0	1.8	0.9	4.98	質器 (北上山地)	自然6?

<金属器>

抱裁	亞級	非爾			ā	捌飢:cm			
番号	番号	MIK	出土地点・層位	23 44	FF 5	44	厚き	Mak:g	缩 考
36	1104	29	RA01・左カマド付近盟土下位	不可	3.4	2.6	1.0	1.0	
37	1103	29	RA01·程上北東部中位	不明	7.0	1.4	0.8	0.8	
	1102		RA01·健選部商半製土	鉄坦	10.2	3.6	0.9	0.9	
39	1101	29	RA01·里摩覆土(図面C-1)	鉄磁	14.5	3.8	6.8	6.8	
74	1105		RAO3·W上上位	_ 紡錘車	5.2	5.2	1.3	1.3	
75	1106	32	RA03·珠街直上	不引	13.6	2.0	0.9	0.9	
141	1122		RA05·北西宝原境土層	n r	14.4	2.0	0.7	0.7	
142	1108		RAO5·日上F位	<i>ክተ</i> ?	14.8	1.8	0.8	0.8	
	1110		RA05·和上中位(焼土上面:M2)	新?	9.8	2.2	0.7	0.7	
144	1109	38	RA05·夏土中位(焼土上面:M1)	<i>1</i>) (18.9	2.5	0.4	0.4	
145	1111		RA05·Q上中位(烧上上面:M3)	釘?	7.4	2.5	0.6	0.6	
146	1112		RA05·製土中位(焼土上面:M4)	91?	2.7	3.8	0.9	0.9	
147	1121	38	RA05·双上下位	817	4.0	0.9	0.4	0.4	
	1107		RA05・配土上位(To-aより上)	价组?	4.9	2.4	0.6	0.6	
	1113		RA06·床卣	现状鉄製品	2.9	3.2	0.9	0.9	
	1114		RA06·股土上位	不明	3.2	1.8	1.4	1.4	
195	1115	42	RA07・焼土屋(一部贴床層含む)	不明	4.5	3.2	0.7	0.7	
	1116		RA07·検出点	#7 ?	5.2	2.4	1.1	1.1	
	1117		RAII·似土上位	不明	4.1	7.7	0.9	0.9	
	1118		RZ04·優土下位	界状鉄製品	4.7	1.1	0.6	0.6	
	1120		RZ04·概止下位	不明	3.7	1.4	0.5	0.5	
260	1119	47	RZ05·极 t.	不明	5.7	1.3	0.6	0.6	

掲載 番号	登録 番号	ジ 真 図版	出土地点・層位	器桶	即代	22 14	ИÆст	维考
240	1142	45	RZ06	寬水過買	illi	寛永13 (1636)	2.4	占資水
241	1123	45	RZ06	双水迎買	11.11	寬水13 (1636)	2.5	占寬水
242	1124	45	RZ06	資水通費	EL) f	算水13 (1636)	2.4	古寛水
243	1125	45	RZ06	夏水迎寶	iL) i	寬水13 (1636)	2.3	古箕水
244	1126	47	RZ06	買水過資	iL) (寬水13 (1636)	2.4	古寛水
261	1127	47	RZ05·程上	-	-	-		262년체 - ?
262	1128	47	RZ05 · M-8	夏水過頁	iL/'	寬水13 (1636)	2.5	新寬水 (文銭)
263	1129	47	R205 · M - 9	異水通質	iLI	寬水13 (1636)		新寬水
264	1130	47	RZ05 · M = 10	資水通貨	_i[]'	算水13 (1636)	2.4	新寬水 (文銭)
265	1131	47	RZ05 · M-11	夏水迎賀	il.i '	覚水13 (1636)	2.3	古真水
266	1132	47	RZ05 · M – 12	買水迎買	ilf	寬水13 (1636)	2.4	古寬水
267	1133	47	RZ05 · M = 12	党水迎官	il.) '	寬水13 (1636)	2.3	新寬水

据数	亞録	72.00				計刻節:cm	1	
	番号			23 (4)	现存足	外径	内径	倚 考
40	1134	29	RAOI·理士	刈口	4.3	 	1.3	
179	1136	41	RAO6·P5程上	- 湖口	3.8	4.0	1.9	
232	1137	45	RD08·增土	***11	4.7	5.5	1.6	

組織	数 设建 写真					計刻化	l:em	-	
商号				24 (4)	ali i i i	韓政	室に	柄傷	伯 号
258	1139	47	RZ04·埋土下位	析說	11.2	0.3	8.1	2.1	「蘇原光長」路。

<その他>

107

据获	亞姆 .	12.11				計製值:cm	1	
	番号		出土地点・層位	器板	ЦS	福	採さ	備考
255	1140	46	RZ04・程士 (段の下)	木田	4.0	(1.8)	0.4	β数13本、銷数/cm7.22本
256	1140	46	RZ04・理上 (位の下)	不明	[3.6]	[1.0]	1.1	

<炭化材>

抱截 番号	登録 番号	出土地点・層位	器 桶	外和	個考
\Box		RA05・カマド2付近、焼土屋	桂材	クリ	
2		RAO5·東陷付近、焼土層	板材	クリ	
3		RAO5·東国床面、床面直上烧土粉	柱材	クリ	
4		RAO5·周京郡、晚上阁	极材?	クリ	
5		RA05·海關付近、燒土層	柱材	クリ	
6		RAO5·高陽付近、燒土層	柱材(綱)	クリ	
7		RAO5·前隔付近、境土超	柱材(細)	21	
8		RAO5·尚周付近、境土局	仮材	21	
9		RAO5·南屬付近、燒土層	板材	クリ	<u> </u>
10		RAO5·前西皇際、境土局	板材	クリ	
Ĭ1		RAO5·南西银原、焼土腐	板材	クリ	
12		RAO5·周倡床面、床面直上燒土層	柱材?	クリ	
13		RAO5·中央経南側床面、焼上層	极材	21	
14		RAO5·中央邱南侧床面、焼土屋	板材?	クリ	
15		RA05·北西望摩、焼土層	柱材(環)	クリ	
16		RAOS·北西京際、统上屋	柱材(角材)	クリ	
17		RA05·北西電際、燒土樹	仮材	クリ	
18		RA05·北西曼摩、燒土層	屋根村?	カヤ	
19		RAOS·北西京際、境上居	反极材?	カヤ	
20		RA05·中央部北西回床面、袋上屋	柱材	クリ	
21		RAO5·中央部北西侧床面、燒土局	性材	クリ	
22		RAO5·中央部北西侧床面、旋土树	柱材	クリ	
23		RAO5·北西県際、焼土屋	性材	クリ	
24		RAO5·北東閩際、焼土刷	板材	クリ	
25		RAO5·北東駅際、焼土屋	板材	クリ	
26		RAO5·北東県際、焼土層	柱材	クリ	
27		RAO5·中央部北朝床面、晚土屋	柱材	クリ	
28		RAO5·中央部東側床面、焼土層	柱材	クリ	
29		RAO5·中央部南侧床面、烧土厨	柱材?	クリ	
30	39	RAO5·北西県際、覆土中位(集土地)	超級?指钩?	カヤ?	
31	39	10 l.di	観代?協物?	カヤ?	

Vまとめ

1. 遺構

ここでは竪穴住居跡・掘立柱建物跡・円形周溝に関してその特徴点に触れてまとめとする。

竪穴住居跡は8棟(RA01~08)検出された。RA02を除く7棟が調査区東半部分に密集している。平面形は方形基調5棟(RA02・03・05~07)、長方形基調1棟(RA01)に、規模は大形:RA05・06、中形:01・03・07、小形:RA02の3類型に分類可能である。主軸方向(カマドの向き)は①東:RA01 [造り替え2時期]・02、②北東:RA05 [新]、③北西:RA03・06、④南東:RA07・RA05 [古]である。埋土は概ねII層系の黒褐色土を主体とする自然堆積で、RA03・05では十和田 a 降下火山灰と思われる下位自色パミス小ブロックが埋土上位に少量混入している。柱穴配列は全般に不明確である。カマドは6棟で検出され、うち2棟(RA01・05)では複数のカマドが検出された。煙道の構造は地下式・半地下式ともに見られる。なお、RA05・07・08の3棟は焼失の痕跡が認められる。各住居の焼土・炭化物の残存状況から見ると、概ね北東側において強く燃焼した様相が窺われる。これら3棟は隣接する住居跡であり、かつ3棟ともに同様な焼失状況を示していることから考えると、一度の火災による延焼で同時に焼け落ちたものではないかと推測される。形態および伴出遺物から考えると、平安時代9世紀後半代に属するものと考えられる。

掘立柱建物跡は4棟(RB02~05)検出された。うち、3棟(RB02~04)は隣接し並列するように配置されている。4棟ともに柱9本を「田」字状に配した2間×2間の総柱建物で、規模もほぼ同じである。柱穴からの出土遺物が少なく時期判断の材料が乏しいが、①従来の検出事例で古代と考えられているものに形態的に類似すること、②検出された竪穴住居跡との重複がないこと、等から推察して住居跡と同時期に存在していたものと思われる。かかる建物は殺倉的な用途が想定されており、本建物も9世紀後半期の集落に伴う貯蔵施設であった可能性が高いと考えられる。本遺跡の周辺地区では小幅遺跡、本宮熊堂B遺跡、細谷地遺跡等で同様の建物跡が確認されているが、本遺跡の如く複数棟が並列して配置される類例は今のところなく、本遺跡検出の掘立柱建物群は当地区の該期集落を考える上で有益な資料と思われる。

円形周濟は2条(R Z 01・02)検出された。本遺跡の周辺地区では、台太郎遺跡、小幅遺跡、飯岡沢田遺跡 (※註1)、湯沢B遺跡等で検出事例がある。とりわけ東北縦貫自動車道関連で調査された湯沢B遺跡では、円形・方形を含めた周溝状遺構が密集して検出されている。これらの周溝状遺構は主体部が削平により消失した墳墓だったと考えられている。今次調査で検出した2基については伴出遺物が事少であり明確な時期判断が困難であるが、かかる類例に照らして概ね平安時代のものと考えられる。

2. 遺物

今次調査で出土した遺物の主体はロクロ使用成形された土師器・須恵器であるが、一般的な該期集落の様相に比して須恵器の出土量が多い。土師器は、坏・高台付坏・塑・鉢(堝)が出土している。これらは、器形の特徴から、概ね9世紀後半代に属すると思われる資料である。詳細は遺物観察表に譲り、ここでは「墨書・線刻」および「砂底」の資料について述べる。墨書・線刻がなされた坏・高台付坏は竪穴住居跡から5点出土している。RAO1:坏(11)の体部外面に墨書「大」。高台付坏(16)の体部外面に上下2段の線刻「八」?。RAO5:坏(87)の体部外面に墨書「本」。RAO6:坏(149)の底部外面に墨書「本」?。RAO8:坏(205)の底部外面に墨書「本」?。今次調査の資料では、可能性のあるものも含めると「本」が

3点を数える。ここでは便宜的に「本」としているが、実際には「大」の下に「十」を書き加えた形(※註 2) であり、RA01出土坏の「大」も本来は同字を意図したもの-つまり、墨書4点がいずれも同じ文字 「本」を意識したものだった可能性が高い。また、底部外面に粗砂を付着させた所謂「砂底」の塑が3点出 土している。いずれも底面が僅かに上げ底となり、その外縁部に粗砂をドーナツ状に付着させたものである。 RA05:120 (箆ナデ)、RD31:236 (ハケメ)、遺構外・-IH19P区:278 (木葉痕)、の底面外縁部 が砂底となっている。3点のうち比較的残存状態が良い120は、正而観でも砂が確認できるほどに底部外縁 末端が捲れ上がり、粗雑な印象を受ける。これは、ある程度まで生乾きとなった状態で無理やりに砂を付着 させた結果、底部が潰れたものではないかと推測される。今次調査出土の「砂底」資料は9世紀後半代の斯 波郡と津軽・出羽との影響関係を示唆する事例となろう。須恵器は、所謂「袋物」である壺・瓶・甕が出土 している。遺構内出土、とりわけ住居跡出土のものが多い。特に顕著に出土量が多いのはRA05・08の2 楔である。RA05では北隅付近、RA08では北西隅付近に偏した埋土下位~床面直上から、多数の須恵器 壺・瓶・甕の破片が一括出土している。ともに床面より上位の埋土から出土していることから、廃絶後の埋 没過程において一括廃棄されたものと考えられる。但し、RA05の例では、廃棄されている資料には表面が 爆せて欠失しているものも見られ、住居焼失後に焼け跡からサルベージした須恵器破片を再び廃棄した可能 性もある。かかる多量の須恵器の供給元が問題となるところではあるが、今回は自然科学的分析を実施して いないため産地不詳である(※註3)。出土した須恵器の編年的な位置付けについては、その器形の様相か ら概ね9世紀代の枠内に収まるものと考えられる。

3. 遺跡

調査の結果、本遺跡の今次調査区付近は縄文時代の狩場、平安時代の集落、近世の墓域であることが判明 した。調査面積は約1,500m²と狭小ではあるが、比較的多種の遺構が検出されている。

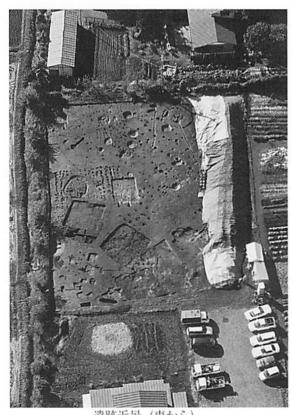
古代については、氾濫原の微高地南側縁辺部分に立地する9世紀代の集落の一部を調査した形であり、竪穴住居跡、堀立柱建物、土坑、円形周溝、溝跡、池状遺構を検出した。これらが即ちムラの構成ユニット [住宅、倉庫、穴倉?、墓、生活用水の溜池]をなしていると推測される。遺構配置状況からは、調査地域 南東側を中心とする住居域、西側に建物群・土坑域・墓域という構成が見て取れ、集落の中心部はさらに果に延びているものと推測される。南側の低地(旧河道)を挟んで対向する微高地上の細谷地遺跡、現道を挟んで東側に隣接する向中野館跡は、いずれも本遺跡よりも新しい10世紀代を主体とする集落である。本遺跡では該期の遺構は確認されていない。また、本遺跡北側には、試掘調査で多数の周溝状遺構の存在が想定される飯岡沢田遺跡が存在する。これらの遺跡と本遺跡との関連性については、今後の検討課題である。

- (註1) 飯岡沢田遺跡は本遺跡の北側に隣接する遺跡であるが、平成13年度調査で末期古墳・円形周溝・ 方形周溝楪が多数検出され、古墳〜平安時代の墓域であることが判明してきている。本遺跡検出の円形周溝 もそれらに繋がるものとすれば、本遺跡と飯岡沢田遺跡とが本来は一連の遺跡である可能性が高いと考え られる。
- (註2) 本来は「奉」の略字ではないかと思われる。
- (註3) 出土した須惠器片には胎土が赤味がかったものが多く見られ(遺物観察表を参照されたい)、当初は 五所川原窯の可能性もあるものと考えたが、器形の特徴から見て五所川原窯産のものは含まれていなかった。遺跡の所在する盛岡市および近隣の紫波町には須恵器窯の存在が想定される遺跡が複数あり、本遺跡出土の須恵器はそうした近隣の窯で生産された可能性があるものと考えられる。

写 真 図 版



遺構遠景 (西から)



遺跡近景 (東から)

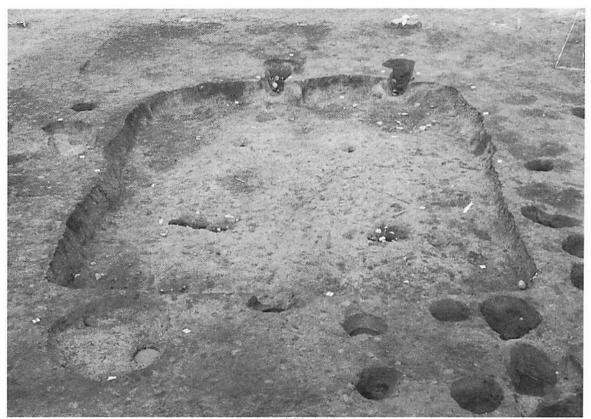


基本層序 (北西部)

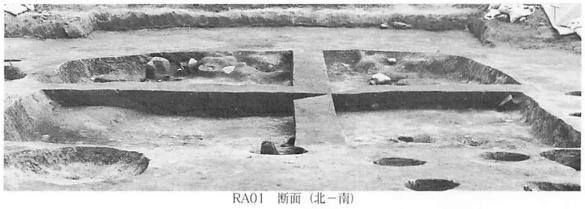


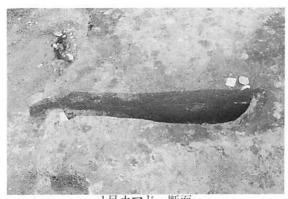
基本層序 (南東部)

写真図版 1 遺跡遠景·近景、基本層序



RA01 完掘 (西より)



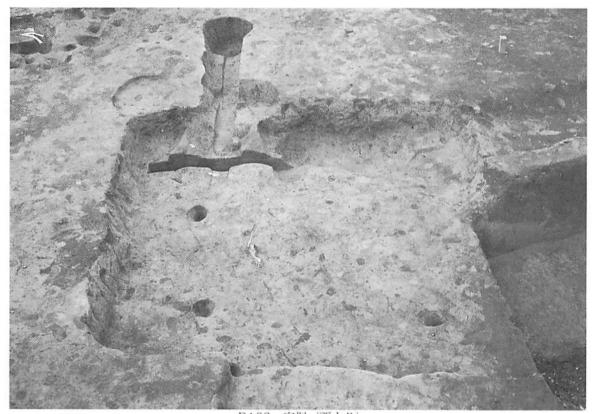


1号カマド 断面

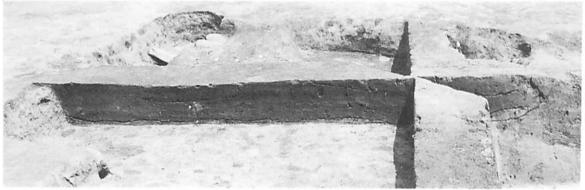


2号カマド 断面

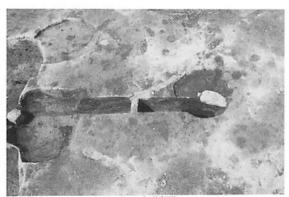
写真図版 2 RAO1



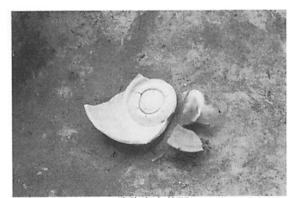
RA02 完掘 (西より)



RA02 完掘 (北-南)



カマド断面



遺物出土状況

写真図版 3 RAO2



RA03 完掘 (南東より)



RA03 断面 (北東-南西)





遺物出土状況

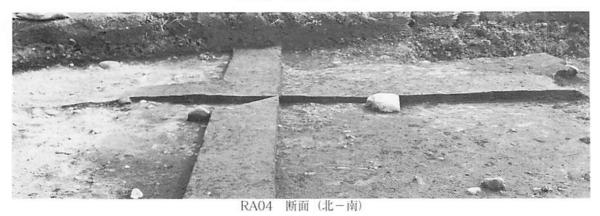
写真図版 4 RAO3



RA04 完掘 (東より)



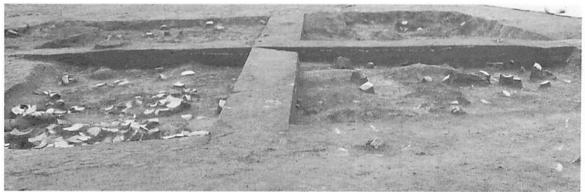
RA04 断面 (西-東)



写真図版 5 RAO4



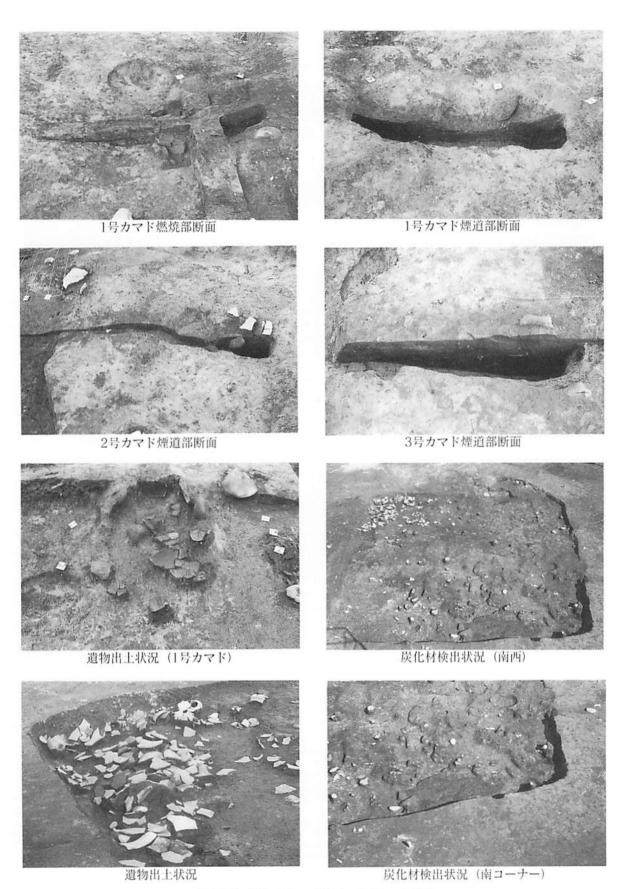
RA05 完掘 (南西より)



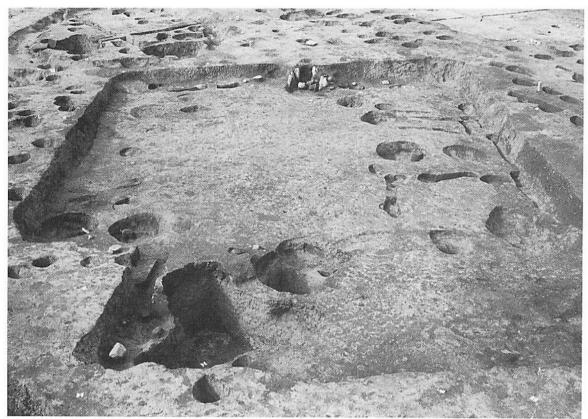
RA05 断面 (北東-南西)



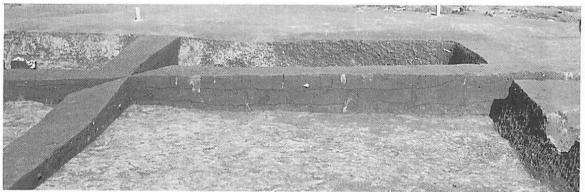
写真図版 6 RAO5 (1)



写真図版 7 RAO5 (2)



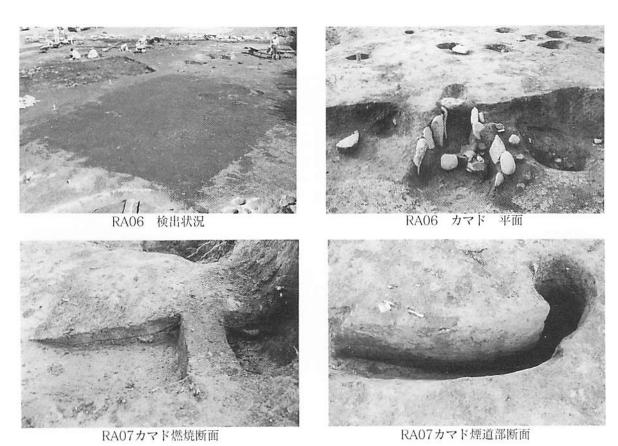
RA06 完掘 (東より)



RA06 断面 (西-東)



写真図版 8 RAO6





写真図版 9 RAO6 · O7



RA08 平面 (北東より)



RA08 断面 (西-東)

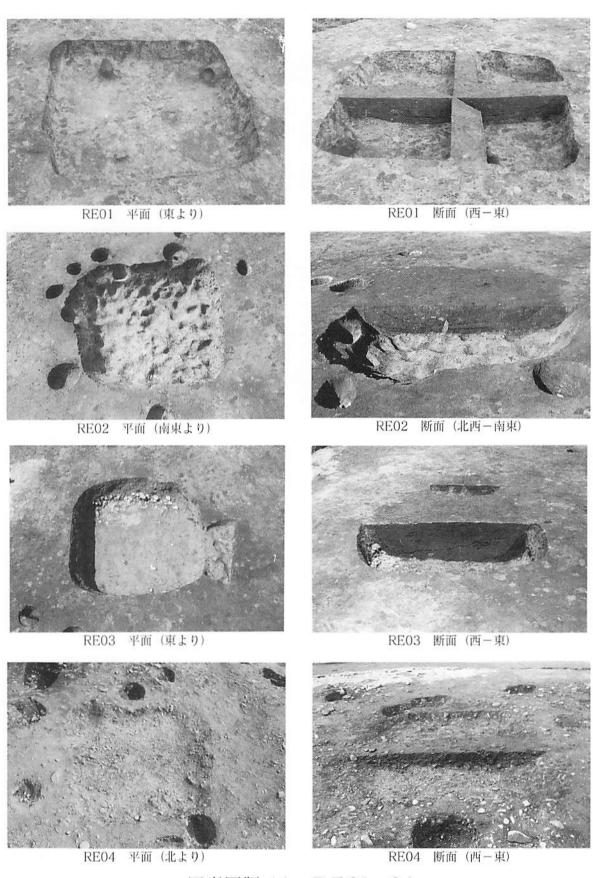


遺物出土状況



遺物出土状況

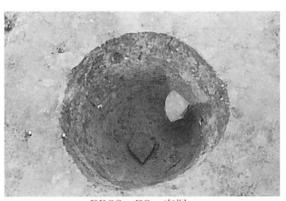
写真図版 10 RA08



写真図版 11 RE01~04



RB02・03・04 配置状況 (東から)



RB02·P9 完掘



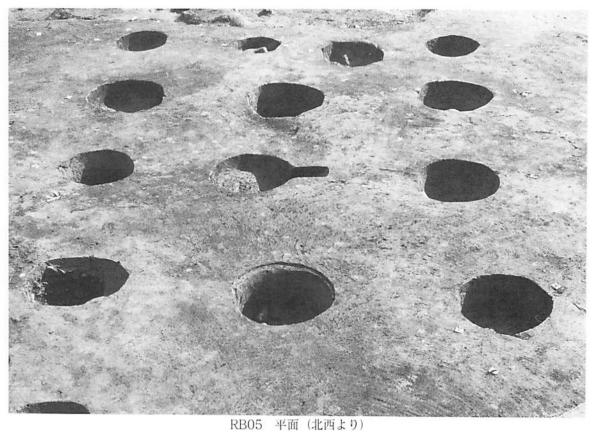


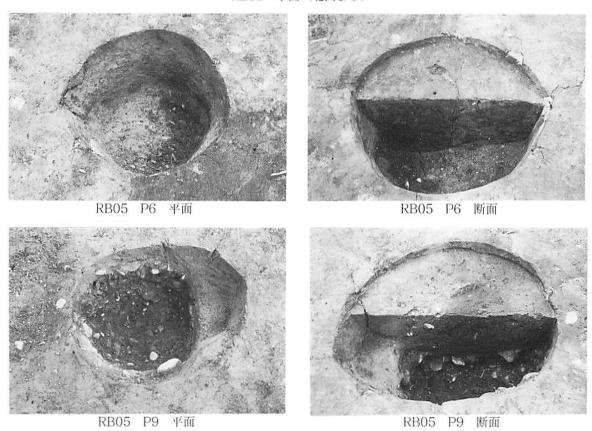
RB04·P2 完掘



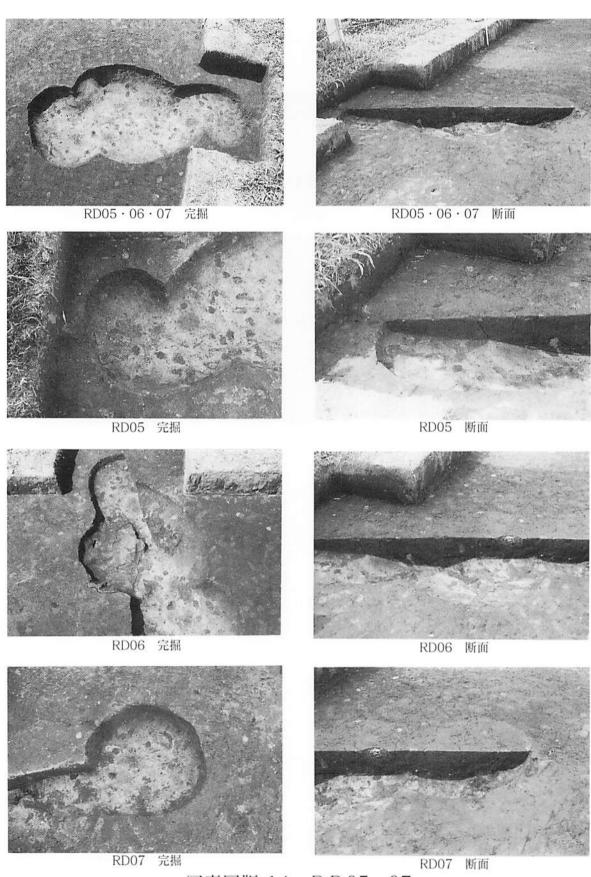
建物群 近景 (北東から)

写真図版 12 RB02~04

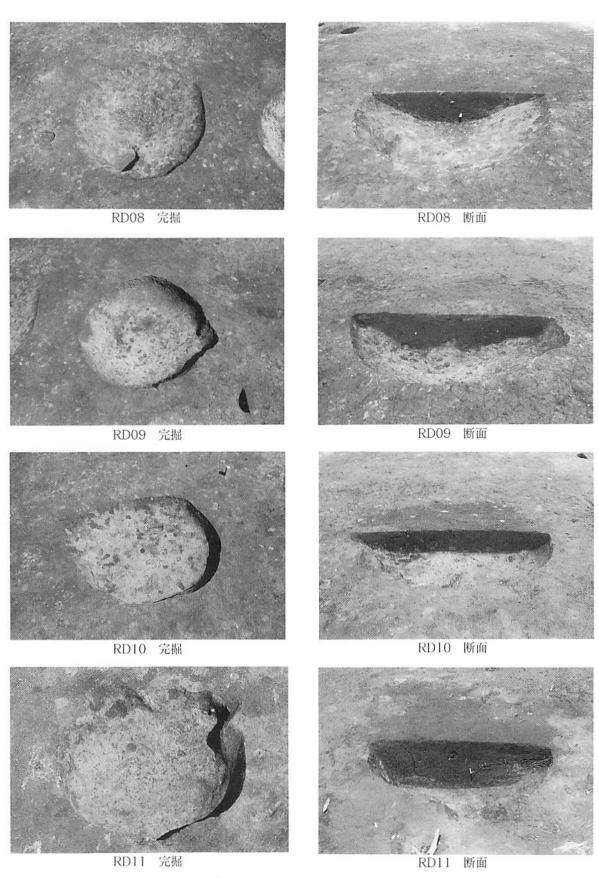




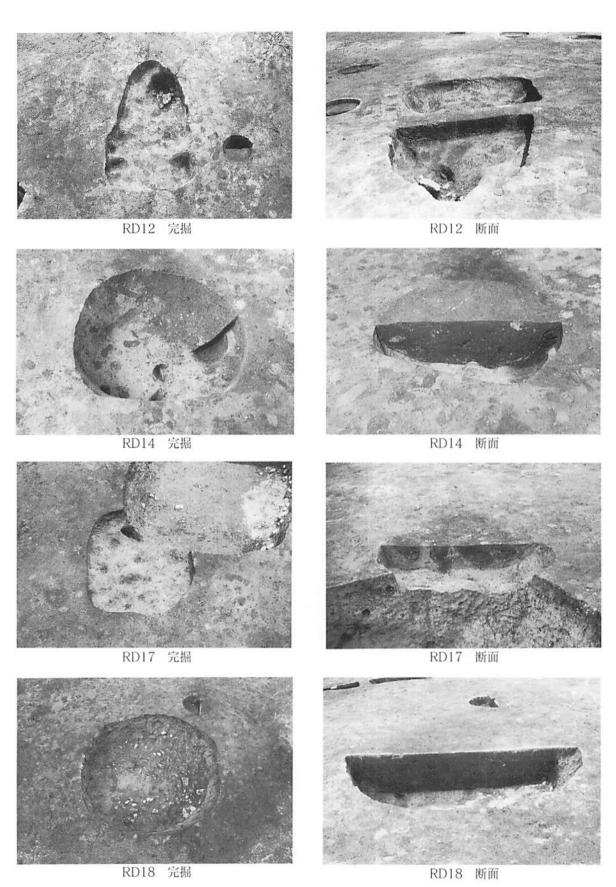
写真図版 13 RB05



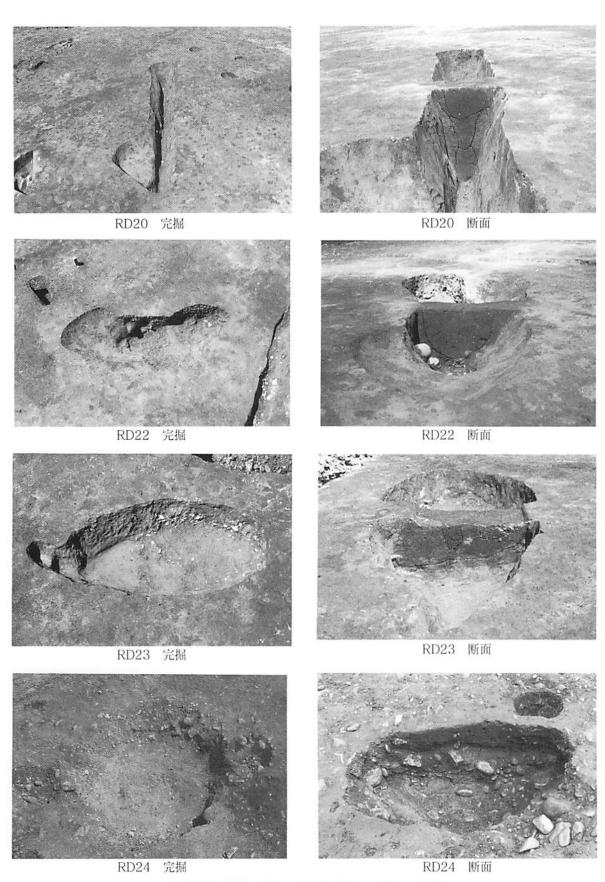
写真図版 14 R D 05~07



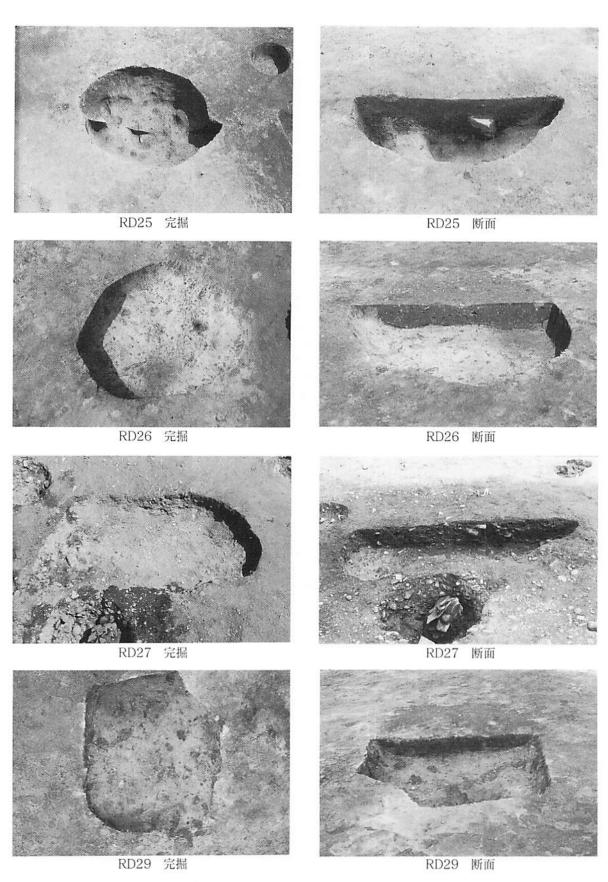
写真図版 15 R D 08~11



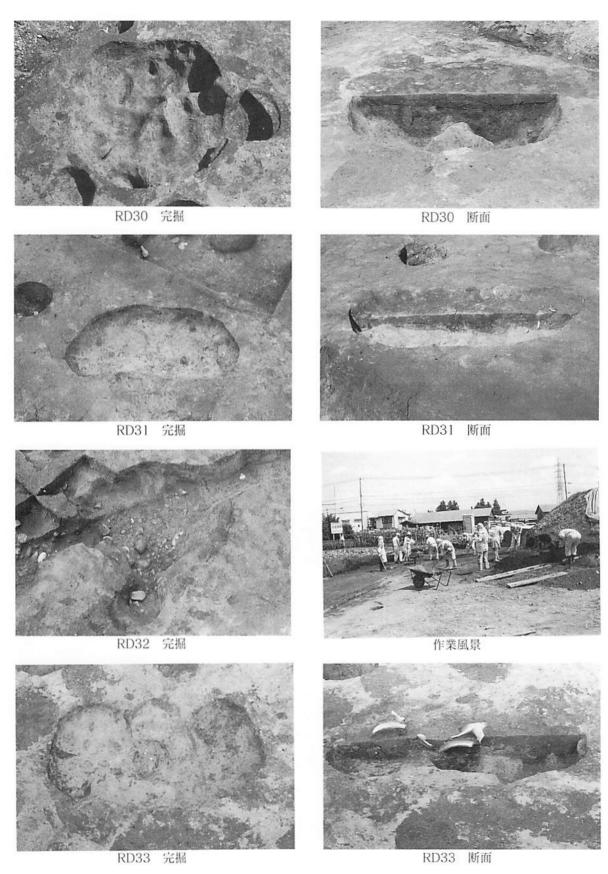
写真図版 16 RD12 · 14 · 17 · 18



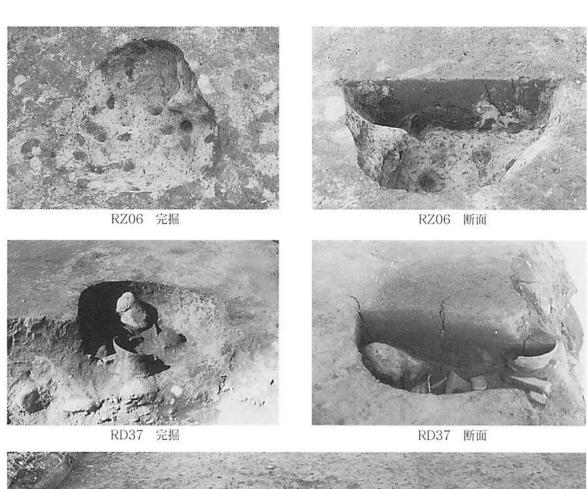
写真図版 17 RD20·22~24

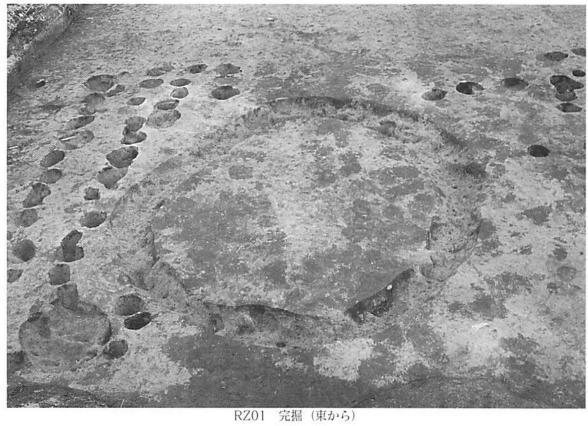


写真図版 18 RD25~27·29

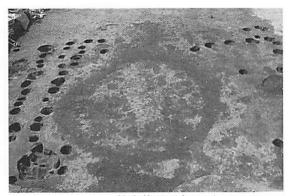


写真図版 19 RD30~33





写真図版 20 R Z 06、R D 37、R Z 01



RZ01 検出状況 (東から)



RZ01 断面 (E-F)



RZ02 完掘 (東から)

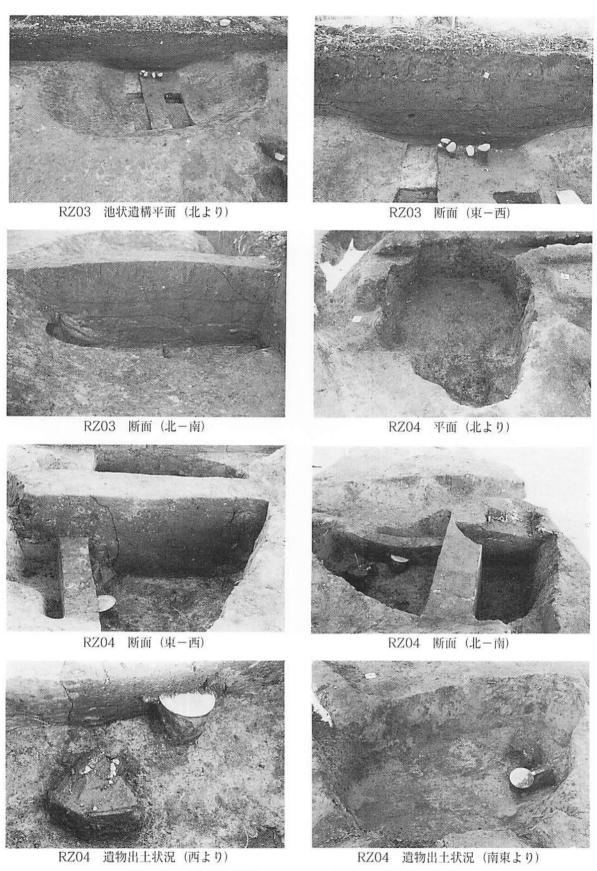


RZ02 断面 (A-B)

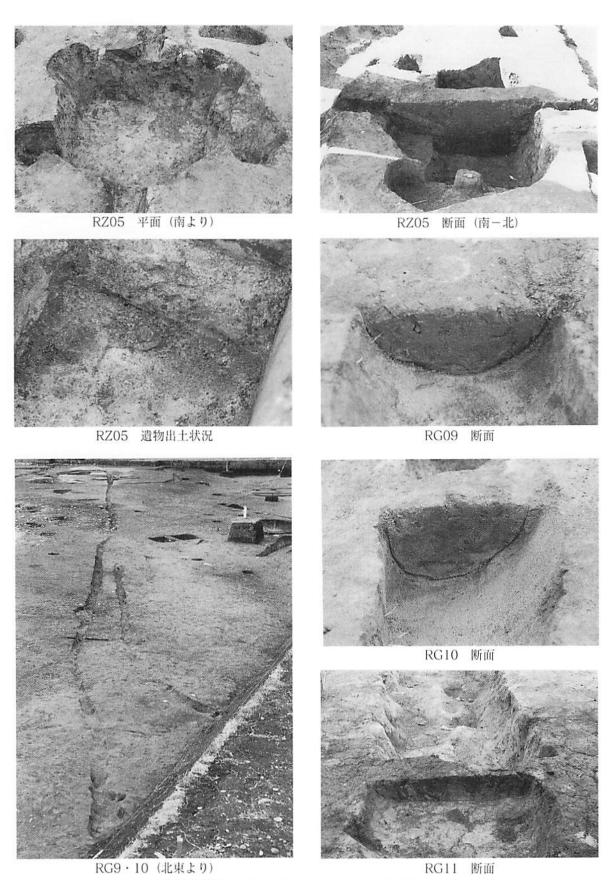


RZ02 完掘 (C-D)

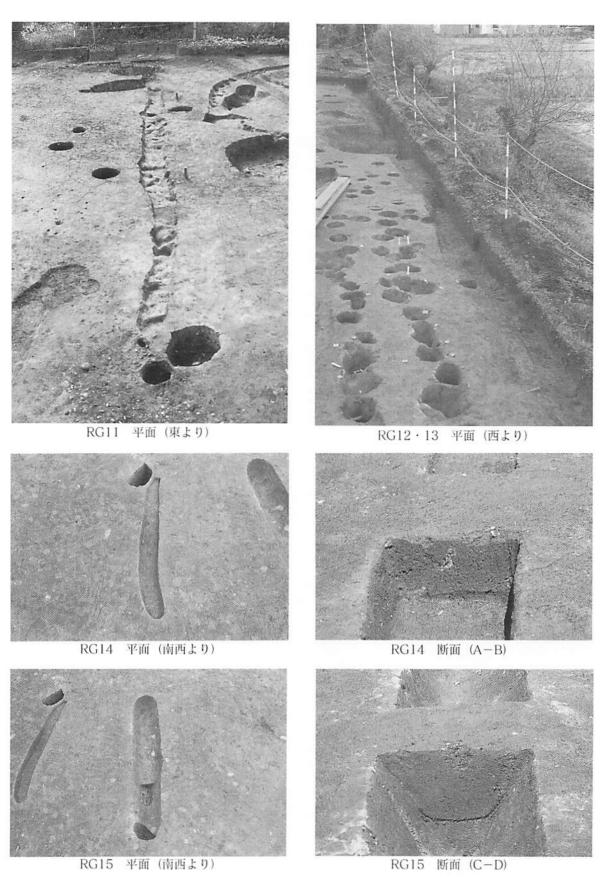
写真図版 21 RZ01 · 02



写真図版 22 R Z 03 · 04



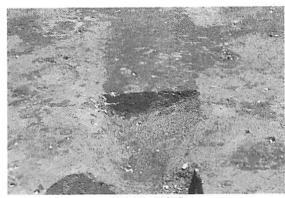
写真図版 23 R Z 05 · R G 09~11



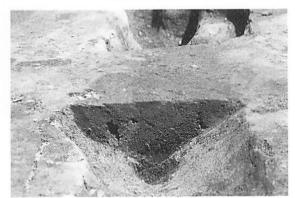
写真図版 24 RG11~15



RG16・17 完掘 (南西より)



RG16 断面



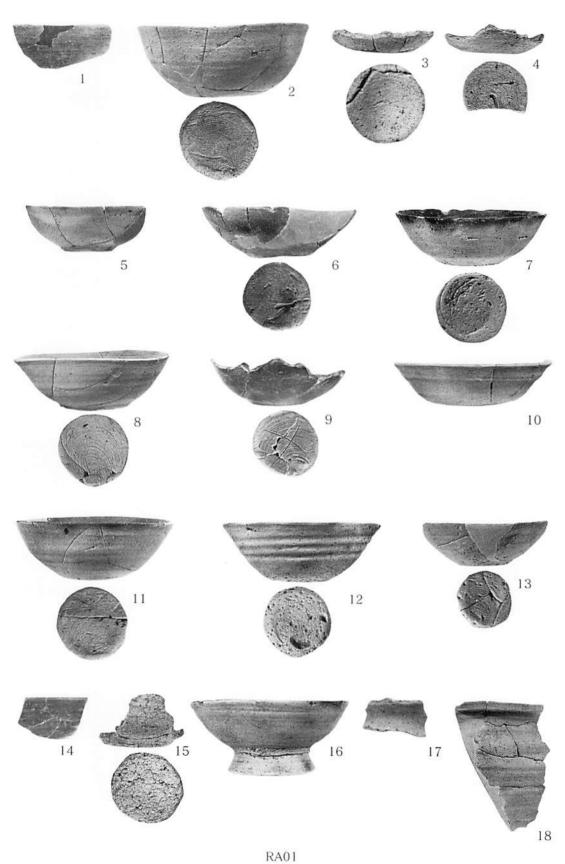
RG17 断面



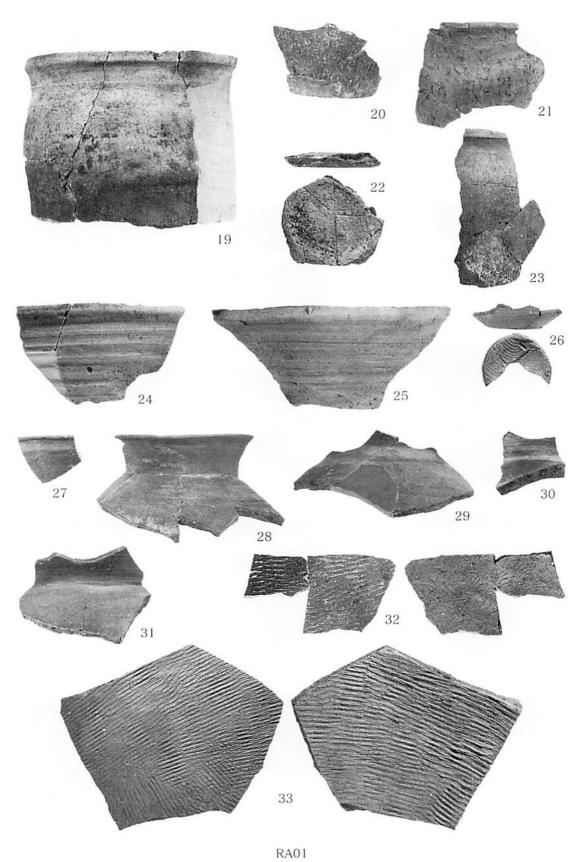
写真図版 25 RG16·17、柱穴状土坑



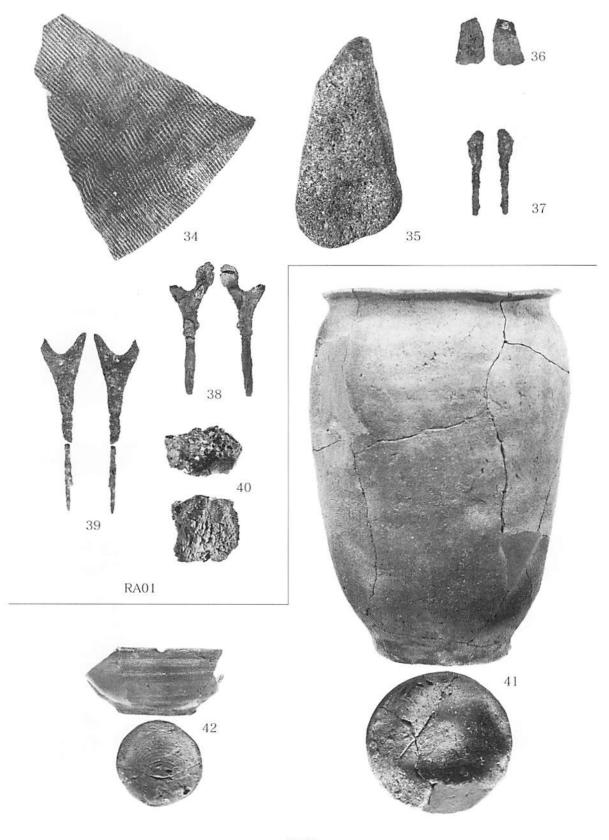
写真図版 26 出土遺物 (1)



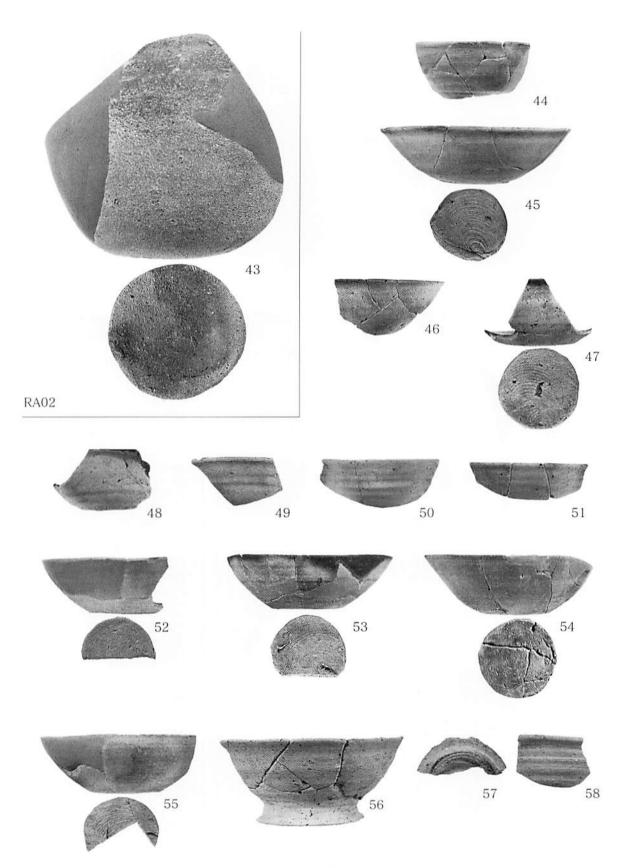
写真図版 27 出土遺物 (2)



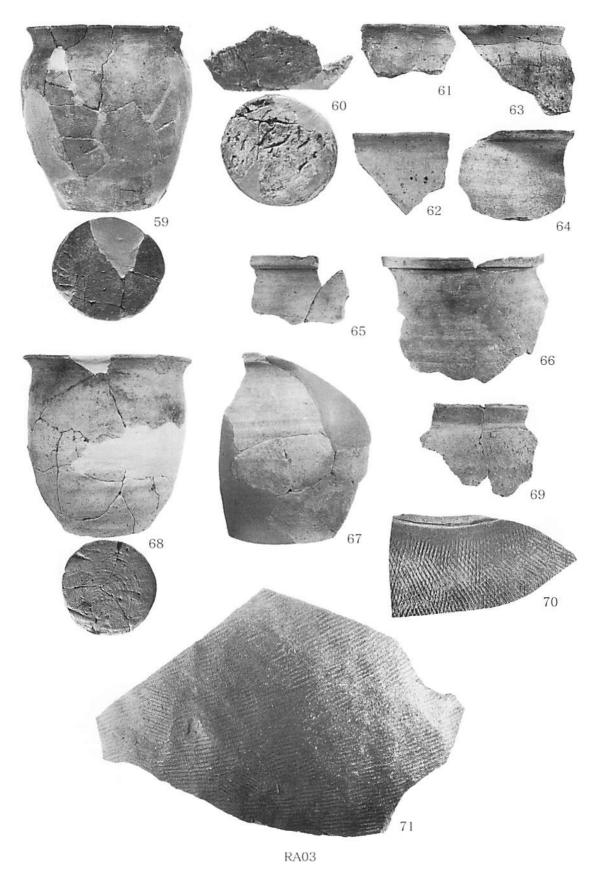
写真図版 28 出土遺物 (3)



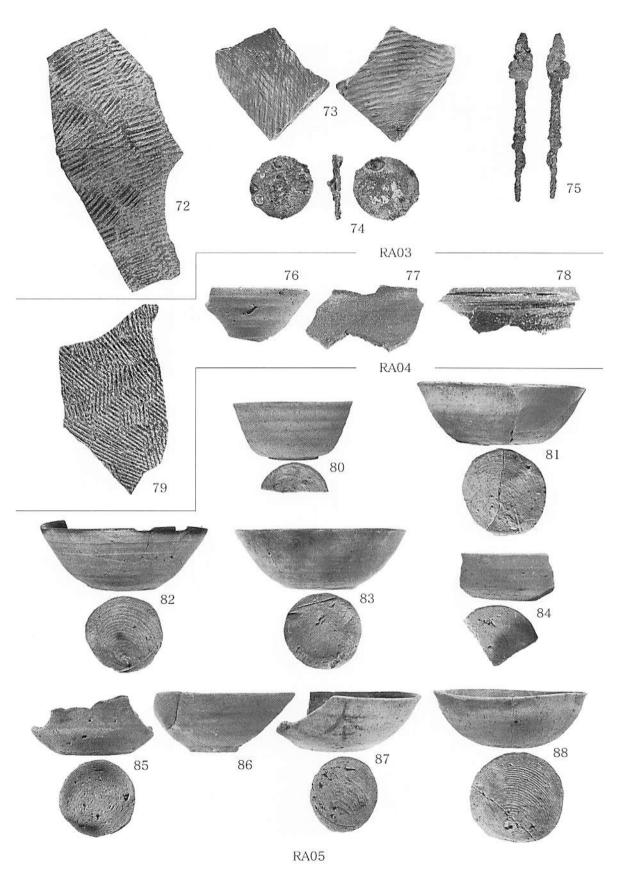
FA02 写真図版 29 出土遺物 (4)



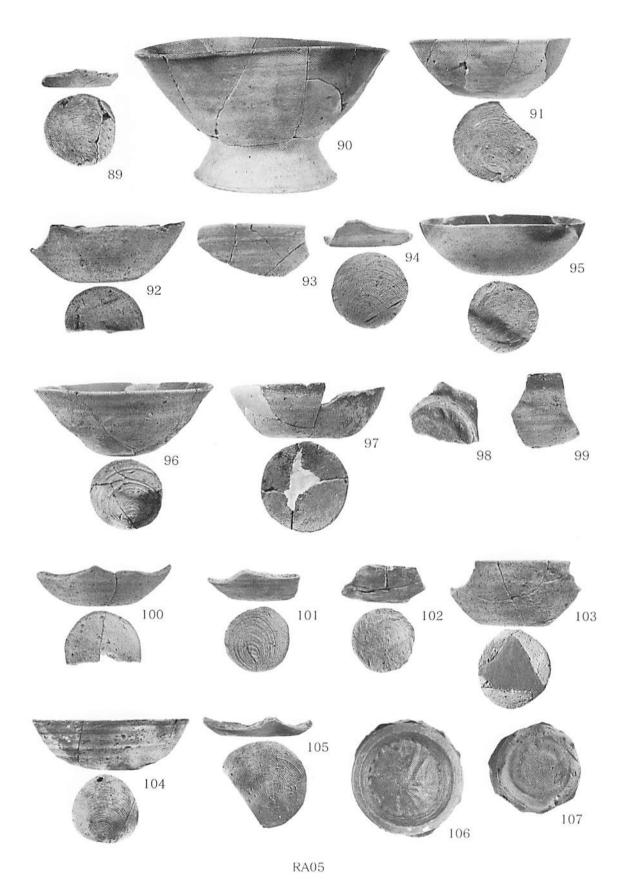
FA03 写真図版 30 出土遺物 (5)



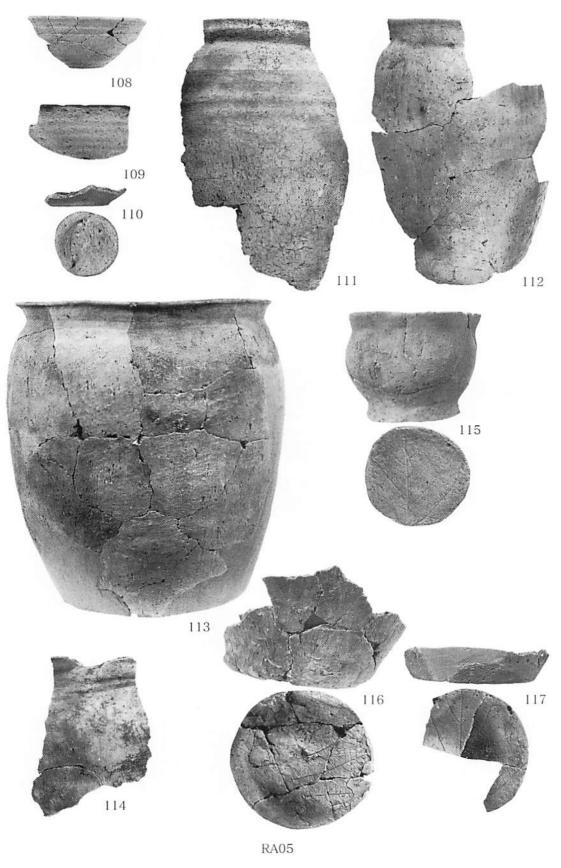
写真図版 31 出土遺物 (6)



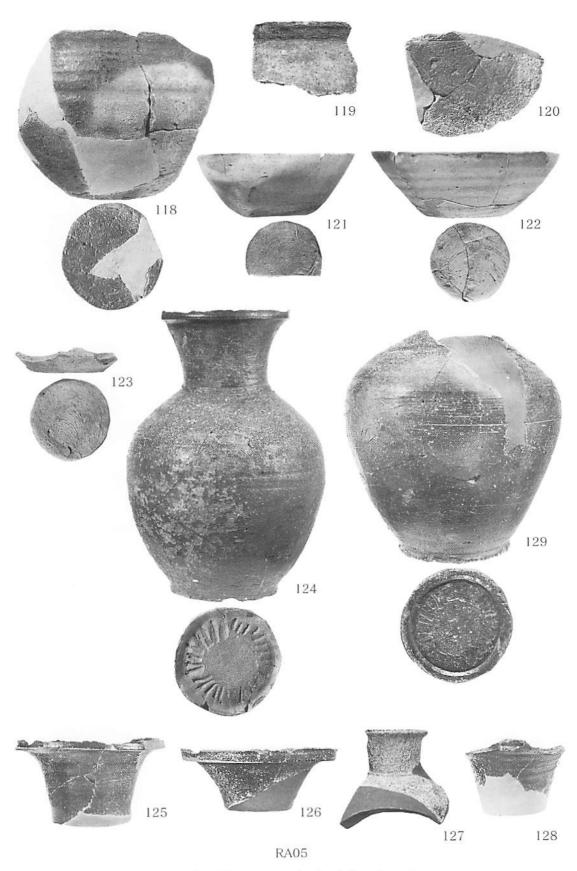
写真図版 32 出土遺物 (7)



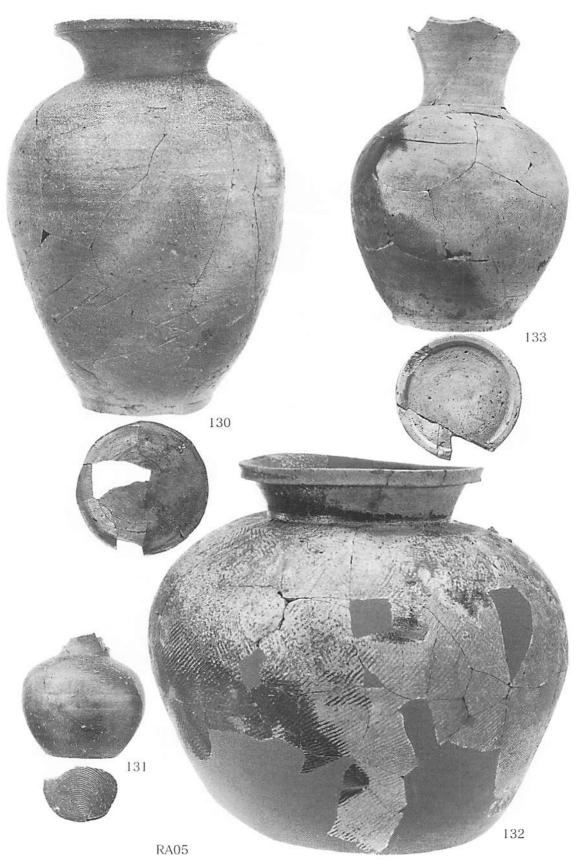
写真図版 33 出土遺物 (8)



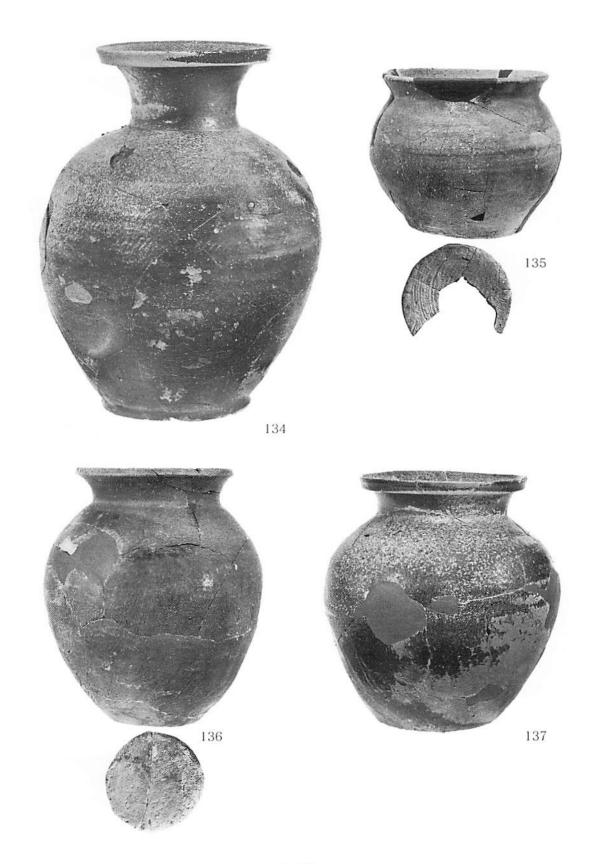
写真図版 34 出土遺物 (9)



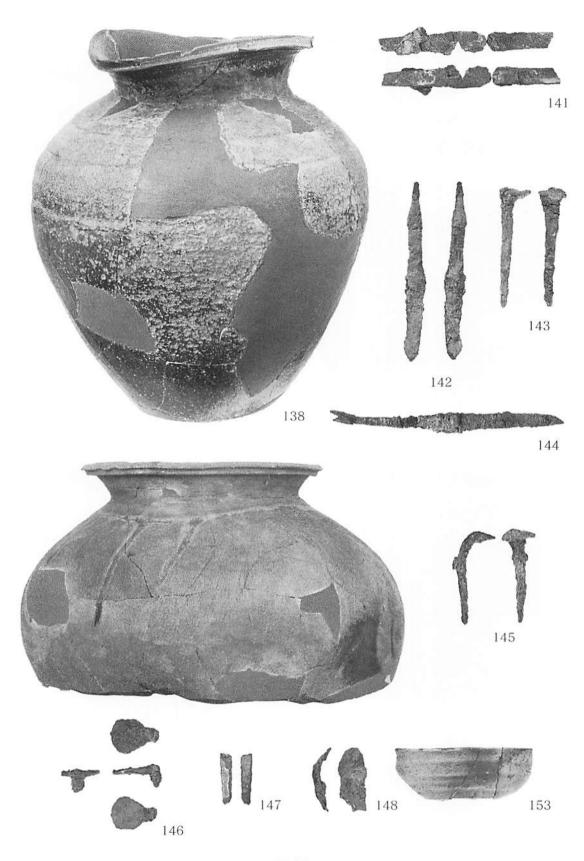
写真図版 35 出土遺物 (10)



写真図版 36 出土遺物 (11)



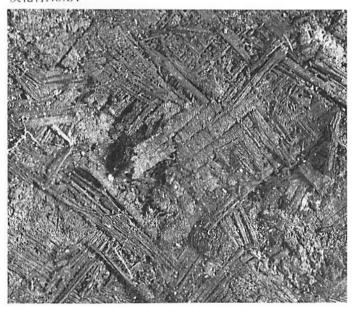
RA05 写真図版 37 出土遺物 (12)



FA05 写真図版 38 出土遺物 (13)



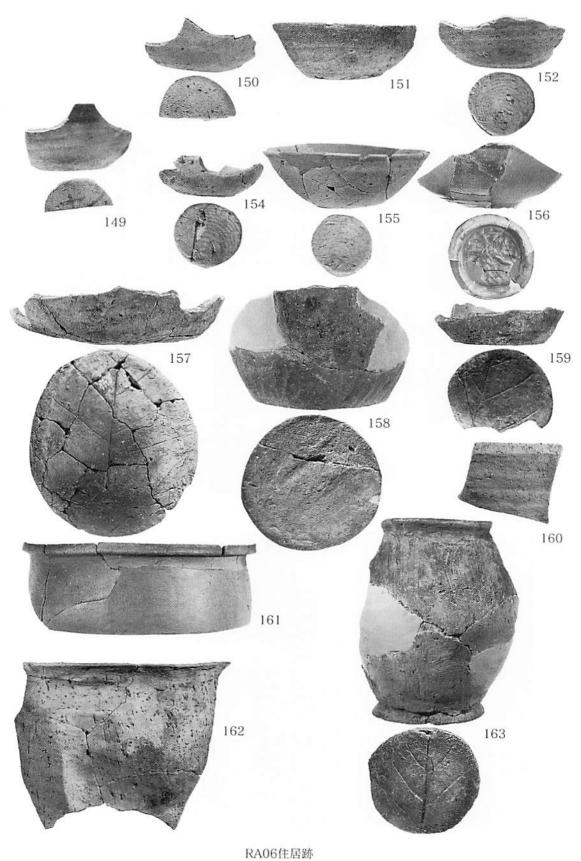
炭化材No.31



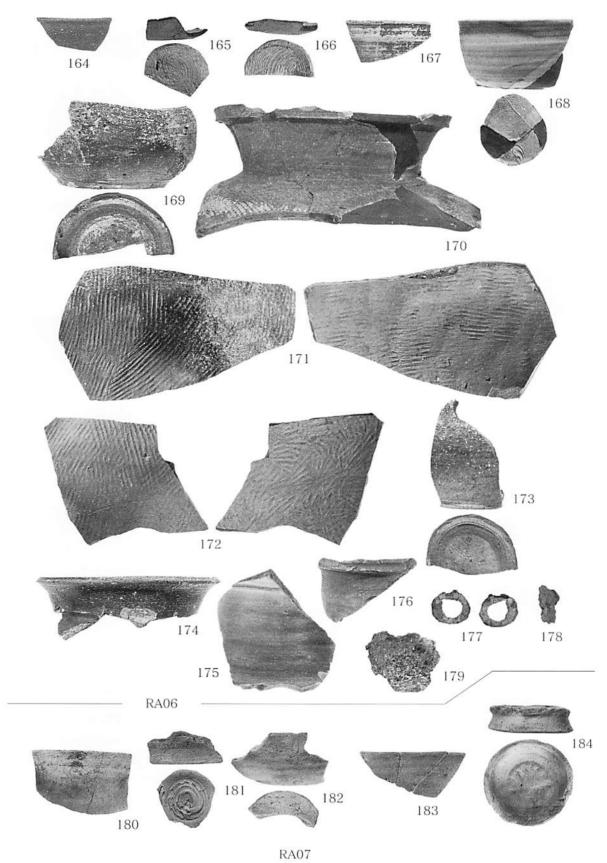


炭化材No.30

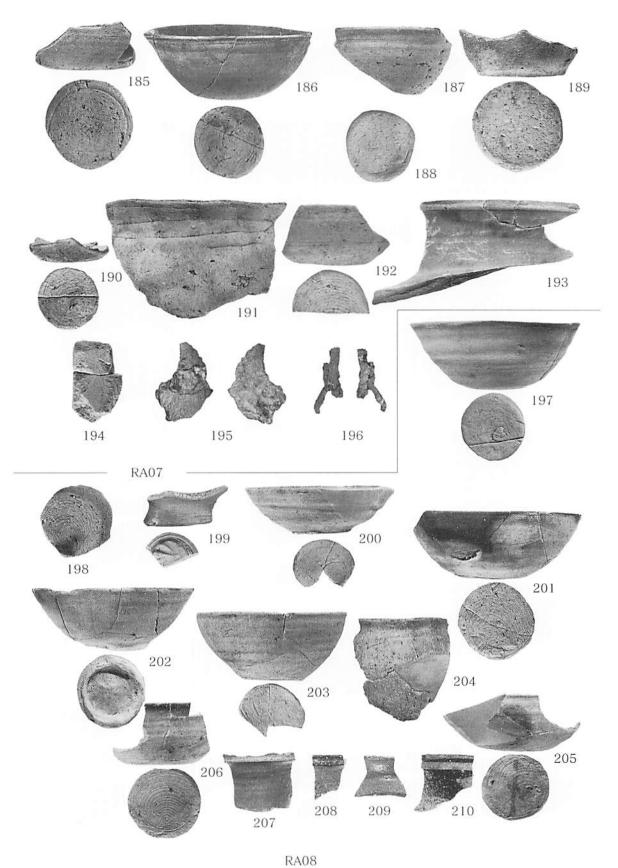
RA05 写真図版 39 出土遺物 (14)



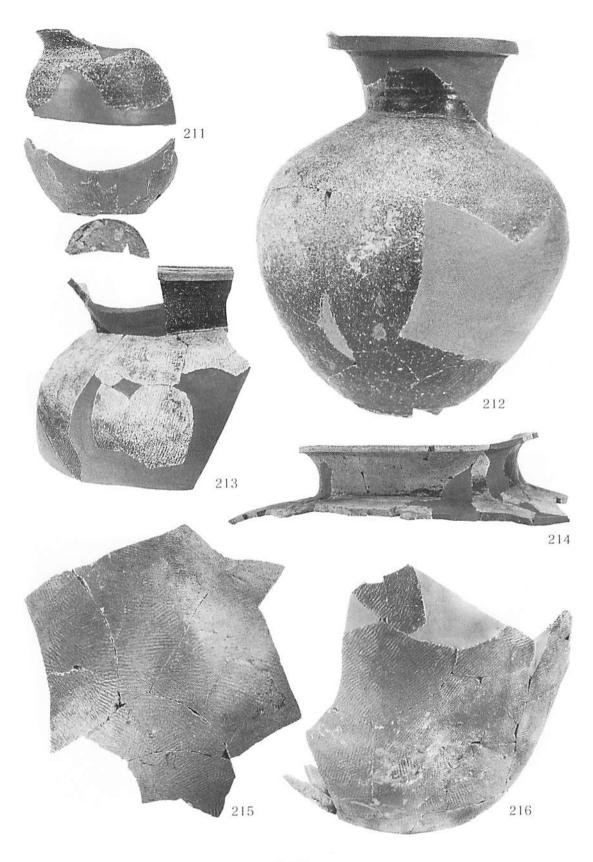
写真図版 40 出土遺物 (15)



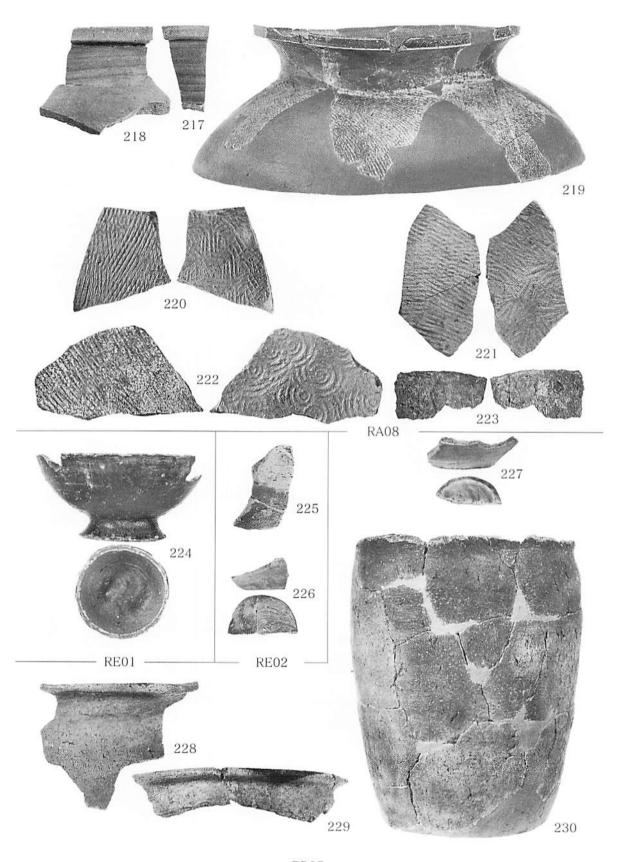
写真図版 41 出土遺物 (16)



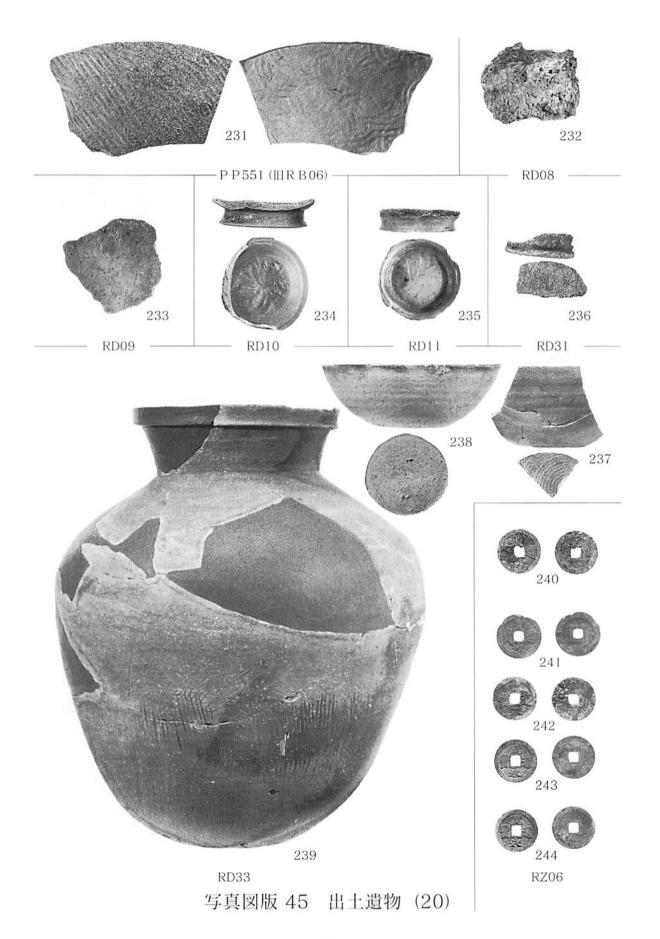
写真図版 42 出土遺物 (17)

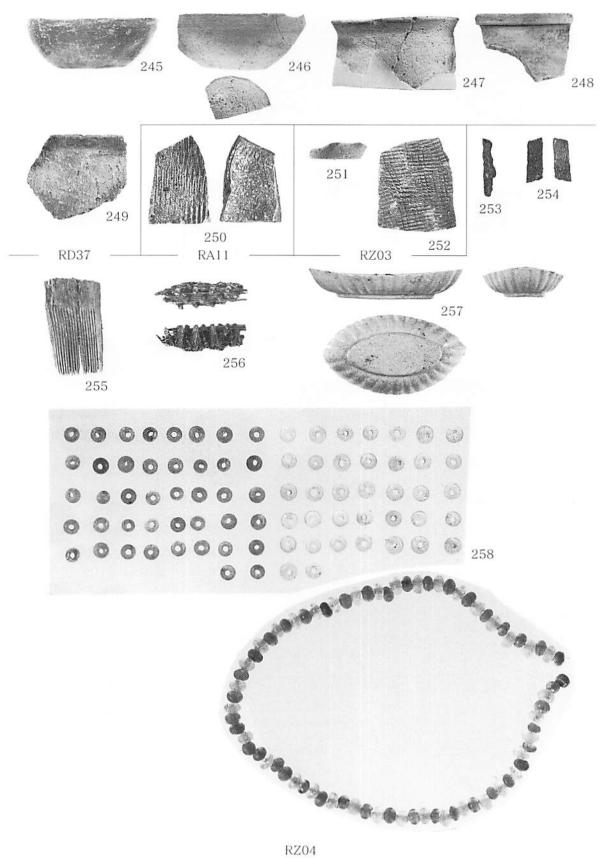


RA08 写真図版 43 出土遺物 (18)

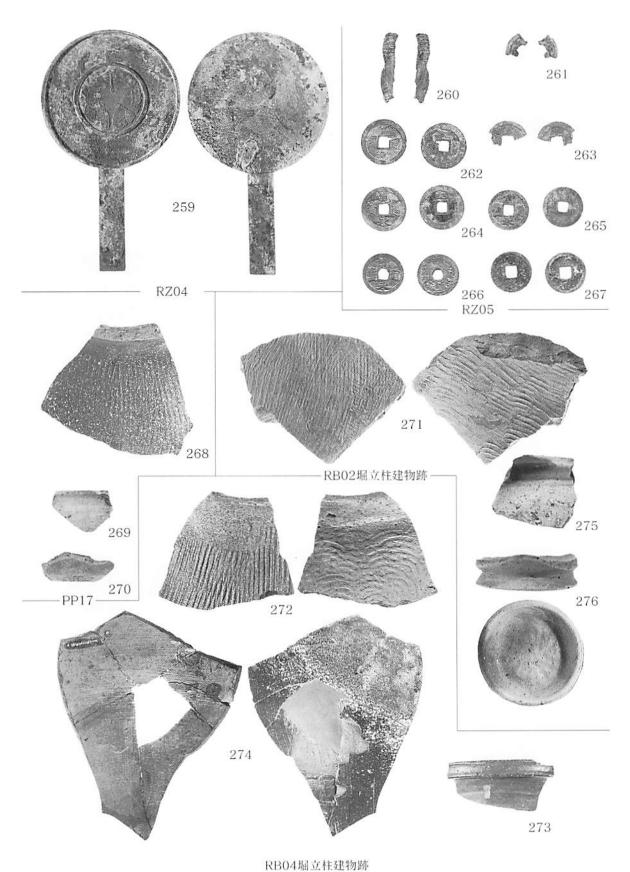


RB05 写真図版 44 出土遺物(19)

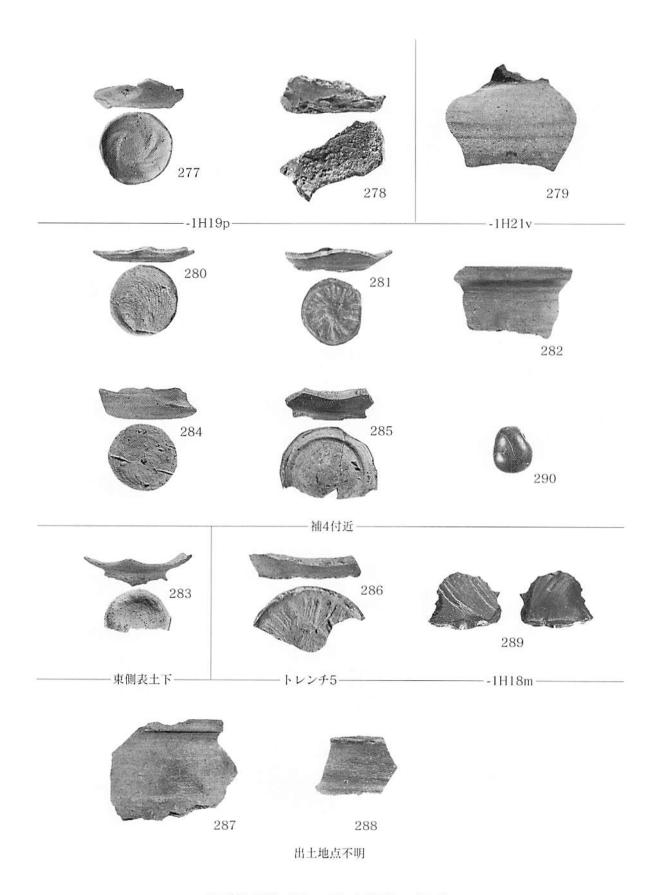




写真図版 46 出土遺物 (21)



写真図版 47 出土遺物 (22)



写真図版 48 出土遺物 (23)

報告書抄録

ふりがな	CH Statute	いかわいせきだい3	いけっくつもら	34143-7	1 5								
書 名													
副書名	飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書 盛岡南新都市開発整備事業関連発掘調査												
卷次	<u> </u>												
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書												
シリーズ番号	第393集												
編著者名	中田 迪·千葉正彦·高橋與右衛門·鈴木 聡·島原弘征												
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター												
所 在 地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL(019)638-9001												
発行年月日	四暦 2002年3月31日												
ふりがな	ふりかな	e 3.	- k	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
所収遺跡名	所 在	~	市町村」遺跡番号		不在	神田物門	10年1月15日 m ²	阙且 灰囚					
		1											
飯岡才川遺跡	盛岡市飯岡	r났 03501 LE	16-2291		141度 08分	20010717	1,582	盛岡南新都市					
だいさんじちょうさ	でん25わり110-					~		計画整備事業					
第3次調査	田2地割日	0-1			27秒	20011129		(土地区画整理					
								事業)					
所収遺跡名	種別	主な時代	にな時代 主			主な遺物	#	寺記事項					
			竪穴住居跡		8	平安時代	平安時代9世紀前~後期						
			竪穴状造		4	土師器	の集落遺跡であるが、こ						
			掘立柱廷		4	須恵器		は志波城成立期					
			上坑		23	鉄製品	の一般集	落の状況が不明					
			陥し穴状	遺構	2		な中での	中での該期の集落例と					
	災落跡	平安時代	池状遺幕	ļ.	1		して貴重。 また、須思器の袋物を						
飯岡才川遺跡 第3次調査			溝跡		8								
			円形周辺	4	2		大脈に出土し、掘立柱建						
							物跡が4根	物跡が4棟検出等、これま					
							での該期	の集落例と趣を					
					1		異にする。						
							近世の上坡幕が検出さ						
	墓域		土壙墓		3	近世							
		近世				貨幣		ては一部に墓域					
						柄鏡	カザネ任した 	た可能性がある。					
						その他							
							L						

平成13年度(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	伊	滕	凤	पी	副所長	崮	橋	Œ	後
[管理課]									
管理課長	Œ	沢	īE.	五	嘱 託	高	橋	燳	雄
管理課長補佐	:IL:	崎	善	光	## 11 C		々木	光	重
月生冰文丽以.		岸	直	羌		加	、 藤		代子
	山		-		"	湯			
主 査	立	花	3911	芯	"	(5)	沢	邦	子
[調査第一課]					[調査第二課]				
調査第一課長	佐々	木		肦	調査第二課長	髙	橋見	机右轴	<u>fā</u> i [ii]
調査第一課長補佐	佐々		清	文	調査第二課長補佐	中	ÜĮ.	重	紀
#413.47 pp.22 mm.	高	橋	義	介	文化財専門員	金	子		明子
文化財専門員	小山		42	透	文化財調査員	阿	部	真	XX
文化財調查員	1 t	H		迪	人们的副赶员	飯	坂	9¢	ift.
人 (C)的 帧 EL只	飯		秀	文	"	阿	部		徹
	赤	森	79		"	濱	田田		宏
<i>"</i>		石田		货			藤	ılı ş	
<i>"</i>	古	H		充	<i>"</i>	安		J±1 7	紀夫
<i>#</i>	LCT.			二郎	<i>#</i>	高 H-	木	24.50	晃
<i>!!</i>	小	原	真		<i>"</i>	佐	藤	淳	• -1,
"	佐々		信		"	显	het 2	雅	之
11	小笠		挺-	一郎	н	营	原	蛸	男
"	金	邺		進	n	半	澤	ĮĹ,	彦
"	小	松	벬	(1)	<i>II</i>	杉	沢		太郎
<i>II</i>	岩	渕		計	<i>II</i>	케			二郎
<i>II</i>	鳥	居	達	人	<i>!!</i>	中	村	直	美
! !	金	子	曜	彦	ll .	西	澤	īE.	哨
11	丬	柴	it't	人	lf .	八	木	朥	枝
11	千	华	正	彦	"	(阿	部	勝	則)
ll .	長	村	妃	稔					
#	星		\$	文					
11	佐	縢	あき	子					
11	菊	池	Щ	広					
"	村	Ŀ		拓					
11	本	多	郑 -	一郎					
"	木	村	•	敬					
"	北	村	忠						
 !!	高	瀬	克克	範					
 #	丸	Щ	浩	治					
 #	島	原	弘	征					
 #	中	村村	絵	美					
			弘	卓	期限付調在員	吉	Щ		徹
期限付調查員	小	林	74		男 殴门嗣FE員 #				
<i>"</i>	γT.	藤		敦		北	Ш	ш	熟
"	菊	池	<i>(</i> →	鬥	<i>"</i>		Ш	里	和
<i>II</i>	井	上	倡	介	"	原	plots		津子
#	Щ	X		晋	<i>"</i>	齋	藤		紀子
<i>!!</i>	占	[]]		山美	"	駒	木野	智	Ĺ
"	坂	部	泒	造					
H	木	村	ひが	いり					

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第393集

飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書

盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 印刷 平成14年3月20日

発行 平成14年3月25日

- 発 行 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 電話 (019)638-9001
- 印 刷 杜陵高速印刷株式会社 〒020-0811 盛岡市川日町23-2 TEL (019)651-2110
 - ⑥(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第393集 飯岡才川遺跡(3次)付図



